

ComponentAA開発標準

Method編シリーズ

ドキュメント標準編

(一般公開版)

富士通株式会社
PMO・SI技術統括部 SDAS推進部
2004年5月19日 1.0a 版

変更履歴

版数	変更種別	作成日	担当者	承認者	変更箇所	変更概要	変更理由
0.9	新規	2004/1/13	川開、田幡 他				
1.0	変更	2004/4/27	川開、田幡 他		SA01、SA02	業務プロセスおよびフロー図の考え方を整理。	
					UI01	ユースケースの整理、統合を行うためのドキュメントと位置づけ、SA工程からUI工程へ移動。	
					UI02	ユースケースの仕様に関するドキュメントを集約。	
					UI13 (UI02-3、UI02-9、UI07、SS20)	データタイプの導入。	
					UI07, UI11, UI13, UI14, UI16	記述要領の強化。	
					UI16, SS17, SS18	ドキュメント名称の変更。	
					SS12, SS13, SS14	バッチ関連ドキュメントの変更。	
					ST01, OT01	新規追加。	
1.0a	変更	2004/5/19	川開、田幡 他		1.1 工程定義	「ユースケース」の定義を精密化。 不要な用語定義の削除。	
					1.3ドキュメント一覧	「UI14 コード定義」を「保守用ドキュメント」に変更。 「UI16 業務サービス仕様」を「エンドユーザ承認ドキュメント」の対象外化、「保守用ドキュメント」の対象外化。 参照ドキュメントを最新化。	
					1.4 設計ドキュメントのブレイクダウン構造	1.5項のPERT図および第2章の内容に合わせて訂正。	
					1.5 工程別ドキュメントPERT図(バッチ)	「SS13 ジョブフロー図」を「運用カテゴリ」から「業務機能設計カテゴリ」へ変更。	
					1.6 作業フロー図	1.5項のPERT図および第2章の内容に合わせて訂正。	

变更履歴

[illegible]

はじめに

本書の目的

本書は、業務システムの開発、テスト作業における、各工程別の作業内容の明確化、作業効率化および工程別品質確保を目的として、各工程別の設計、テスト仕様ドキュメントの記述要領、記述例を提供する。

対象読者

プロジェクト管理者、業務開発チームリーダー、担当者
および分析、設計、テスト作業の標準化を規定する標準化チーム要員。

プロジェクトへの適用方法

本書を基に、各プロジェクトにおいて、開発規模、プロジェクト特性に応じた採用ドキュメント種類の選択およびドキュメント内容のカスタマイズを行い適用する。

本版数では、Servlet-EJBのアプリ構成を中心としている。アプレットやCOBOLでのアプリ構成に適用する場合、特にSS工程のドキュメントについて、見直しを行う必要がある。

今後のエンハンス予定項目

ComponentAA開発標準の見直しに伴い順次改版予定。

目次

1. 開発標準	1	2.2 UI工程ドキュメント	38
1.1 工程定義	2	UI01 ユースケース一覧	39
1.2 工程別ファイリング体系図	3	UI02 ユースケース機能記述	42
1.3 ドキュメント一覧	4	UI03 画面一覧	85
1.4 設計ドキュメントのブレークダウン構造	8	UI04 帳票一覧	87
1.5 工程別ドキュメントPERT図	10	UI05 テーブル関連図	89
1.6 作業フロー図(例)	12	UI06 テーブル一覧	91
1.7 ユースケースを軸とした ドキュメント管理体系図	15	UI07 テーブル/ファイル定義	93
2. 工程別ドキュメントの記述要領、記述例	16	UI08 ユースケース・テーブルマトリクス	96
2.1 SA工程ドキュメント	17	UI09 テーブル状態遷移	98
SA01 業務要件定義	18	UI10 システム間インタフェース一覧	101
SA02 業務機能概要定義	20	UI11 システム間インタフェース定義	103
SA03 業務運用要件	28	UI12 業務メッセージ定義	106
SA04 システム間インタフェース概要	30	UI13 データタイプ定義	108
SA05 概念ER図	32	UI14 コード定義	111
SA06 ユースケース・エンティティマトリクス	34	UI15 シナリオ記述	113
SA07 業務用語定義	36	UI16 業務サービス仕様	116

目次

2.3 SS工程ドキュメント	119	2.4 PS工程ドキュメント	163
SS01 ユースケース機能構成	120	PS01 Webハンドラロジック定義	164
SS02 画面遷移定義	124	PS02 CBSハンドラロジック定義	166
SS03 Webハンドラー一覧	126	PS03 バッチロジック定義	168
SS04 JSP一覧	128		
SS05 CBSハンドラー一覧	130	2.5 PG/PT工程ドキュメント	170
SS06 Msgスキーマ一覧	132	PT01 プログラムテスト仕様書兼成績書	171
SS07 Msgスキーマ定義	134		
SS08 CBM一覧	136	2.6 IT工程ドキュメント	176
SS09 CBM機能定義	138	IT01 結合テスト仕様書兼成績書	177
SS10 SQLFacility一覧	140		
SS11 SQLFacility定義	142	2.7 ST工程ドキュメント	183
SS12 ジョブネット構成図	144	ST01 システムテスト仕様書兼成績書	184
SS13 ジョブフロー図	146		
SS14 ジョブネット一覧	148	2.8 OT工程ドキュメント	190
SS15 バッチプログラム一覧	150	OT01 運用テスト仕様書兼成績書	191
SS16 システム内メッセージ定義	152		
SS17 業務共通機能一覧	154	付録 変更履歴(記述要領と書式)	197
SS18 業務共通機能定義	156		
SS19 ファイル一覧	158		
SS20 ファイル項目定義	160		

1. 開発標準



工程				
SA	UI	SS	PS	PG
システム要件定義	ユーザインターフェイス設計	システム構造設計	プログラム構造設計	プログラミング

既存業務

SA

UI

SS

PS

PG

設計工程

工程			
PT	IT	ST	OT
プログラムテスト	結合テスト	システムテスト	運用テスト

人とコンピュータシステムで業務を実現

OT

ST

IT

PT

テスト工程

作業内容	
SA	要件の分析を行いシステム化対象範囲を決定するとともに、人・ものも含めた業務全体の実運用として整理する。
UI	システム化する業務機能をユースケースに細分化し、その外部仕様およびユースケース間のインタフェースを規定する。ユースケースについて業務の観点から詳細を設計し仕様書として記述する。（画面、帳票、機能、ファイル項目など）
SS	上記を実現するためのプログラムを規定し、各プログラムの外部仕様とメッセージインタフェースを設計する。
PS	プログラムの構造を設計し、機能を詳細化する。
PG	プログラミングを行い、コンパイル完了まで行なう。

作業内容	
OT	実運用に則した仮運用を行ない、業務システム機能に問題がないことを確認する。（システム要件定義書ベース）
ST	システム要件仕様及び業務システム仕様を保証していることをマシンテストにより確認する。
IT	ユースケース単体およびユースケース間の結合、外部システムとの結合を通じて、業務機能詳細仕様を保証していることをマシンテストにより確認する。
PT	プログラムテスト仕様に従ってテストを実施し、品質を検証する。

システム要件定義

品質保証

業務システム仕様定義

品質保証

仕様定義

品質保証

検証 (テスト項目)

検証 (テスト項目)

検証 (テスト項目)

用語の定義

用語	定義
ユースケース	利用者が開始し、その利用者にとって業務的に意味のある目的を完了するまでのプロセス。（＝取引、手続き）
プログラム	業務アプリの実装を行う上での開発単位。Javaでは複数のクラスと各種実装の定義（JSPやDD定義等）で構成される。COBOL言語の場合は、コンパイルの単位となる。
モジュール	プログラムを論理的に分割した構成要素。

1.2 工程別ファイリング体系図(注)

工程(*2) カテゴリ(*1)		SA	UI	SS	PS	PG	PT	IT	ST	OT
業務	業務要件定義	システム要件定義書								
アプリケーション システム仕様 / 業務システム仕様	業務機能設計		業務システム仕様書	アプリケーション構造設計書	プログラム設計書	プログラム	プログラムテスト仕様書兼成績書	結合テスト仕様書兼成績書	システムテスト仕様書兼成績書	運用テスト仕様書兼成績書
	画面設計									
	帳票設計									
	メッセージ設計									
	システム間 インタフェース設計									
	DB/ファイル設計									
	データタイプ/ コード設計									
	業務共通機能 設計									
業務基盤 業務方式			アプリケーション 処理方式 設計書	アプリケーション 処理方式 詳細設計書						
開発支援		設計規約・ガイド	テスト計画書	開発 規約・ ガイド						
インフラ		システム 要件定義書	システム 方式設計書							
運用			運用設計書							
移行			移行・展開 計画書							
プロジェクト 管理		プロジェクト 計画書	プロジェクト 運営計画書							

(注) : 各ファイルを構成するドキュメントについては、1.3項 ドキュメント一覧を参照して下さい。

(*1)カテゴリ: システム開発作業の分類。

(*2)工程 : システム開発作業の順序。

1.3 ドキュメント一覧

ファイル名	No	工程	ドキュメントコード	ドキュメント名	記述目的	記述単位	必須ドキュメント	原審承認		保守用ドキュメント
								情報システム部門	エンドユーザ	
システム要件定義書	1	SA	SA01	業務要件定義	課題としての業務要件と新システムでの対策としてのシステム化要件を具体化し、システム化要件に対応して、システムから見た実現手段をまとめる。	業務全体				
	2		SA02	業務機能概要定義	システム化要件に対応して、システム化する範囲や対象を明確にする。 また、人間系を含めた新業務システムの設計を行い、「業務とコンピュータの接点」、「コンピュータのサービス機能の単位」および「サービス機能の概要」を確定する。	業務全体				
	3		SA03	業務運用要件	稼動システムの業務運用要件(運用性、性能、信頼性、セキュリティ、拡張性、移行など)を明確にする。	システム				
	4		SA04	システム間インタフェース概要	各サブシステムにおける外部システムおよび他サブシステムとの連携に必要なインタフェースを定義する。	システム				
	5		SA05	概念ER図	エンティティとエンティティ間の関連を分析し、データ面から業務の構造を明確にする。	システム				
	6		SA06	ユースケース・エンティティマトリクス	ユースケース一覧と概念データモデルで洗い出されたエンティティの関係を整理し、機能とデータの整合性を検証する。	システム				
	7		SA07	業務用語定義	用語を定義しあいまいさを排除する。また、共通機能を導出する情報源とする。	業務全体				
業務システム仕様書	8	UI	UI01	ユースケース一覧	「SA02 業務機能概要定義」で洗い出された「ユースケース」を整理、統合し、その結果を一覧形式にまとめる。	システム				
	9		UI02	ユースケース機能記述	利用者が開始し、その利用者にとって業務的に意味のある目的を完了するまでのプロセスであるユースケースの業務処理機能の詳細を定義する。	ユースケース				
			UI02-1	オンライン機能概要 ー画面遷移図	「ユースケース機能記述(オンライン機能概要 - 画面遷移図)」の書式を使用してユースケース単位に、以下の定義を行う。 ・オンライン機能概要 ・画面遷移図	ユースケース				
			UI02-2	画面レイアウト定義	「ユースケース機能記述(画面レイアウト定義)」の書式を使用して、ユースケース内の画面単位に、画面レイアウトの定義を行う。	ユースケース内の画面				
			UI02-3	画面項目定義	「ユースケース機能記述(画面項目定義)」の書式を使用して、ユースケース内の画面単位に、画面項目属性の内、原則として業務ロジックによる変更が無い属性の定義を行う。	ユースケース内の画面				
			UI02-4	アクション総括記述 ー処理フロー	「ユースケース機能記述(アクション総括記述 - 処理フロー)」の書式を使用してユースケース内の画面毎のアクション単位に、アクション処理の総括記述、アクション内の処理フローを記述する。	アクション				
			UI02-5	アクション定義 ー遷移元画面チェック定義	「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)」の書式を使用して、「アクション」単位に、以下の定義を行う。 1)入力項目間の関連チェック定義およびエラー処理定義 2)入力項目とテーブル項目の関連チェック定義およびエラー処理定義 3)アクション固有の単項目チェック定義(値の範囲の変更など)およびエラー処理定義 4)チェックタイミング定義 5)状態遷移チェックと状態遷移定義およびエラー処理定義 6)インタフェースデータのチェック定義およびエラー処理定義	アクション				
			UI02-6	アクション定義 ー遷移先画面表示定義	「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移先画面表示定義)」の書式を使用して、アクション処理終了後の遷移先画面のデータ表示仕様定義を行う。	アクション				
			UI02-7	バッチ機能概要 ー処理フロー	「ユースケース機能記述(バッチ機能概要 - 処理フロー)」の書式を使用してユースケース単位に、以下の定義を行う。 ・バッチ機能概要 ・処理フロー	ユースケース				
			UI02-8	バッチ総括記述	「ユースケース機能記述(バッチ総括記述)」の書式を使用してユースケース単位に、バッチ処理の総括記述する。	ユースケース				
			UI02-9	帳票レイアウト定義	「ユースケース機能記述(帳票レイアウト定義)」の書式を使用してユースケース内の帳票単位に、帳票レイアウトの定義を行う。	帳票				
			UI02-10	帳票項目定義	「ユースケース機能記述(帳票項目定義)」の書式を使用してユースケース内の帳票単位に、帳票項目の定義を行う。	帳票				
			UI02-11	出力データ処理定義	テーブル更新、ファイル更新および帳票編集・出力に伴う業務ロジックを「ユースケース機能記述(出力データ処理定義)」の書式で定義する。	帳票/テーブル/ファイル				
			UI02-12	入力データ処理定義	テーブル入力、ファイル入力に伴う業務ロジック(入力データチェック、データ判定、演算処理等)を「ユースケース機能記述(入力データ処理定義)」の書式で定義する。	帳票/テーブル/ファイル				
	10		UI03	画面一覧	システムで使用する画面の種類を整理し、全体量を把握する。また、資産の管理に用いる。	システム				
	11		UI04	帳票一覧	システムで使用する帳票の種類を整理し、全体量を把握する。また、資産の管理に用いる。	システム				
	12		UI05	テーブル関連図	テーブル間の関連を分析し、データ面から業務の構造を明確にする。	システム				
	13		UI06	テーブル一覧	システムで扱うテーブルの種類を一覧として整理し、全体量を把握することを目的とする。	システム				

ファイル名	No	工程	ドキュメントコード	ドキュメント名	記述目的	記述単位	必須ドキュメント	顧客承認		保守用ドキュメント
								情報システム部門	エンドユーザ	
業務システム仕様書	14		UI07	テーブル/ファイル定義	テーブル/ファイルの詳細仕様を記述し、業務設計の入力情報とする。 テーブル/ファイル毎にテーブル仕様/ファイル仕様を作成する。	テーブル				
	15		UI08	ユースケース・テーブルマトリクス	ユースケースと概念データモデルで洗い出されたテーブルの関係を整理し、機能とデータの整合性を検証する。	システム				
	16		UI09	テーブル状態遷移	各テーブルの状態情報を持つデータ項目単位で、状態遷移が複雑な場合等必要に応じて、テーブル状態遷移規則の設計を実施する。	テーブル				
	17		UI10	システム間インタフェース一覧	外部システムおよび他サブシステムとのインタフェースとなるファイル、電文の一覧を記述する。	システム				
	18		UI11	システム間インタフェース定義	外部システムおよび他サブシステムとのインタフェースとなるファイル、電文のデータ項目、属性などを定義する。	インタフェース				
	19		UI12	業務メッセージ定義	業務メッセージを定義する。全システムにおける業務メッセージを一元管理し、同内容の業務メッセージが複数存在しないように管理する。	システム				
	20		UI13	データタイプ定義	業務で使用されるデータ項目の内、型や桁数値の範囲が同じデータ項目群を洗い出し、システム内で統一する。					
	21		UI14	コード定義	コードについて、目的、構成要素、およびコードの構成要素毎の値と意味等を明確にする。	コード項目				
	22		UI15	シナリオ記述	ユースケースの具体的な場面を場合分けして記述し、業務ロジック定義を検証する。 基本系(プライマリーシナリオ)と例外系(セカンダリーシナリオ)を想定して確認する。 例外例をできるだけ記述することにより、ユースケースの業務ロジック定義の検証を可能にする。	ユースケース				
	23		UI16	業務サービス仕様	UI工程の業務システム仕様をユースケース単位でなく、サブシステム単位等の、まとめた範囲で顧客レビューを実施する為の業務仕様説明補充ドキュメントの作成。	システム				
アプリケーション構造設計書	24	SS	SS01	ユースケース機能構成	ユースケースを開発要素単位に分割して、構成要素として明確にする。	ユースケース				
	25		SS02	画面遷移定義	Webハンドラ単位に、登録・変更・参照・削除などメソッドの洗い出し、また、画面遷移・画面のアクション等を契機にどのWebハンドラメソッドが呼び出されるか関連を明確にする。	Webハンドラ (ユースケース)				
	26		SS03	Webハンドラー一覧	作成するWebハンドラを一覧として管理する。	システムまたは サブシステム				
	27		SS04	JSP一覧	画面一覧上の論理的な画面単位を、実装単位としてのJSP一覧としてまとめる。また、各JSPが使用するDataBeanを明確にする。	システムまたは サブシステム				
	28		SS05	CBSハンドラー一覧	CBSハンドラを一覧として洗い出し、CBSとして束ねる。	CBSBean				
	29		SS06	Msgスキーマ一覧	作成するMsgスキーマを一覧として管理し、その用途(使用箇所)を明確にする。 なお、CBMと1:1で定義されるCBMMsgについては記載しない。	サブシステム				
	30		SS07	Msgスキーマ定義	各Msgスキーマが持つ項目を明確にする。	CBSMsg				
	31		SS08	CBM一覧	作成するCBMを一覧として管理する。また、従属するEntityの関係を明示する。	システムまたは サブシステム				
	32		SS09	CBM機能定義	CBMが持つ機能を明確にする。 CBM標準として自動生成されるメソッドやCBMMsgの項目に対し、追加して実装するものを記述する。	CBM				
	33		SS10	SQLFacility一覧	作成するSQLFacilityを一覧として管理する。	システムまたは サブシステム				
	34		SS11	SQLFacility定義	SQLFacilityが行うテーブル操作の内容(SQL文の構成)を明確にする。	CBSハンドラ CBM				
	35		SS12	ジョブネット構成図	ジョブネットを構成するジョブとジョブの関連を明確にする。なお、作成単位は「ジョブネット」とする。	ジョブ及びジョブネット				
	36		SS13	ジョブフロー図	運用を考慮したバッチジョブを明確にする。ジョブ内のプログラムの流れ及び処理サイクル、起動条件、機能概要を明確にする。	ユースケース				
	37		SS14	ジョブネット一覧	バッチ処理におけるジョブネットとジョブを一覧として管理し、起動されるバッチプログラムについても明確にする。	システムまたは サブシステム				
	38		SS15	バッチプログラム一覧	サブシステム内で使用するバッチプログラムを一覧で管理する。業務共通部品・システム共通部品・DBアクセス部品は共通部品一覧で管理するため、バッチプログラム一覧へは記述しない。	バッチ処理プロセス				
	39		SS16	システム内メッセージ定義	必要となるシステムメッセージ(業務メッセージ以外)を定義し、メッセージIDを設定する。 また、全システムにおけるメッセージを一元管理し、同内容のメッセージが複数存在しないように管理する。	システムまたは サブシステム				
	40		SS17	業務共通機能一覧	作成する業務共通機能を洗い出し一覧に整理するとともに、業務共通部品・システム共通部品などの切り分けを行う。	システムまたは サブシステム				
	41		SS18	業務共通機能定義	業務間、サブシステム間で用いる共通部品で必要な操作(メソッド)を明確にし、メソッド毎に必要な引き渡す情報・結果の情報を定義する。 実際の各部品のAPIは、PS工程以降に詳細設計され、JavaDocとしてドキュメント化される。本ドキュメントでは、各部品の機能概要としての位置付け。	業務共通機能				
	42		SS19	ファイル一覧	システム内で使用する全てのファイル(一時ファイルや外部設定ファイルを含む)を洗い出し、ファイルの情報を一覧にする。 当ドキュメントは、システムによっては存在しない場合もあるため、必要に応じて作成する。	システムまたは サブシステム				
	43		SS20	ファイル項目定義	対象ファイル(プログラム間で使用する一時ファイルなど)の項目属性・桁数などを明確にする。 当ドキュメントは、システムによっては存在しない場合もあるため、必要に応じて作成する	ファイル				

ファイル名	No	工程	ドキュメントコード	ドキュメント名	記述目的	記述単位	必須ドキュメント	顧客承認		保守用ドキュメント
								情報システム部門	エンドユーザ	
プロジェクト設計書	44	PS	PS01	Webハンドラロジック定義	Webハンドラ単位にアクション毎の業務ロジックを定義し、呼び出すCBSハンドラ、メソッドを明確にする。	Webハンドラ(ユースケースのクライアント部)				
	45		PS02	CBSハンドラロジック定義	CBSハンドラに実装するメソッドと処理内容、また処理による入出力を明確にする。	CBSハンドラ(ユースケースのサーバ部)				
	46		PS03	バッチロジック定義	バッチアプリで実装する処理ロジックを定義する。 併せて入出力先テーブルとテーブルアクセスに使用する共通部品の間係を明確にする。	バッチジョブ(ユースケース)				
*	47	PT	PT01	プログラムテスト仕様書兼成績書	テスト項目もれを事前に防止し、品質の向上を図る。	プログラム				
*	48	IT	IT01	結合テスト仕様書兼成績書	ユースケース単位、ユースケース間、外部インターフェイス間のテスト項目を明確にし、テストもれを防止し、品質の向上を図る。	ユースケースまたはテスト単位				
*	49	ST	ST01	システムテスト仕様書兼成績書	システムの機能、性能、信頼性、運用性、セキュリティ等を検証するため、必要なテストケースを設定し、「システムテスト実行計画書」に対応したシステムテスト仕様書兼成績書を作成する。	システム				
*	50	OT	OT01	運用テスト仕様書兼成績書	利用者による人間系を含めた新業務システムの仮運用によるシステム機能、性能、信頼性、運用性、セキュリティ等の妥当性確認(システム化要件、業務運用要件との整合性確認)および利用者、運用担当者の習熟、業務マニュアル、運用マニュアルの確認等の為、必要なテストケースを設定し「運用テスト実行計画書」に対応した運用テスト仕様書兼成績書を作成する。	システム				
*	51	UI		アプリケーション処理方式設計書	アプリケーションの処理基盤(共通処理方式、DBインタフェース、文字コード体系、共通部品一覧など)を明確化する。	システム				
*	52	SS	(未稿)	アプリケーション処理方式詳細設計書	アプリケーション処理方式設計書に基づき、業務アプリとのインタフェースまで詳細化する。	システム				
システム定義書	53	SA		システム要件定義書	運用設計、移行・展開に必要な要件を定義する。	システム				
	54			システム基本設計書	ハードウェア構成、基本ソフトウェア構成、システム方式、外部インターフェイス、信頼性、セキュリティ、性能に関する要件を定義する。	システム				
*	55	UI		システム方式設計書	ハードやミドルウェア等のシステム基盤(システム構成、ネットワーク構成、システム方式、外部インタフェース、信頼性設計、セキュリティ、性能設計など)を明確化する。	システム				
運用設計書	56	UI	(未稿)	業務運用設計書	業務的観点から運用のシステム運用の仕組みを設計する。	システム				
	57			システム運用設計書	システムの効率、利便性、安全性を考慮した、システム運用の仕組みを設計する。	システム				
*	58	UI	(未稿)	移行・展開計画書	移行・展開を行える仕組みを設計する。	システム				
設計規約・ガイド	59	SA		画面設計規約	画面設計についての規約を定める。	システム				
	60			帳票設計規約	帳票設計についての規約を定める。	システム				
	61			データベース設計規約(論理設計)	データベース設計(論理設計)の規約を定める。	システム				
	62	UI		命名規約	システムを構成するソフトウェア要素、ハードウェア要素についての命名方法を定める。	システム				
	63		(未稿)	メッセージ規約	業務、システムのメッセージの規約を定める。	システム				
	64			設計ガイド	設計(オンラインアプリ、バッチ)の方法をガイドする。	システム				
	65			開発環境設計書	工程別の設計、開発、テスト、移行の環境を定める。	システム				
テスト計画書	66	UI		全体テスト計画書	各テストについて、実施するテストの範囲と内容を明確にする、必要なテストの資産、環境、作業を洗い出す。	システム				
	67	SS		システムテスト実行計画書	全体テスト計画書に基づき、システムテストの詳細計画を策定する。	システム				
	68			運用テスト実行計画書	全体テスト計画書に基づき、運用テストの詳細計画を策定する。	システム				
開発規約・ガイド	69	SS		PT手順書	PT工程の手順を作成する。	システム				
	70			IT1手順書	IT1工程の手順を作成する。	システム				
	71			開発ガイド	開発(オンラインアプリ、バッチ)の方法をガイドする。	システム				
	72			コーディング規約	各種言語(Java、COBOL、VB、C、SQL、Excelマクロ、シェル等)のコーディング規約を作成する。	システム				

ファイル名	No	工程	ドキュメント コード	ドキュメント名	記述目的	記述単位	必須 ドキュメント	顧客承認		保守用 ドキュメント
								情報 システム部門	エンドユーザ	
プロジェクト 計画書	73			プロジェクト概要	顧客の本来のシステム化の目的を明確にした上で、プロジェクトの概要を記載する。	システム				
	74			マスタースケジュール	作業項目を洗い出し、作業量の見積と開発体制の設定を行い、スケジュールに大きな影響を及ぼす事項を記述したマスタースケジュールを作成する。	システム				
	75			スコープ管理 (開発範囲、受託条件等)	スコープ(範囲/要件)を明確にし、その変更管理方法を定める	システム				
	76			リスク管理方式	発生する前に潜在的問題を確認し、目的達成を阻害する要因を緩和するための管理方法を定める。	システム				
	77			プロジェクト体制、会議体	顧客、富士通、協力会社の分担、要求スキルや経験を考慮して開発体制を明確化する。またプロジェクト運営を円滑に行うために会議体を設定する。	システム				
	78			工程完了判断基準	工程毎の最終段階で、次の工程に進むことが可能かどうかの判断(評価)を行い、問題がある場合は対策を立案するために各工程毎の完了判断基準を作成する。	システム				
プロジェクト 運営計画書	79			進捗管理実施要領	計画と実績をきちんと把握し、遅れ等に対して早めに手を打つことができるように、進捗管理を実施する。	システム				
	80			品質管理実施要領	作成したシステムの中身の質が見えるようにするために、品質管理を実施する。	システム				
	81			コスト管理実施要領	プロジェクトにおける実行が予算計画の枠内で収まることを確認するために、コスト管理を実施する。	システム				
	82			QA管理実施要領	コミュニケーションを確実に行うことにより、製品の品質を保证する有効な手段としてQA管理を実施する。	システム				
	83			課題・懸案管理実施要領	プロジェクトで発生した課題に対して、「対応漏れ防止」や「対応遅延防止」を目的に課題管理を行う。	システム				
	84			構成管理実施要領	さまざまな構成要素によって作られた極めて変更が容易なソフトウェアの構成を明確にする。	システム				
	85			故障管理実施要領	開発中に発生した故障(バグ)を正確に把握し、できるだけ早期に解決するため故障管理を実施する。	システム				

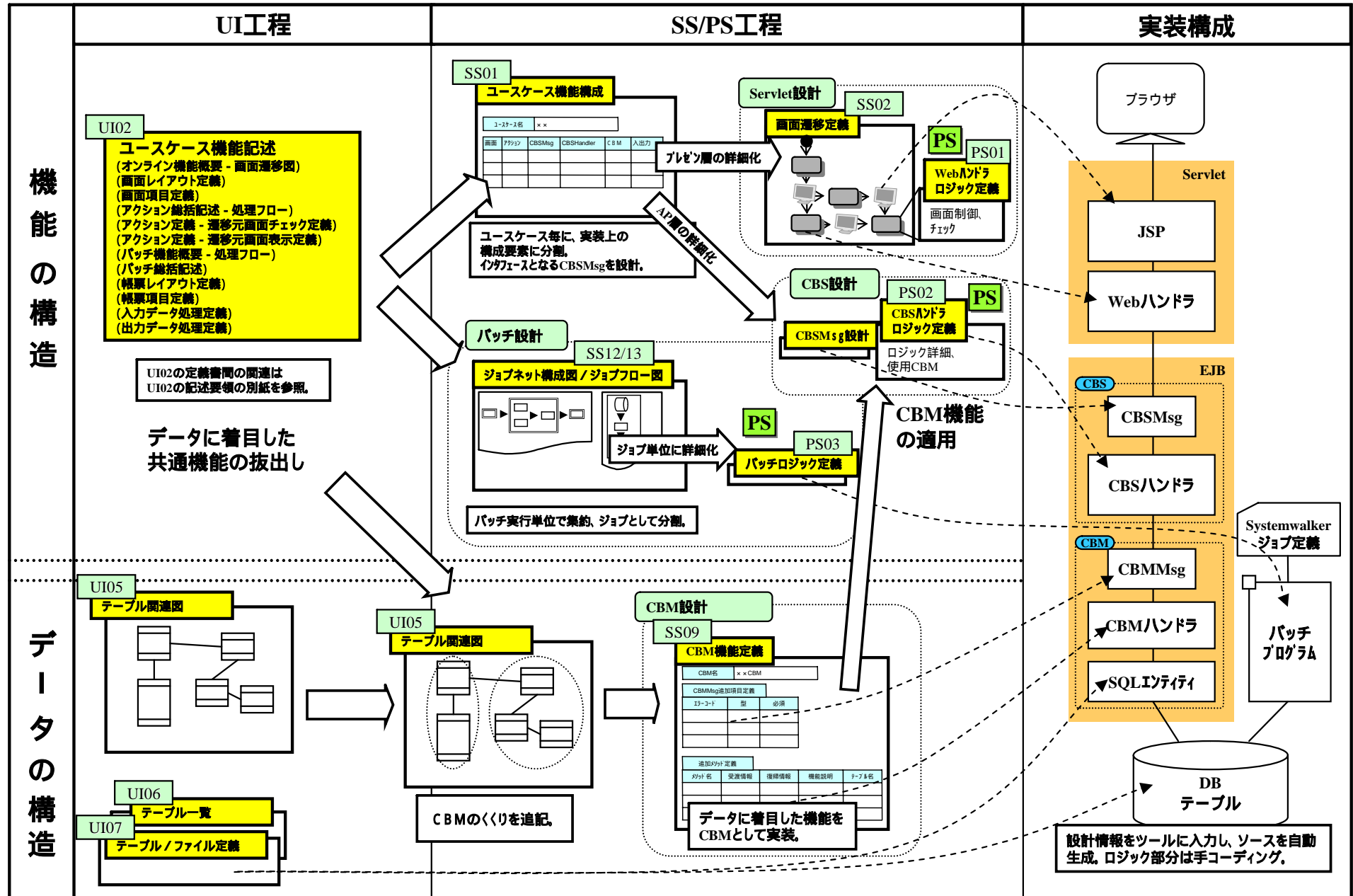
*1ドキュメントだけを含むファイルの名前はドキュメント名と同じとする。

機能とデータを、それぞれ相互の関係を検証しながら、ユースケースを軸とした設計を進める。

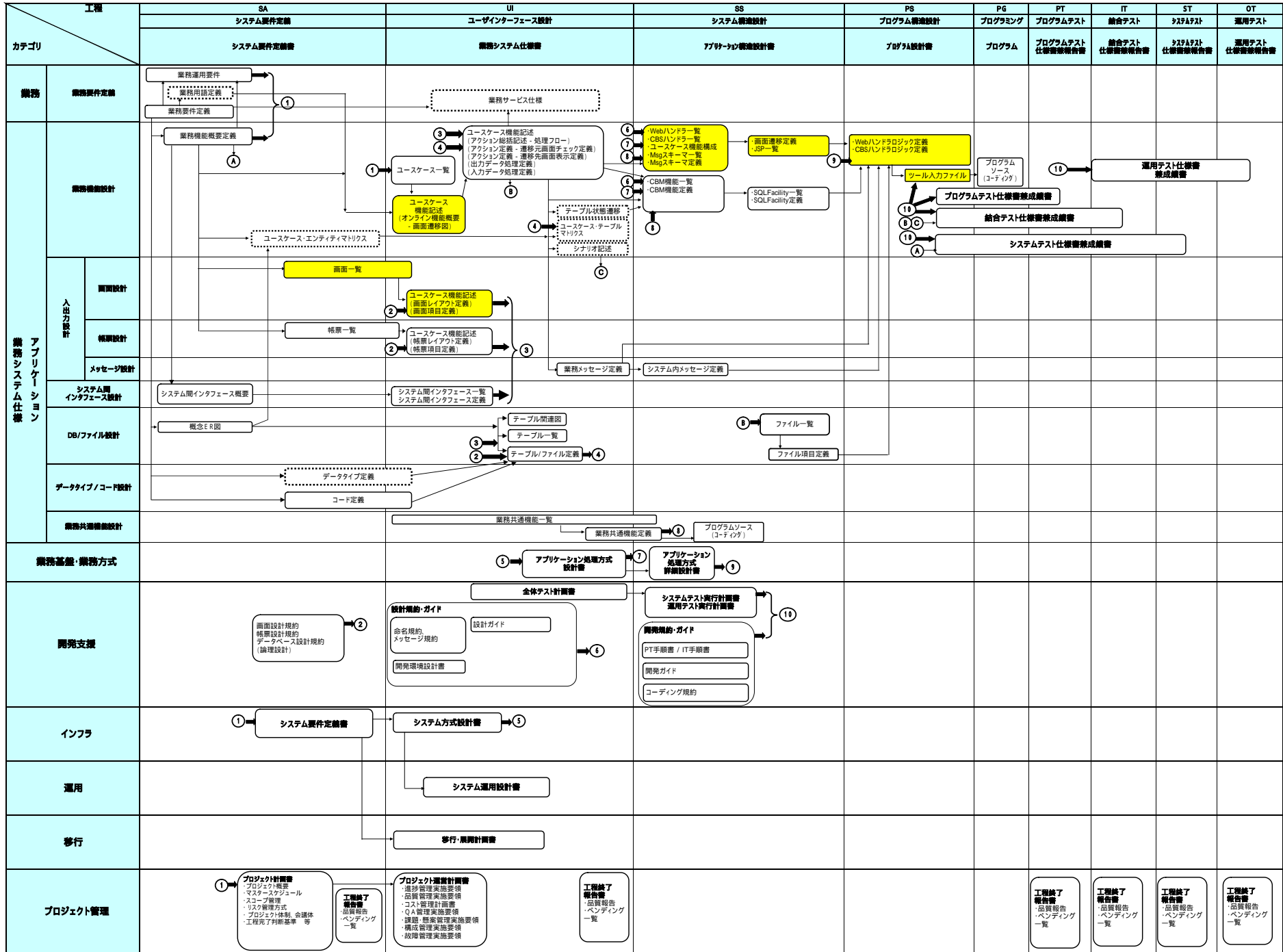


1.4 設計ドキュメントのブレイクダウン構造(SS / PS ~ 実装)

ユースケースを軸として、サーバー、クライアントのアプリ構造設計を進める。



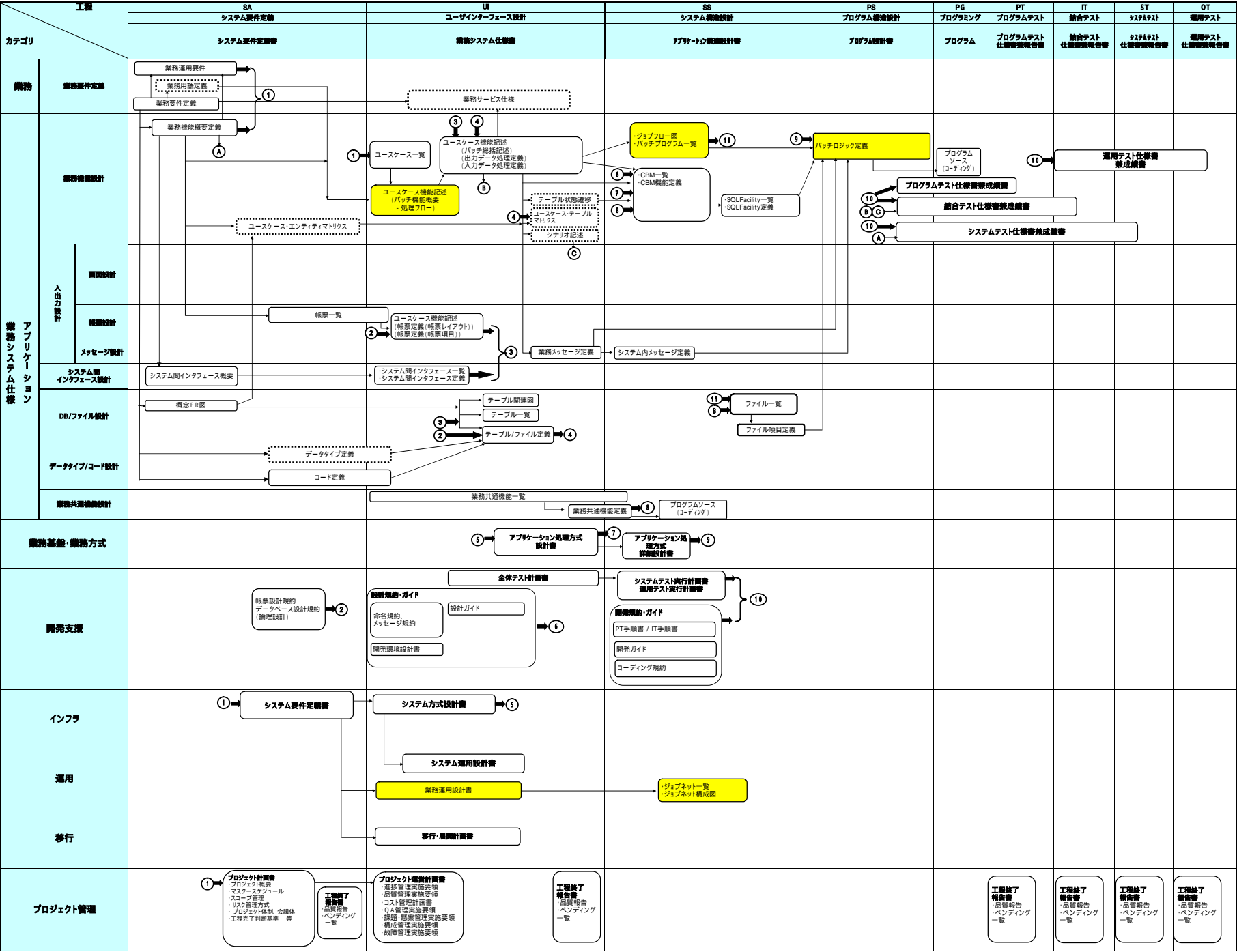
1.5 工程別ドキュメントPERT図(オンライン)



注1: [] は品質を高めるための補助ドキュメント。
注3: ⇒ は作業実施順序を守る必要があるクリティカルパスを示す。

注2: → は各ドキュメントの関連性を示す。
注4: 横がけは、オンラインのみのドキュメントを示す。 凡例: [] 画面一覧

1.5 工程別ドキュメントPERT図(パッチ)



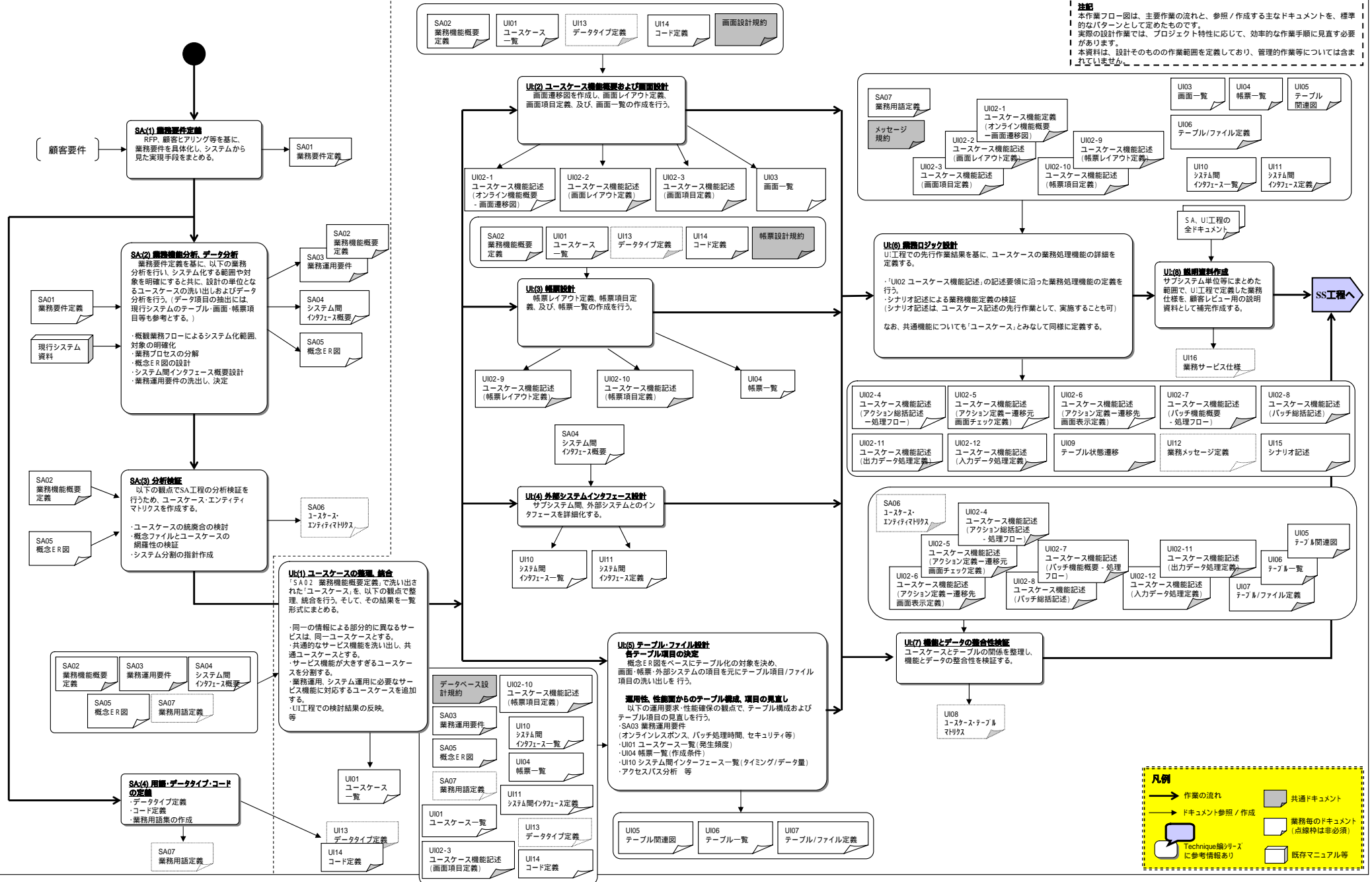
注1: ①は品質を高めるための補助ドキュメント。
注3: ⇒は作業実施順序を守る必要があるクリティカルパスを示す。

注2: →は各ドキュメントの関連性を示す。
注4: 網がけは、パッチのみのドキュメントを示す。 凡例: ジョブネット一覧

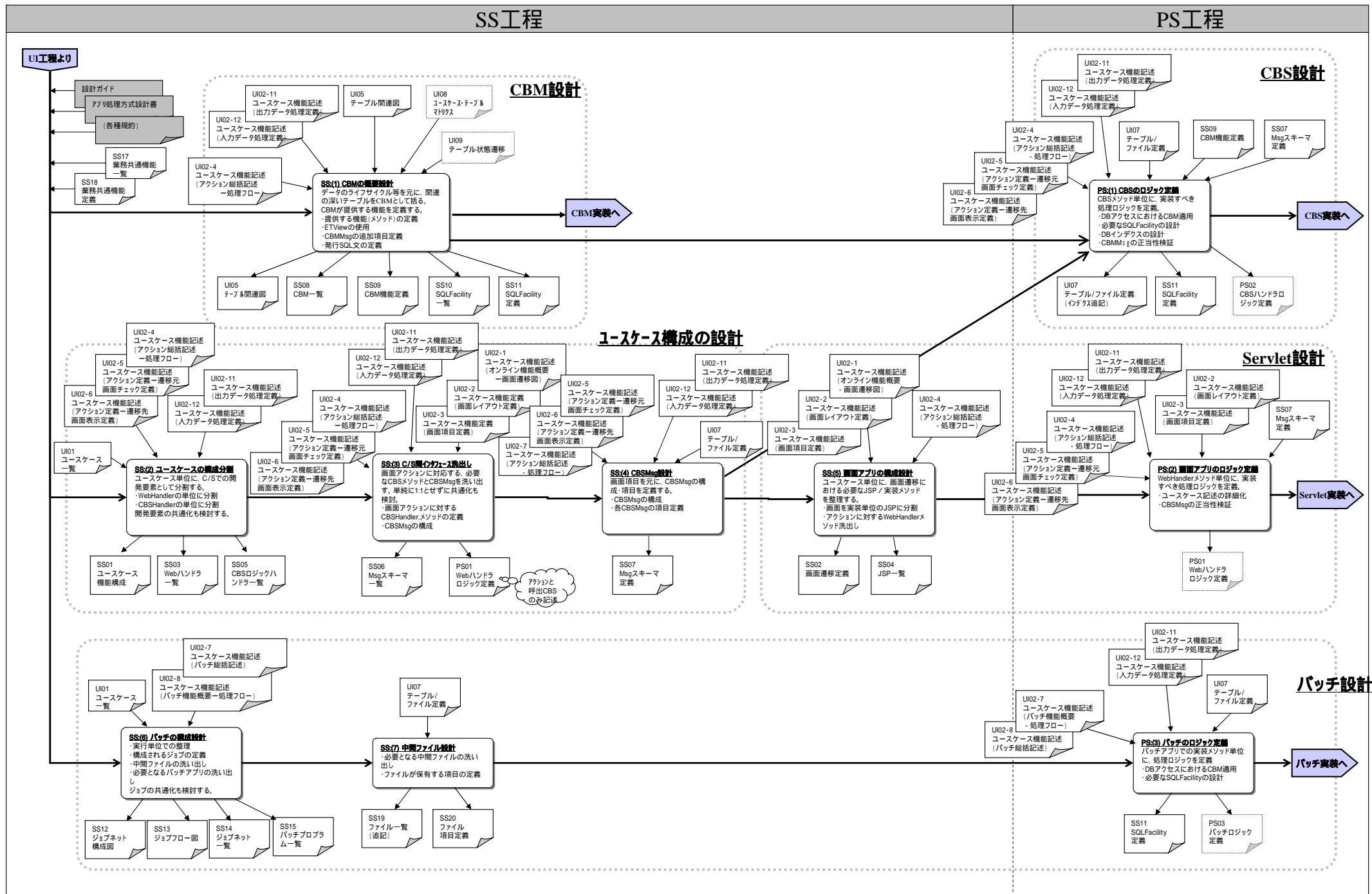
1.6 作業フロー図(例) [業務アプリ設計 1/2]

SA工程

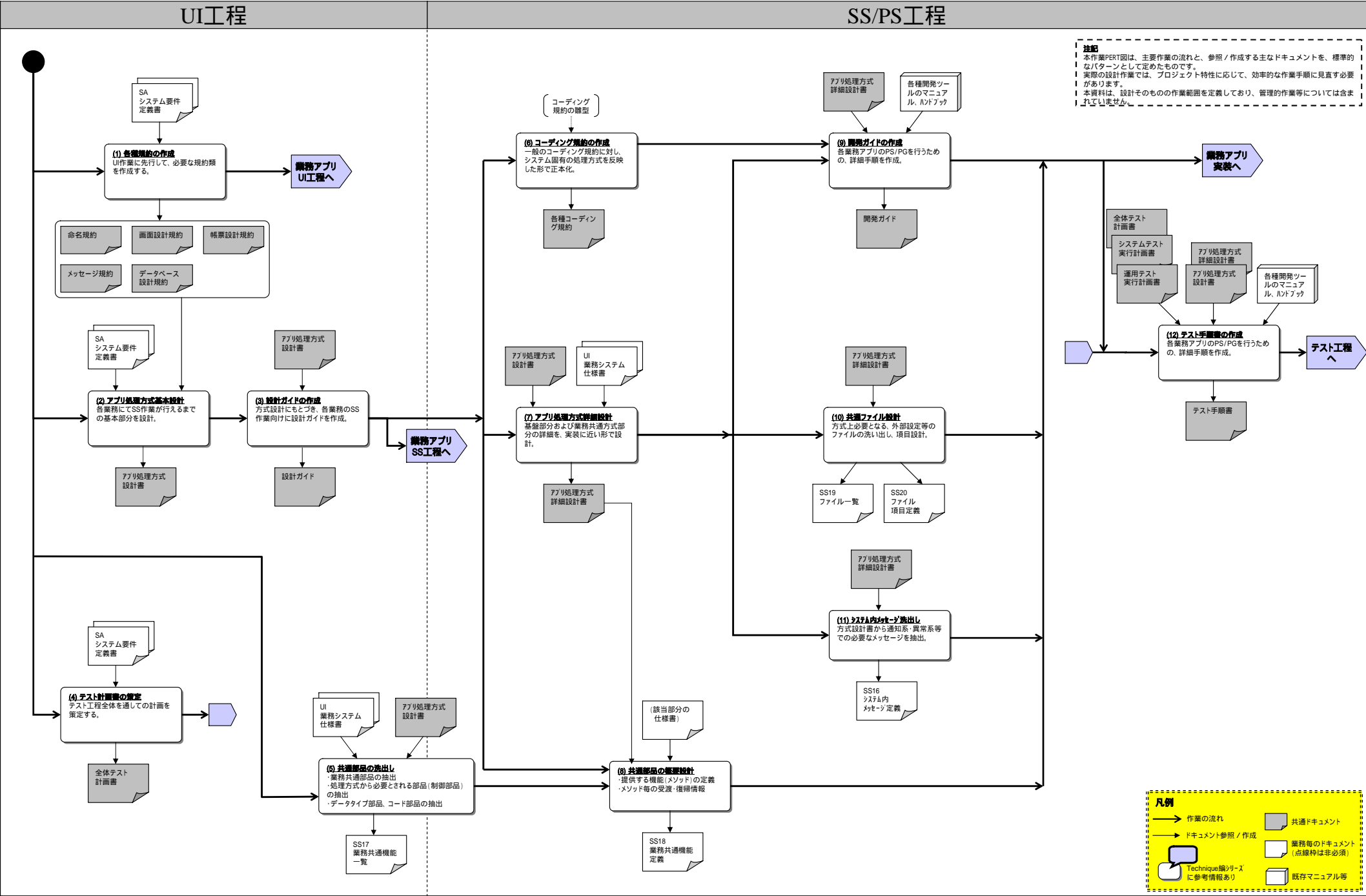
UI工程



1.6 作業フロー図(例)【業務アプリ設計 2/2】



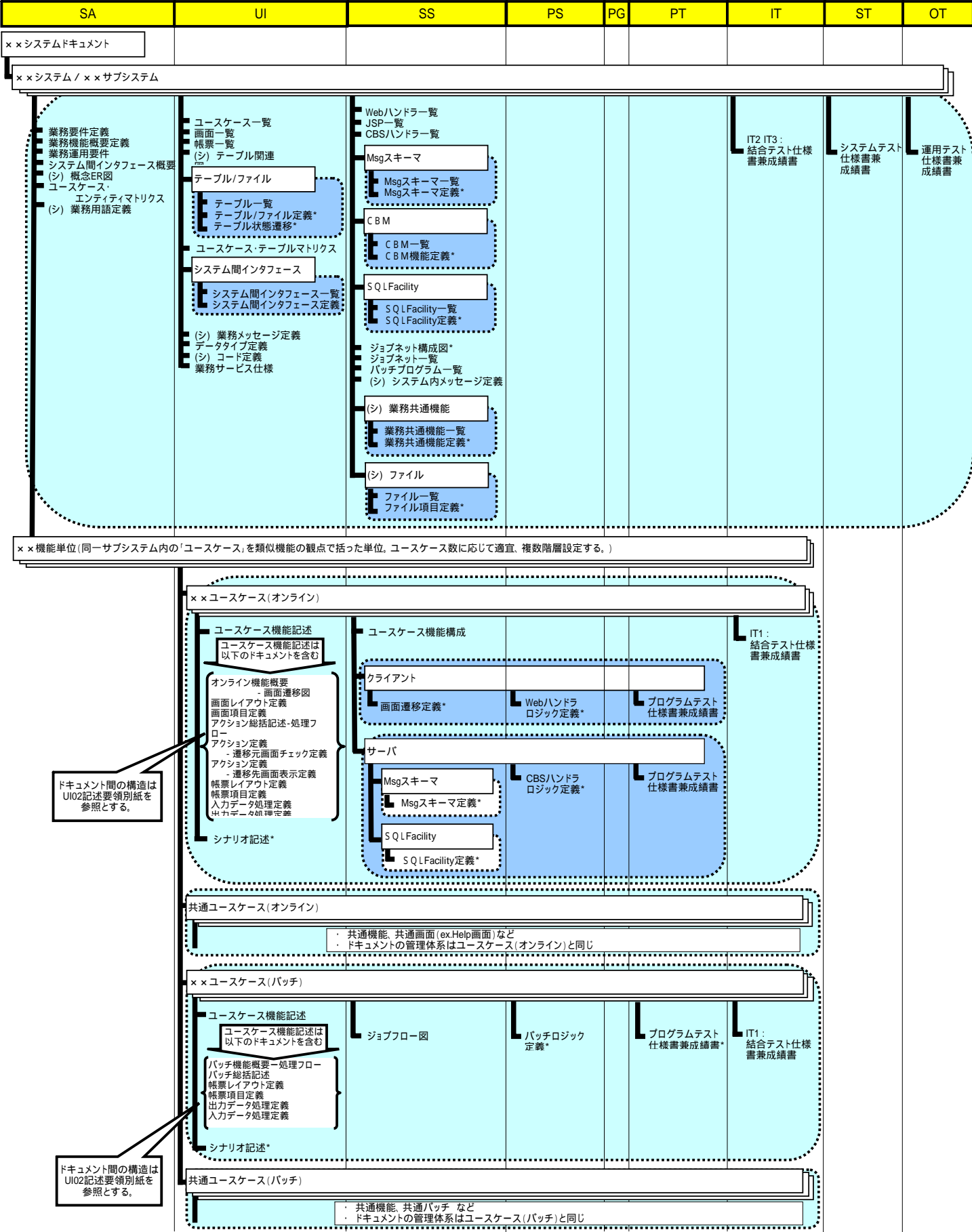
1.6 作業フロー図(例)【業務基盤・開発支援・業務アプリ共通の設計】



1.7 ユースケースを軸としたドキュメント管理体系図

工程毎の設計ドキュメントの管理単位例です。
ファイル、構成管理、進捗管理単位、品質管理単位の参考にして下さい。

サブシステム間の独立性が高い場合はサブシステムごとに管理。
(シ) が付いているドキュメントに関してはサブシステム間の独立性にかかわらず、システムで1ドキュメント作成。
*がついているドキュメントに関しては同一箇所に複数のファイルが存在する可能性がある。



2. 工程別ドキュメントの記述要領、記述例



2.1 SA工程ドキュメント



SA01	業務要件定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/20	
				第 版		

1 目的

課題としての業務要件と新システムでの対策としてのシステム化要件を具体化し、システム化要件に対応して、システムから見た実現手段をまとめる。

[注]:業務要件定義は、以下の資料が作成されていることを前提としている。

- ・現行業務の課題と新システムでの対応策
- ・現行業務説明書(業務マニュアル、業務機能説明、組織図 等)

2 記述例補足

業務要件、システム化要件概要をまとめる為に、表形式で当ドキュメントを作成する。

[業務要件定義]

(1) 業務要件名(必須)

課題としての業務要件名を記述する。

(2) 業務要件詳細(問題点/改善点)(必須)

業務要件を具体化し記述する。問題点や改善点も含め整理する。

(3) 要件確定度(必須)

業務要件の確定度(A:具体的方法検討済、B:具体的方法検討中、C:具体的方法未検討など)を記述する。

(4) システム化要件番号(必須)

システムで見た時の実現手段毎に番号を割り振る。管理番号(システム化の際の漏れ防止、顧客への確認、進捗状況確認など)とする。

(5) システム化要件名/システム化要件概要(解決/実現方針)(必須)

新システムでの対策としての、システム化要件名および業務要件を実現するために、システムからみて必要となる機能を記述する(解決/実現の方針を記述する)。

(6) 優先度(必須)

システム化要件毎に対応の優先度(A:即対応、B:2次対応、C:3次対応など)を記述する。

SA02	業務機能概要定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

システム化要件に対応して、システム化する範囲や対象を明確にする。
また、人間系を含めた新業務システムの設計を行い、「業務とコンピュータの接点」、
「コンピュータのサービス機能の単位」および「サービス機能の概要」を確定する。

コンピュータのサービス機能の単位は、下記の定義の「ユースケース」とする。
([注]:「サービス機能の概要」は、「ユースケース機能概要」と同じ意味になる。)

【ユースケースの定義】

「利用者が開始し、その利用者にとって業務的に意味のある目的を
完了するまでのプロセス」

オンラインでは、複数画面による一連の会話を通じて完結するプロセス。

< 例 >

- ・ 受注1件のデータを DB に登録
- ・ ATM での普通預金引出し
- ・ 窓口で列車の座席を予約

バッチでは、業務的意味のある括りでの、データ作成・出力のプロセス

< 例 >

- ・ 定期的に実行する売上実績データの集計
- ・ メニュー起動による受注一覧表の印刷

2 記述例補足

2.1 概観業務フロー

システム化要件に対応して、システム化する範囲や対象を明確にする為、
下記の表記法で「概観業務フロー」を作成する。
作成レベルは、原則として、業務機能レベル[注1]とする。

【概観業務フローの表記法】

(1)業務機能 	業務を構成する機能単位 実行の始めと終わりという考え方を持たない。 XXX: 業務機能名 YYY: 業務機能の概要説明
(2)部門、環境 	業務を担当する部門や業務トリガーとなる環境 (顧客、他システムなど)を示す。 XXX: 部門名、環境名
(3)物流 / 情報線 	物 / 情報の流れ XXX: 情報名 / 物流名
(4)システム化対象範囲 	

[注1]:「業務機能」の定義は、当 ComponentAA 開発標準「業務分析・設計編」の
「機能のモデル」を参照のこと。

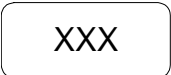
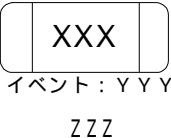
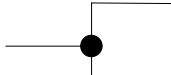
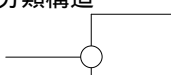
SA02	業務機能概要定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

2.2 業務機能構造、システム化業務フロー

人間系を含めた新業務システムの設計を行い、「業務とコンピュータの接点」およびコンピュータのサービス機能の単位である「ユースケース」を確定する為、「業務機能構造」、「システム化業務フロー」を作成する。

「業務機能構造」は、下記の表記法で「業務機能」単位に、「業務プロセス」を明確にする手法で作成する。〔注2〕

〔業務機能構造の表記法〕

(1) 業務機能 	業務を構成する機能単位。実行の始めと終わりという考え方を持たない。 XXX: 業務機能名
(2) 業務プロセス 	実行の始めと終わりを持つ機能。 人間の作業とコンピュータプロセスを含む。 イベントとは業務プロセスが実行されるきっかけとなる出来事 XXX: 業務プロセス名 YYY: イベント内容 ZZZ: 業務プロセスの機能概要説明
(3) 分解構造 	上位の機能単位が下位の機能「から成る」という関係
(4) 分類構造 	業務プロセスの場合分け

「システム化業務フロー」は、下記の表記法で、「業務機能構造」で明確にされた、「業務プロセス」単位に、「作業」の流れを明確にし、作業対応に「ユースケース」を抽出する手法で作成する。〔注2〕


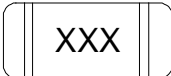

・「システム化業務フロー」ヘッダー項目として、記述する「業務プロセス」に対応する、システム化要件番号、システム化要件名、業務プロセス名を記述する。

〔注2〕 ・「業務機能」、「業務プロセス」、「作業」の定義については、

当 ComponentAA 開発標準「業務分析・設計編」の「機能のモデル」を参照のこと。

・現行システム機能をそのまま継承する業務プロセスの「システム化業務フロー」が存在しない場合は、原則として、その業務プロセスの「システム化業務フロー」を追加作成する事。

〔システム化業務フローの表記法〕

(1) 他業務プロセス 	対象業務機能の外の業務プロセス XXX: 外業務プロセス名
(2) 作業 	業務プロセスに含まれる人間の作業。これ以上分割する必要がない基本的な活動単位。〔注3〕 XXX: 作業名
(3) 部門、環境、アクター 	業務を担当する部門や業務トリガーとなる環境（顧客、他システムなど）を示す。〔注3〕 XXX: 部門名、環境名

SA02	業務機能概要定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

(4) <u>ストック</u> <u>XXX</u>	物や情報を一時的に保管しておく場所や媒体 XXX: ストック名
(5) 物流 / 情報線 <u>XXX</u> →	物や情報の流れ XXX: 物 / 情報名
(6) 順序 XXX ----->	作業の実行順序(上流が終了しないと下流は実行できない)。 XXX: 開始条件
(7) 条件分岐 XX YY └─○─┘ └──┘	条件によって下流の業務プロセスや作業のいずれかが開始される XX, YY: 分岐の条件
(8) 合流 └──┘ └─○─┘ └──┘	上流のいずれかが終了していれば下流の業務プロセスや作業が開始できる。
(9) 並列分岐 XX YY └──●──┘ └──┘	下流の業務プロセスや作業が並列に実行される。

(10) 並列合流 └──●──┘ └──┘	上流の全てが終了していないと下流のプロセスや作業は開始できない。
(11) ユースケース XXX ○ YYY :	利用者が開始し、その利用者にとって業務的に意味ある目的を完了するまでのコンピュータのプロセス[注3] XXX: ユースケース名 YYY: ユースケース概要
(12) 入出力情報 XXX └──┘ XXX └──┘ XXX └──┘	ユースケースと作業の間でやり取りする情報。 通常は、画面や帳票になる。[注4] XXX: 入出力情報名

[注3]: 「作業」、「ユースケース」と「部門、環境」の表記方法について

・「作業」、「ユースケース」は、「部門、環境」単位に表記領域を分離して記述すること。(記述例参照)

[注4]: 顧客との「業務機能概要定義」の確認および「概念ER図」の設計情報等に用いる為、入出力情報に対応する現行システムの伝票、画面、帳票、テーブル、ファイルに関する実物、定義書などを入手すること。

SA02	業務機能概要定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

2.3 ユースケース一覧

「システム化業務フロー」を基に、「ユースケース」を下記の定義による「サブシステム」、「機能単位」で整理し、以下の要領で「ユースケース一覧」をまとめる。

(1) サブシステム名(必須)

システム開発の単位として、システムを組織、業務システムの機能などの単位で分割した「サブシステム」の名称

(2) 機能単位名(必須)

同一サブシステム内の「ユースケース」を類似機能の観点で括った単位の名称。
例えば、「同一業務プロセス」内のユースケース群の名称。

(3) ユースケース名(必須)

システム化業務フローをもとに記述する。

(4) 部門名(任意)

ユースケースを使用する部門名、職制名等を記述する。

(5) 機能概要(必須)

ユースケースの機能概要を記述する。事前条件や例外処理についても検討する。

(6) 主要な入力データ名、出力データ名(必須)

ユースケースの主要な入力データ名(伝票名、入力情報名 等)
および出力データ名(帳票名、出力情報名 等)を記述する。

(7) 処理形態(任意)

オンライン:O、バッチ:B、オン・バッチ:O/B を記述する。

(8) 共通ユースケース(任意)[注4]

システム化要件定義全体をまとめた後、共通で使用されるユースケースを洗い出し、
を付与する。

[注4]共通ユースケースの洗い出しについて

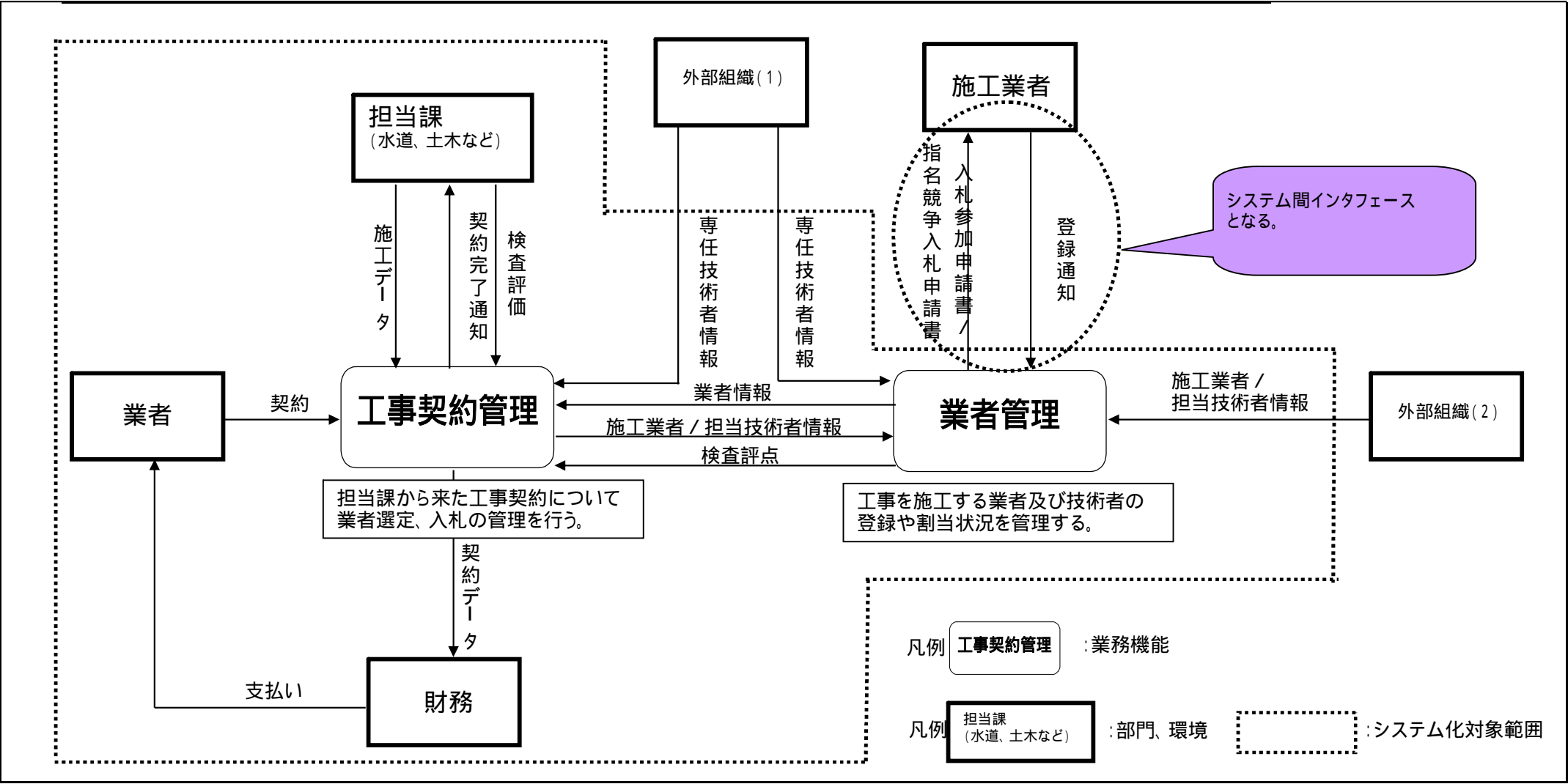
以下の観点等で洗い出す。

- ・異なる「業務プロセス」のユースケースであるが、サービス内容が類似している。
- ・現行システムの共通機能からの類推。
- ・業務内容に依存しないサービス機能(HELP、コード検索、名称検索等)

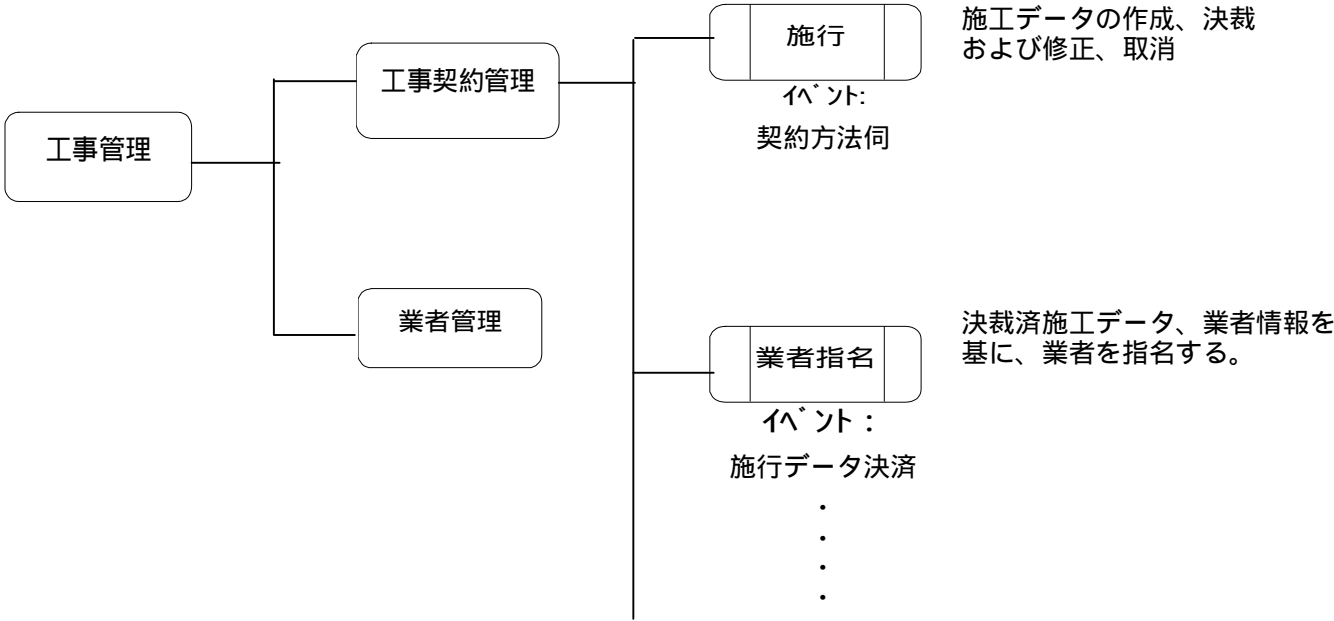
(9) 発生頻度(任意)

平均(月・日)件数、ピーク(月・日・時)件数等の発生頻度を記述する。

SA02	業務機能概要定義(概観業務フロー)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/4/20	
					第 版		



SA02	業務機能概要定義(業務機能構造)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/4/23	



- 凡例

工事契約管理

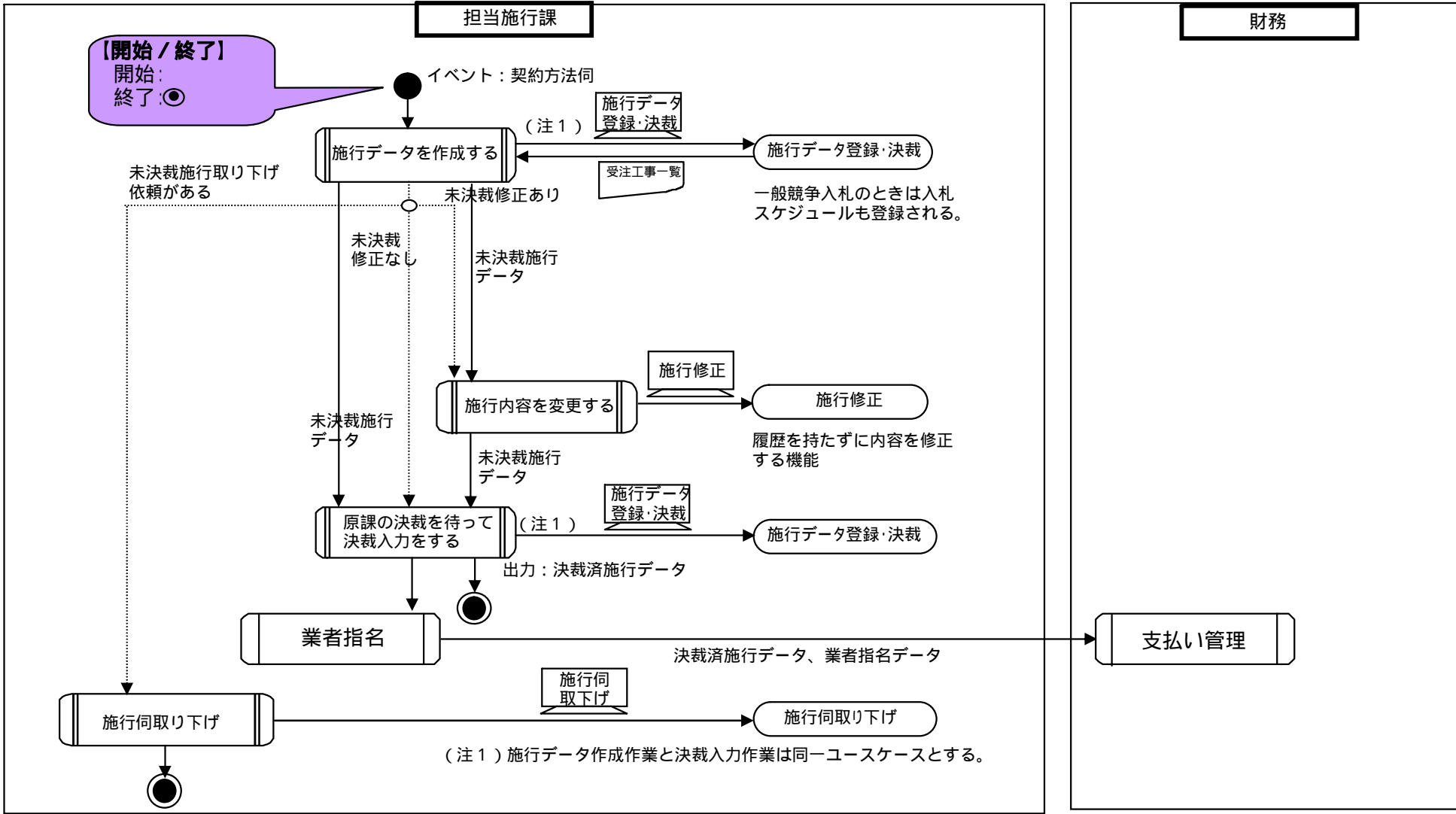
 :業務機能
- 凡例

施行
イベント:

 :業務プロセス

SA02	業務機能概要定義 (システム化業務フロー)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/4/20	
					第 版		

システム化要件番号	システム化要件名	業務プロセス名
F3120-1	工事契約管理機能の開発	施行



SA03	業務運用要件 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

稼動システムの業務運用要件(運用性、性能、信頼性、セキュリティ、拡張性、移行など)を
明確にする。

2 記述例補足

以下の項目を踏まえながら、業務運用要件をまとめる(システム要件定義書の目次立ても
参考になる)。

- ・運用性(稼動 / 停止の期日・時間、拠点での運用、運用管理など)
- ・性能(レスポンス、スループットなど)
- ・信頼性(停止 / 障害に対する許容度、二重化、バックアップ・リカバリなど)
- ・セキュリティ
- ・拡張性
- ・移行(切替時期、並行稼動の有無など)

など

記述例は、運用時間に対する業務運用要件の例である。

SA03	業務運用要件	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/1/13	

○運用時間

1 マシンセンター（センター設置サーバ共通事項）

1.1 システム稼働日・停止日

- (1) 計画停電日（サーバ全面停止）
- (2) ハードウェア/ソフトウェア定期保守

1日/1年 停止
1日/1ヶ月 停止

(3) その他のシステム運休日

【要検討】メンテナンスの頻度、所要時間（停止時間）、停止範囲については未定
元日等、センターで定める全面運休日
ビル空調、電源工事等、外部要因による停止日が想定される。

(4) システム稼働日

上記(1)～(3)以外については、〇〇センター設置サーバは土曜、日曜、祝祭日も含め、基本的に24時間システム稼働

1.2 オンラインサービス時間帯

(1) 物流系

オペレーション系 3時30分～25時30分
オペレーション系以外（計画系、管理系及び 以外のオペレーション系）7時～25時30分

(2) 販売系

7時～22時

(3) マスタ管理

7時～25時30分（物流オペレーション系以外のオンライン時間帯に準じる）

1.3 その他運用条件

(1) 他システム連携

【要検討】連携先との調整により運用時間について調整要

(2) FAX出力サービス

【要検討】サービス時間帯の要件

(3) センタープリンタ出力

【要検討】利用時間帯の要件

2 特約店端末オンラインサービス時間帯

システム稼働日については、上記1.1.1のセンター運用スケジュールに従う。時間帯は24時間

3 受注センター

3.1 業務稼働日/稼働時間

- (1) 営業日 月曜～土曜（日曜、祝祭日は休み）
- (2) 営業時間 通常運用時 8時～18時

3.2 オンラインサービス時間帯

(1) センター設置サーバ利用業務

システム稼働日については、上記1.1.1のセンター運用スケジュールに従う。時間帯は物流オペレーション系オンラインサービス時間帯に準じる。

3.3 運用操作

システム運用操作は業務担当者が行う。

4 業務運用タイムチャート（1）業務運用タイムチャート（オンライン系）（2）ジョブネットタイムチャート

【業務運用要件】（必須）

稼働システムの業務運用要件（運用性、性能、信頼性、セキュリティ、拡張性、移行など）を明確にする。

注：当記述例は、運用時間に対する要件の例である。

SA04	システム間インタフェース概要 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

各サブシステムにおける外部システムおよび他サブシステムとの連携に必要なインタフェースを定義する。

2 記述例補足

(1) サブシステム名、サブシステムID (必須)

インタフェースを定義し管轄する(主管する)サブシステムの名称及びそのIDを記述する。

(2) 連携先システム名(必須)

連携する先のシステム(外部システム、サブシステム)の名称を記述する。

(3) データ名称(必須)

連携時に関連する主なデータ名称を記述する。

(4) 送受信区分(必須)

主管のサブシステムから見た送信 / 受信区分を記述する。

(4) 実行サイクル(必須)

連携時のタイミング(随時、日次、月次、時刻起動など)を記述する。

(5) 通信手段(必須)

連携する際の通信手順(BSC、FTPなど)や受渡媒体(FPD、CMTなど)を記述する。

(6) 同期、非同期区分(任意)

同期、非同期区分を記述する。

(7) 文字コード(任意)

連携するデータの文字コード(UNICODE、EUC、S - JISなど)を記述する。

(8) 異常時の対処方法(任意)

連携時で異常が発生した場合のリカバリ方法を記述する。

SA04	システム間インタフェース概要			システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者		
						初版 第 版	2004/1/13			
サブシステム名	サブシステムID	連携先システム名	データ名称	送受信区分	実行サイクル	通信手段	同期 / 非同期	文字コード	異常時の対処方法	備考
1 受注	物 2	FF	出荷予約データ	受信	随時	VAN	非同期	S-JIS		
			出荷実績データ	送信	随時	VAN	非同期	S-JIS	再送	
2 受注	物 2	旧 システム 特約店端末、F 端末	出荷予約データ（発注データ）	受信	随時	BSC、TCP/IP	同期	S-JIS		
			受注状況データ	送信	随時	BSC、TCP/IP	同期	S-JIS		
			公開ファイル（出荷案内書データ、受注状況照会データ）			BSC、TCP/IP				
3 受注	物 2	旧 システム N I S 端末	出荷予約データ（発注データ）	受信	随時	BSC	同期			
			受注状況データ	送信	随時	BSC	同期			
			公開ファイル（案内書データ、受注状況照会データ）			BSC				
			各種マスタ			BSC				
4 受注	物 2	特約店	出荷予約データ	受信	月次（1 日）					通信手順は、次工程にて検討。
			配送データ	送信	月次（1 0 日）					
5 受注	物 2	取引先（A物産）	出荷予約データ	受信	随時					
			出荷実績データ	送信	随時					
6 受注	物 2	取引先（B物産）	出荷予約データ	受信	随時					
			出荷実績データ、各種マスタ	送信	随時		非同期			
7 受注	物 2	取引先（C通商）	出荷予約データ	受信	随時	VAN	非同期			
			出荷実績データ、各種マスタ	送信	随時		非同期			
8 受注	物 2	製油所（Y 製油所側システム）	出荷予約データ	送信	時間起動（3時間間隔）	CORDEX	非同期		データ再作成後、次の起動時に合わせて送る	"CORDEX"にしているのは、製油所システムに影響を与えないため。
			出荷実績データ	受信	時間起動（6時間間隔）	CORDEX	非同期		再送依頼を行う	
9 計画	物 3	システム	出荷予約データ	受信	月次（3 日）		非同期			通信手段については、今後検討していく。
10 元売	物 4	他社	出荷予約データ（自社発注分）	送信						
			出荷データ（他社発注分）	受信						
11 元売	物 4	他社	出荷データ（自社発注分）	送信						
			出荷データ（他社発注分）	受信						
			出荷予約データ（他社発注分）	受信						
			出荷予約返信データ（自社発注分）	送信						
12			出荷予約データ	受信	月次（毎月 2 5 日）	CMT		EBCDIC		
			出荷予約データ、出荷実績データ	送信	年次（1月末）	CMT		EBCDIC		
13			出荷実績データ	送信		CMT		EBCDIC	バックアップから作成し直す	媒体渡し / 伝送は別途調整。
14			出荷実績データ	送信	随時	FPD（3.5インチ）				
15 受注	物 2	製油所（V 製油所側システム）	海上出荷実績データ	受信	時間起動	HICS	非同期			連携先システム主導で起動
			出荷予約データ	送信	時間起動	HICS	非同期			"HICS"にしているのは、製油所システムに影響を与えないため。
			海上出荷予約データ	送信	時間起動	HICS	非同期			
			伝票実績データ	送信	時間起動	HICS	非同期			
16 油槽所総合管理	物 1 0	J O T	出荷予約データ	送信	随時	NFS（TCP /	非同期			
			構内データ	受信	随時	NFS（TCP /	非同期			
17 油槽所総合管理	物 1 0	T O T	出荷予約データ	送信	随時	TTY（無手順）	非同期			E I A R S 2 3 2 C インタフェース
18 油槽所総合管理	物 1 0	F K	出荷予約データ	送信	随時	FTP（TCP-IP）	同期	S-JIS	バックアップから作成し直す	
			出荷実績データ	受信	随時	FTP（TCP-IP）	同期	S-JIS	連携先に再送してもらう	
19 油槽所総合管理	物 1 0	油槽所計装システム	出荷予約データ							
			出荷実績データ							
20 油槽所総合管理	物 1 0	油槽所計装システム	出荷予約データ							新インタフェースは3.5インチFPDもしくは別インタフェース検討
21 油槽所総合管理	物 1 0	O L S	出荷予定データ、マスタ							

記述例

【同期/非同期】（任意）
同期、非同期区分を記述する。

【通信手段】（必須）
連携する際の通信手順や受渡媒体を記述する。
BSC、FTP、TTY（無手順）、FPD、CMTなど。

【データ名称】（必須）
連携時に関連する主なデータを記述する。

【連携先システム名】（必須）
連携する先のシステム名（外部システム名、サブシステム名）を記述する。

【サブシステムID】（必須）
サブシステムIDを記述する。

【サブシステム名】（必須）
インタフェースを定義し管轄する（主管する）サブシステム名を記述する。

【送受信区分】（必須）
主管のサブシステムから見た、送信 / 受信区分を記述する。

【実行サイクル】（必須）
連携時のタイミングを記述する。
随時、日次、月次、時刻起動など。

【異常時の対処方法】（任意）
連携時に異常が発生した場合のリカバリ方法を記述する。

【文字コード】（任意）
連携するデータの文字コードを記述する。
UNICODE、EUC、S-JISなど。

SA05	概念ER図 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

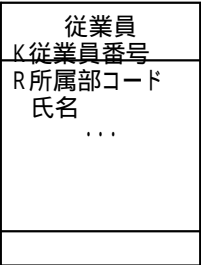
1 目的

エンティティとエンティティ間の関連を分析し、データ面から業務の構造を明確にする。

2 記述例補足

(1) エンティティ[注]

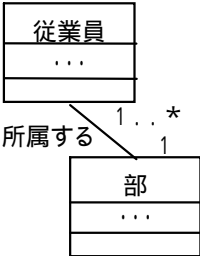
エンティティ名及びその属性である主要なデータ項目(識別キー、参照キー、他)を記述する。
以下に凡例を記す。



- ・上段:エンティティ名
 - ・中段:主要なデータ項目名
識別キー、参照キーは明確にする。
(識別キー頭にKを、参照キーは頭にRを付与)
 - ・下段:記述不要(操作名)
- [注1]:エンティティ、識別キー、参照キーについては、
当 ComponentAA 開発標準「業務分析・設計編」の
「データのモデル」を参照の事。
また、エンティティが構造をもつ場合の記述方法は補足を参照。

(2) 関連

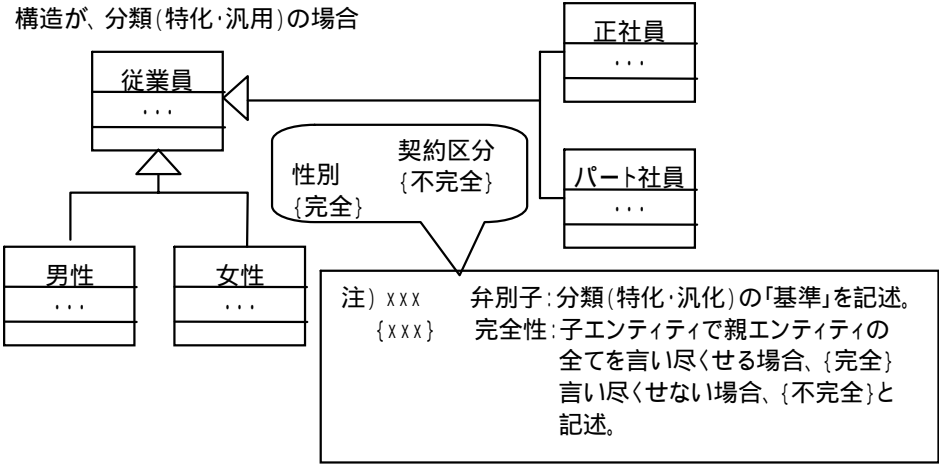
エンティティ間の関係を多重度(数的な関係)を含めて記述する。



- ・関連あるエンティティ間を線で結び関連を示す。
- ・多重度(数的な関係)を線の近辺に記述する。
1対1なら、 $\frac{1}{1} \frac{1}{1}$
1対多なら、 $\frac{1}{1} \frac{1..*}{1..*}$
- ・なお、0以上を表す場合は、“*”又は“0..*”と記述。
- ・また、必要に応じて、エンティティの関係を表す関連名(左記では“所属する”)を線の近辺に記述する。

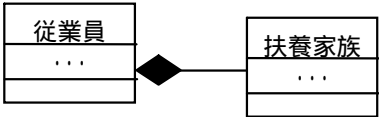
補足. エンティティが構造をもつ場合の記述方法

(1) 構造が、分類(特化・汎用)の場合

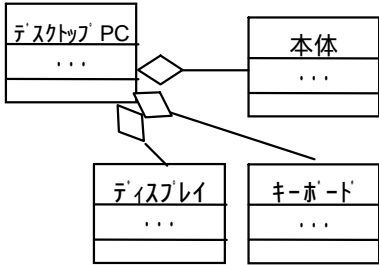


(2) 構造が、全体と部分(コンポジション、集約)の場合

コンポジション:親エンティティが消滅した場合に子エンティティが単独で存在できない場合
(子エンティティが親エンティティの存在に強く依存する場合)



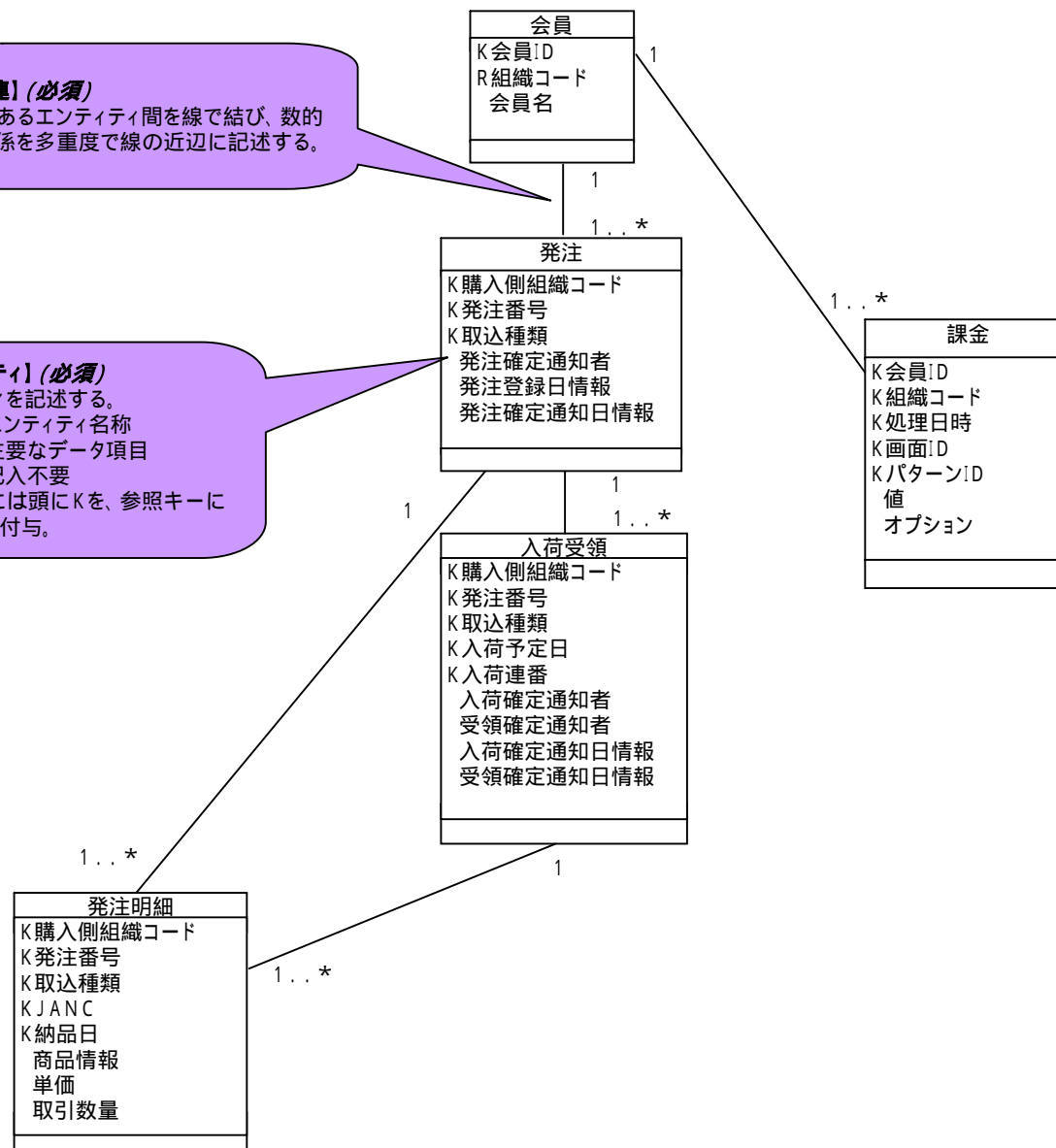
集約:親エンティティが消滅した場合でも子エンティティが単独で存在できる場合



SA05	概念ER図	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/1/13	
					第 版		

【関連】(必須)
 関連あるエンティティ間を線で結び、数的な関係を多重度で線の近辺に記述する。

【エンティティ】(必須)
 エンティティを記述する。
 上段:エンティティ名称
 中段:主要なデータ項目
 下段:記入不要
 識別キーには頭にKを、参照キーには頭にRを付与。



SA06	ユースケース・エンティティ マトリクス 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

ユースケース一覧と概念データモデルで洗い出されたエンティティの関係を整理し、機能とデータの整合性を検証する。

2 記述例補足

(1) ユースケース名(必須)

「SA02 業務機能概要定義」の「ユースケース一覧」のユースケース名を列挙する。

(2) エンティティ名(必須)

「SA05 概念 ER 図」で洗いだされたエンティティを列挙する。

(3) アクセス種別(必須)

ユースケースとテーブルの関係を「C」、「R」、「U」、「D」で記述する。

- 「C」…創成
- 「R」…参照
- 「U」…更新
- 「D」…削除

SA07	業務用語定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

用語を定義しあいまいさを排除する。また、共通機能を導出する情報源とする。

2 記述例補足

- (1) 分類(必須)
業務用語の分類(グループ分け)を記述する。
- (2) 業務用語名(必須)
業務用語の名称を記述する。
- (3) 意味(必須)
業務用語の意味を記述する。

2.2 UI工程ドキュメント



UI01	ユースケース一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

「SA02 業務機能概要定義」で洗い出された「ユースケース」を、以下の観点で整理、統合を行い、その結果を一覧形式にまとめる。[注1]

- (1) 同一の情報による部分的に異なるサービスは、同一ユースケースとする。
- (2) 以下の観点で共通的なサービス機能を洗い出し、共通ユースケースとする。
 - ・異なる「業務プロセス」のユースケースであるが、サービス内容が類似している。
 - ・現行システムの共通機能からの類推。
 - ・業務内容に依存しないサービス機能(HELP、コード検索、名称検索等)
- (3) 他のユースケースと比較して、サービス機能が大きすぎるユースケースを分割する。
- (4) 業務運用、システム運用に必要なサービス機能に対応するユースケースを追加する。
- (5) UI 工程での検討結果の反映。 等

[注1]: ユースケースの見直し結果に対応して、「システム化業務フロー」の見直しを行う事。

2 記述例補足

以下の項目は、「SA02 業務機能概要定義」およびその見直し結果をもとに記述する。

(1) サブシステム名(必須)

システム開発の単位として、システムを組織、業務システムの機能などの単位で分割した「サブシステム」の名称。

(2) 機能単位名(必須)

同一サブシステム内の「ユースケース」を類似機能の観点で括った単位の名称。
例えば、「同一業務プロセス」内のユースケース群の名称。

(3) ユースケース ID、ユースケース名(必須)

ユースケース ID は、命名規約に基づき付与する。
ユースケース名は、「SA02 業務機能概要定義」、命名規約をもとに記述する。

(4) 部門名(必須)

ユースケースを使用する部門名、職制名等を記述する。

(5) 機能概要(必須)

ユースケースの機能概要を記述する。事前条件や例外処理についても検討する。

UI01	ユースケース一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

(6) 主要な入力データ名、出力データ名(必須)

ユースケースの主要な入力データ名(伝票名、入力情報名 等)
および出力データ名(帳票名、出力情報名 等)を記述する。

(7) 処理形態(必須)

オンライン:O、バッチ:B、オン・バッチ:O/B を記述する。

(8) 共通ユースケース(必須)[注2]

共通で使用されるユースケースを洗い出し、 を付与する。

[注2]:共通ユースケースの洗い出しについて

以下の観点等で洗い出す。

- ・異なる「業務プロセス」のユースケースであるが、サービス内容が類似している。
- ・現行システムの共通機能からの類推。
- ・業務内容に依存しないサービス機能(HELP、コード検索、名称検索等)。

(9) 発生頻度(必須)

平均(月・日)件数、ピーク(月・日・時)件数等の発生頻度を記述する。

UI01	ユースケース一覧	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/5/14	

[illegible]

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

1 目的

利用者が開始し、その利用者にとって業務的に意味のある目的を完了するまでのプロセスであるユースケース[注1]の業務処理機能の詳細を定義する。

[注1]:ユースケース

オンラインでは、複数画面による一連の会話を通じて完結するプロセス。

- (例) ・受注1件のデータを DB に登録
 ・ATM での普通預金引出し
 ・窓口で列車の座席を予約

バッチでは、業務的意味のある括りでの、データ作成・出力のプロセス

- (例) ・定期的に行う売上実績データの集計
 ・メニュー起動による受注一覧表の印刷

2 ユースケース機能記述実施手順

2.1 オンライン処理ユースケースの場合

- (1) ユースケース機能記述 (オンライン機能概要 - 画面遷移図)
- ユースケース単位に、以下の定義を行う。
- ・オンライン機能概要 (ユースケース名、機能概要、主な入出力 等)
 - ・画面遷移図



- (2) ユースケース機能記述 (画面レイアウト定義、画面項目定義)
- ユースケース内の画面単位に、以下の定義を行う。
- ・画面レイアウト
 - ・画面項目定義 (画面項目名、型・桁数・値の範囲の単項目チェック仕様 等)



- (3) ユースケース機能記述 (アクション定義) [注2]
- ユースケース内の画面毎のアクション単位に、以下の定義を行う。
- ・アクション総括記述、アクション内の処理フロー
 - ・遷移元画面入力 of 必須入力、関連チェック仕様
 - ・遷移先画面表示仕様
- [注2]アクション:画面遷移を伴う、利用者からシステムへの処理要求動作**



- (4) ユースケース機能記述 (データ処理定義)
- ユースケース内の画面毎のアクション単位に、以下の定義を行う。
- ・出力データ処理定義 (テーブル更新処理、ファイル更新処理、帳票出力処理 等)
 - ・入力データ処理定義 (入力データ項目チェック処理 等)

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

2.2 バッチ処理ユースケースの場合

(1) ユースケース機能記述(バッチ処理機能概要 - 処理フロー)

ユースケース単位に、以下の定義を行う。

- ・バッチ処理機能概要(ユースケース名、機能概要、主な入出力 等)
- ・バッチ処理フロー(バッチ処理起動条件、処理ステップ[注3]、主な入出力 等)

[注3]処理ステップ:バッチ処理を構成する、バッチ処理内の部分プロセス。



(2) ユースケース機能記述(バッチ総括記述)

ユースケース単位に、以下の定義を行う。

- ・バッチ総括記述



(3) ユースケース機能記述(帳票レイアウト定義、帳票項目定義)

ユースケース内の帳票単位に、以下の定義を行う。

([注4]:帳票出力を伴わないバッチ処理では、この定義は不要)

- ・帳票レイアウト、帳票出力条件
- ・帳票項目定義(帳票項目名、型、桁数、符号、文字サイズ、配置 等)



(4) ユースケース機能記述(データ処理定義)

ユースケース内の処理ステップ単位に、以下の定義を行う。

- ・出力データ処理定義(テーブル更新処理、ファイル更新処理、帳票出力処理 等)
- ・入力データ処理定義(入力データ項目チェック処理 等)

2.3 ユースケース機能記述実施手順の補足資料

ユースケース機能記述実施手順の補足資料として、

別紙、「オンラインユースケース機能記述概念図」

および「バッチユースケース機能記述概念図」を参照して下さい。

3 記述例補足

3.1 オンライン処理ユースケースの場合

3.1.1 ユースケース機能記述(オンライン機能概要-画面遷移図)

「ユースケース機能記述(オンライン機能概要 - 画面遷移図)」の書式を使用してユースケース単位に、以下の定義を行う。

- ・オンライン機能概要
- ・画面遷移図

3.1.1.1 オンライン機能概要記述

(1) ユースケースID、ユースケース名(必須)

「UI01 ユースケース一覧」の該当ユースケースのユースケースID、ユースケース名を記述する。

(2) 機能概要(必須)

「UI01 ユースケース一覧」の該当ユースケースの機能概要を転記する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(3) 部門名(必須)

「UI01 ユースケース一覧」の該当ユースケースの部門名を転記する。

(4) イベント(必須)

当ユースケースの処理トリガーを記述する。

他部門、他システム、他サブシステムとの関連があれば、その関連も記述する。

(5) 主要な入力データ名(必須)

当ユースケースの主要な入力データ名(伝票名、入力データ項目名 等)を記述する。

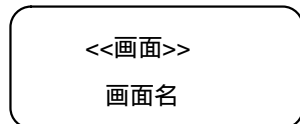
(6) 主要な出力データ名(必須)

当ユースケースの主要な出力データ名(帳票名、出力データ項目名 等)を記述する。

3.1.1.2 画面遷移図

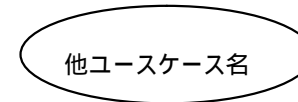
(1) 画面

以下の様に表記する。



(2) 他ユースケース

ユースケース間にまたがる場合は、対象となるユースケース名を記述する。



(3) 開始状態

画面遷移図の開始点を記述する。



(4) 終了状態

画面遷移図の終了点を記述する。



(5) アクション名

アクション名を記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3.1.2 ユースケース機能記述(画面レイアウト定義)

「ユースケース機能記述(画面レイアウト定義)」の書式を使用して、ユースケース内の画面単位に、画面レイアウトの定義を行う。

作成する画面レイアウトについては、画面設計規約に準拠すること。

(1) 画面ID、画面名(必須)

命名規約に従い、画面ID、画面名を記述する。

(2) ユースケースID、ユースケース名(必須)

画面に対応するユースケース ID、ユースケース名を記述する。

(3) 補足事項(任意)

画面規約の例外事項等があれば、右の枠内へ説明を記述する。

3.1.3 ユースケース機能記述(画面項目定義)

「ユースケース機能記述(画面項目定義)」の書式を使用して、ユースケース内の画面単位に、画面項目属性の内、原則として業務ロジックによる変更が無い属性の定義を行う。

(1) No、階層レベル、項目名(日本語)、項目名(英字)

1) No(必須)

画面項目に対する連番を記述する。注釈行を入れるときは No に * を入れる。

<記述例>

	項目名		...	
1	XX 日付			
2	XX 時刻			
*	繰り返し項目			
4	YY ボタン			
5	ZZ ボタン			

注釈行

2) 階層レベル(任意)

単純な繰り返し項目や明細の様な一纏まりの項目を繰り返す場合、
纏まりを表わすためにレベル番号を記述する。

3) 項目名(日本語)(必須)

画面項目の日本語の項目名を記述する。固定レイアウトは記述しない。

4) 項目名(英字)(必須)

日本語の項目名に対応した英字の項目名(実装上の命名)を記述する。
(当作業は、SS工程で実施する。)

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(2) データタイプ名、型、桁、値の範囲チェックおよびエラー処理仕様

1) データタイプ名(任意)

- 画面項目のデータタイプ名を記述する。
- データタイプ対応のエラー処理仕様: 共通仕様で別途定める。

([注]: データタイプ名定義を実施するシステムは必須)

2) 型(必須)とエラー処理仕様[注5]

- 入力項目の型を、以下の様に記述する。
- システム特性に合わせて必要な“型”の追加も可。

No	型	備考
1	数値	半角 + - , . 0 ~ 9
2	英数字	半角英数字、記号[注2]
3	半角	半角混在(英数字、カナ、記号)[注2]
4	全角	全角混在(英数字、カナ、記号)[注2]
5	混在	半角、全角混在[注2]

[注2]: 詳細チェック仕様は、採用する共通部品仕様等で確認し、
確定する事。

- エラー処理仕様: 共通仕様で別途定める。

3) 桁数(整数部、小数部)(必須) [注5]

- 型が数値の場合、整数部桁数および小数部桁数を記述する。
- 但し、小数部がない場合は、小数部桁数を省略可。
- 型が英数字、半角、全角の場合、整数部桁数欄に文字数を記述する。
 - 型が混在の場合、整数部桁数欄に半角換算文字数を記述する。
- (ボタン、メニュー項目などイベントを発生させる項目やラジオボタン、
チェックボックスによる入出力項目及びリンク項目は記述対象外とする。)

4) 値の範囲(必須)とエラー処理仕様 [注5]

入力項目の型が数値で、値の範囲を持つ場合に記述する。

- 値の書き方

範囲を表す場合は“ - ”で区切る

複数を表す場合は“ , ”で区切る

又以下の関係演算子の使用も可

- > より大きい
- < より小さい
- > = より大きいか等しい
- < = より小さいか等しい
- ! = 等しくない

例)

0 - 300

A,B,C,D

@ > = 1900

- エラー処理仕様: 共通仕様で別途定める。

[注5]: データ項目が、データタイプに属する場合は省略可。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(3) 入出力種別(必須)

画面の項目に対して入出力状態を定義する。

入力項目:I

出力項目:O

入出力項目:I/O

(4) タブ順(任意)

画面入力項目毎のタブ順を数字で記入する。

(注:画面設計規約等の共通仕様が定められている場合は、記入不要)

(5) 表示形式(必須)

項目が画面に表示される場合の表示形式を、画面表示型(編集様式)の形式で記述する。

text、label の場合は編集様式を、画像付きのボタンの場合は「画像」と

()で括って記述する。

[表示形式例]

	画面表示型	意味	備考
1	Text	テキストボックス	編集様式を記述する。
2	Label	出力専用項目	編集様式を記述する。
3	Combo	プルダウン形式の選択ボックス	
4	list	一覧形式の選択ボックス	
5	check	チェックボックス	
6	radio	ラジオボタン	
7	button	ボタン	
8	link	他データ等へのリンク	
9	hidden	非表示	SS工程で追記

< 編集様式例 >

数値編集[注6] …ZZZ,ZZ9 (金額などカンマが必要な場合)

99999 (連番などカンマが不要な場合) など

文字列編集[注6]…XXXX

日付編集…YYYY/MM/DD、YY年MM月DD日 など

時刻編集…hh:mm:ss など

< 例 >

text(ZZZ,ZZ9) text(XXXXXX) text(YYYY/MM/DD) text(hh:mm:ss)

label(ZZZ,ZZ9) label(XXXXXX) label(YY年MM月DD日)

ボタン(画像)

[注6]:数値編集、文字列編集での桁数は、全桁を記述しなくても良い。

但し全桁を記述しない場合は、最大表示桁数を記述すること。

(6) 入力形式(必須)

入力項目の編集入力を認める場合にその形式を記述する。

なお、編集様式は、前述(5)項 表示形式の< 編集様式例 >を参照のこと。

(7) その他表示仕様(任意)

画面設計規約と異なる表示仕様を使用する場合に、その表示仕様を記述する。

(8) 項目説明(任意)

画面項目の業務的な意味を記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3.1.4 ユースケース機能記述(アクション総括記述 - 処理フロー)

「ユースケース機能記述(アクション総括記述 - 処理フロー)」の書式を使用してユースケース内の画面毎のアクション単位に、アクション処理の総括記述、アクション内の処理フローを記述する。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケースID、ユースケース名、遷移元画面ID、遷移元画面名

ユースケースID、ユースケース名とアクションの遷移元画面ID、遷移元画面名を記述する。

2) アクション、アクション指示項目名

遷移元画面に対応するアクション、遷移元画面内のアクション指示項目名を記述する。

(2) オンライン機能総括

遷移元画面のアクション別に、以下の事項について記述する。

1) 入力データチェック仕様とエラー処理仕様

後述の「アクション定義 - 遷移元画面チェック定義」の定義結果等に基づき記述する。

2) データ処理仕様

後述の「アクション内の処理フロー」、「アクション定義 - 遷移先画面表示定義」、「出力データ処理定義」および「入力データ処理定義」等に基づき記述する。

・ユースケース間で共通使用する処理を記述する場合は、
“担当部署名の検索は、「共通処理 担当部署名検索を参照」” 等の
形式で記述する。

[注7]: データ処理仕様の定義例は、下記参照。

3) 正常終了時の業務メッセージ

・処理結果を「業務メッセージ」で通知する 場合は、その「業務メッセージ内容」を定義する。
・定義した業務メッセージは、「UI12 業務メッセージ定義」で、メッセージコードの付与、メッセージ本文の見直し等システム全体として再整理する。

4) 画面遷移仕様

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

[注7]:データ処理仕様の定義例

a. 演算処理の仕様定義例

< 演算処理およびテーブル出力の例 >

- ・当画面入力の入庫数を商品テーブルの在庫数に加算する。

< 演算、検索処理と遷移先画面出力の例 >

- ・当画面入力の入庫数を商品テーブルの在庫数に加算し、受注登録確認画面に表示する。
- ・当画面入力の商品コードから商品名を検索し、商品名を受注登録確認画面に表示する。

b. 条件分けが必要な場合のデータ処理仕様定義例

条件別にデシジョンテーブル等でデータ処理仕様を定義する。

< デシジョンテーブルの作成例 >

- ・条件記入欄:全ての条件の組合せを「Y」、「N」で記入
- ・処理記入欄:条件の組合せが満たされた場合「X」を記入

条件欄	条件記入欄			
条件 1	Y	Y	N	N
条件 2	Y	N	Y	N
処理 1	X	X	X	-
処理 2	-	-	-	X
処理欄	処理記入欄			

このデシジョンテーブルは、条件 1、2 のいずれかが「Y」のとき、
処理 1 を行い、条件 1、2 の両方とも「N」のとき、処理 2 を行うことを示す。

(3) 配置(必須)

以下の項目は、SS 工程で記述する。

- ・画面入力項目の業務処理仕様に対応する処理を実行するシステムに、
を記入する。
- なお、1 入力項目の業務処理仕様が複数ある場合は、その業務処理仕様毎に
を記入する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

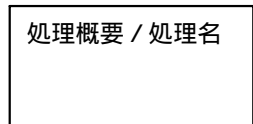
(4) アクション内の処理フロー

アクション内の処理フローを以下の様に記述する。

1) 画面 / 帳票



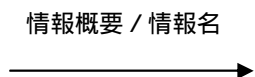
2) 処理



3) テーブル / ファイル



4) 情報線



5) アクセス種別

No.	表記名	意味
1	C	創成
2	U	更新
3	R	参照
4	D	削除

3.1.5 ユースケース機能記述

(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)

「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)」の書式を使用して、「アクション」単位に、以下の定義を行う。

- 1) 入力項目間の関連チェック定義およびエラー処理定義
- 2) 入力項目とテーブル項目の関連チェック定義およびエラー処理定義
- 3) アクション固有の単項目チェック定義(値の範囲の変更など)およびエラー処理定義
- 4) 状態遷移チェックと状態遷移定義およびエラー処理定義
- 5) インタフェースデータのチェック定義およびエラー処理定義
- 6) チェックタイミング定義

[注8]:「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)」の画面項目欄の記述量が多い場合に、「ユースケース機能記述(アクション定義 別紙)」の書式を使用する。別紙の使用基準は、別途定める。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケース ID、ユースケース名、遷移元画面ID、遷移元画面名

ユースケース ID、ユースケース名とアクションの遷移元の画面ID、画面名を記述する。

2) アクション、アクション指示項目名

アクション名、遷移元画面のアクション指示項目名を記述する。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)(必須)

該当の「画面項目定義」を引き継ぐ。

(3) 入力必須項目(必須)

・入力項目に対して必須の条件かどうかを定義する。

必須項目であれば項目欄に を記入する。

・条件付きの必須入力項目には を記述し、「チェック仕様およびエラー処理仕様」欄に条件を明記する。

(4) チェック仕様およびエラー処理仕様(必須)

ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)は、原則として画面項目単位に記述する。

但し、画面項目全体に関わる状態遷移チェックと状態遷移定義およびエラー処理定義、インタフェースデータのチェック定義およびエラー処理定義は、「画面共通欄」に記述する。

1) 入力項目間の関連チェック仕様およびエラー処理仕様

[入力項目関連チェックの記述様式例]

(以下の記述様式は、表形式であるが、箇条書も可)

	画面入力項目名1	・	画面入力項目名n
画面入力項目名1	対応する画面項目間の入力項目関連チェック仕様 およびエラー処理仕様を各カラムに記述する。		
画面入力項目名2			
画面入力項目名n			

2) 入力項目とテーブル項目の関連チェック仕様およびエラー処理仕様

[テーブル項目関連チェックの記述様式例]

(以下の記述様式は、表形式であるが、箇条書も可)

	テーブル名1 項目名1	・	テーブル名m 項目名m
画面入力項目名1	対応する画面項目、テーブル項目間の関連チェック仕様 およびエラー処理仕様を対応する各カラムに記述する。		
画面入力項目名2			
画面入力項目名n			

3) アクション固有の単項目チェック定義(値の範囲の変更など)およびエラー処理定義

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

4) 状態遷移チェックと状態遷移定義およびエラー処理定義

状態遷移チェックと状態遷移定義およびエラー処理定義を、
「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)」書式の
「チェック仕様およびエラー処理仕様欄」の「画面共通欄」に記述する。

- ・定義した状態遷移仕様は、「UI09 テーブル状態遷移」の形式で再定義する。
- ・状態遷移仕様に対応するテーブル項目の更新仕様を、
後述の「ユースケース機能記述(出力データ処理定義)」で再整理する。

5) インタフェースデータのチェック定義およびエラー処理定義

インタフェースデータのチェック定義およびエラー処理定義を、
「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)」書式の
「チェック仕様およびエラー処理仕様欄」の「画面共通欄」に記述する。

6) チェックタイミング定義

- 上記1)～5)項のチェックを開始する画面項目の欄に以下の様に記述する。
- ・「当キーの押下時に、入力項目の一括チェックを行う。」
 - ・「当項目入力完了時に、当チェックを行う。」

7) エラーメッセージ定義

エラー処理に伴うエラーメッセージ定義は、「UI12 業務メッセージ定義」で、
メッセージコードの付与、メッセージ本文の見直し等システム全体として再整理する。

(5) メッセージコード(必須)

業務メッセージ、エラーメッセージのコードを記述する。

(6) 配置(必須)

以下の項目は、SS 工程で記述する。

- ・画面入力項目の業務処理仕様に対応する処理を実行するシステムに、
を記入する。
- なお、1入力項目の業務処理仕様が複数ある場合は、その業務処理仕様毎に
を記入する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3.1.6 ユースケース機能記述

(アクション定義 - 遷移先画面表示定義)

「ユースケース機能記述(アクション定義 - 遷移先画面表示定義)」
の書式を使用して、アクション処理終了後の遷移先画面のデータ表示仕様定義を行う。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケース ID、ユースケース名、遷移先画面ID、遷移先画面名

ユースケース ID、ユースケース名と遷移先の画面ID、画面名を記述する。

2) アクション、アクション指示項目名

遷移元画面のアクション名、遷移元画面のアクション指示項目名を記述する。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)(必須)

該当の「画面項目定義」を引き継ぐ。

(3) 入力不可(必須)

入力項目であるが、入力不可とする項目に を記入する

(4) データ表示仕様(必須)

- ・画面項目毎に、画面遷移後の画面に表示する値を決定する業務仕様を定義する。
データ内容等により表示値が変わる場合は、条件別に表示値を記述する。
- ・画面設計規約で定めた表示仕様または「画面項目定義」で定義した表示形式を変更する場合は、その変更仕様を記述する。

< 表示様式の変更例 >

画面表示型の変更: text を label に変更する。

[表示値の取得方法別の記述形式]

No	表示値の取得方法	表示値の記述形式
1	テーブル、ファイルから値を得る場合	テーブル名.項目名(日本語) ファイル名.項目名(日本語)
2	画面遷移元から値を得る場合	画面名.項目名(日本語)
3	固定値	"固定値"
4	固定値(combo,list)	・画面表示値:実値,の組を繰り返し 画面表示値、実値とも、 "固定値記述":実値 または テーブル名.項目名m: テーブル名.項目名n の記述可 < 例 > "男":0,"女":1 「部品表.部品名:部品表.部品 CD」×20
5	固定値(check,radio)	"実値",の繰り返し
6	固定値(button)	"ボタンに表示される内容"
7	条件判断、演算処理等の 業務処理ロジックを伴う場合	業務処理ロジックと表示内容を記述する。 例) ・テーブル名.項目名 = foo の場合 テーブル名.項目名 を表示 でなければ "bar" を表示

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(5) 表示属性変更仕様(任意)

画面設計規約、画面項目定義と異なる表示仕様を使用する場合に、その仕様を記述する。

3.1.7 ユースケース機能記述(出力データ処理定義) [注9]

オンラインユースケース内の画面毎のアクション単位に
テーブル更新、ファイル更新および帳票編集・出力に伴う業務ロジックを
「ユースケース機能記述(出力データ処理定義)」の書式で定義する。

[注9]:出力データ処理定義の書式は、出力処理が主となるテーブル、ファイルの場合に
用いる。部分的な入力処理がある場合に用いても良い。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケース ID、ユースケース名、遷移元画面 ID、遷移元画面名

出力処理を行うユースケース ID、ユースケース名
およびアクションの遷移元画面 ID、遷移元画面名を記述する。

2) アクション / 処理ステップ

テーブルまたはファイル更新を行うアクション名を記述する。

3) アクション、アクション指示項目名

遷移元画面のアクション指示項目名を記述する。

4) 出力テーブル / ファイルID、出力テーブル / ファイル名

出力処理対象の出力テーブル / ファイルID、出力テーブル / ファイル名
を記述する。

5) アクセス種別 [注10]

テーブルまたはファイルへのアクセス種別を記載する。

No.	表記名	意味
1	C	創成
2	U	更新
3	R	参照
4	D	削除

[注10]:アクセス種別は、複数種類の記述可。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)(必須)

該当の「テーブル / ファイル定義」を引き継ぐ。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(3) 出力データ処理仕様(必須)

- ・アクションで更新するテーブルまたはファイル項目の業務ロジックおよび出力内容を記述する。
(業務ロジックを伴わない場合は、出力内容のみを記述する。)
- ・画面項目から入力、選択された値を出力する場合、『画面名.項目名(日本語)』を記述する。
- ・テーブル項目から入力、選択された値を出力する場合、『テーブル名.項目名(日本語)』を記述する。
- ・ファイル項目から入力、選択された値を出力する場合、『ファイル名.項目名(日本語)』を記述する。
- ・固定値、定数を出力する場合には『』で文字列を括って記述する。
 - ・0が入る場合・・・”0”
 - ・空白文字が入る場合(Not NULL 項目など)・・・” ”
- ・定数のうち、2 つ以上の値から条件によりどちらかを出力する場合は『or』を使用する。
”受付完了” or “登録完了”

3.1.8 ユースケース機能記述(入力データ処理定義) [注11]

オンラインユースケース内の画面毎のアクション単位に

テーブル入力、ファイル入力に伴う業務ロジック(入力データチェック、データ判定、演算処理等)を「ユースケース機能記述(入力データ処理定義)」の書式で定義する。

[注11]:入力データ処理定義の書式は、入力処理が主となるテーブル、ファイルの場合に用いる。部分的な出力処理がある場合に用いても良い。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケース ID、ユースケース名、遷移元画面 ID、遷移元画面名

入力処理を行うユースケース ID、ユースケース名

およびアクションの遷移元画面 ID、遷移元画面名を記述する。

2) アクション / 処理ステップ

テーブルまたはファイル入力を行うアクション名を記述する。

3) アクション、アクション指示項目名

遷移元画面のアクション指示項目名を記述する。

4) 入力テーブル / ファイルID、入力テーブル / ファイル名

入力処理対象の出力テーブル / ファイルID、入力テーブル / ファイル名を記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

5) アクセス種別[注12]

テーブルまたはファイルへのアクセス種別を記載する。

No.	表記名	意味
1	C	創成
2	U	更新
3	R	参照
4	D	削除

[注12]:アクセス種別は、複数種類の記述可。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)(必須)

該当の「テーブル/ファイル定義」を引き継ぐ。

(3) 入力データ処理仕様(必須)

・アクションで入力するテーブルまたはファイル項目の業務ロジック
を記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3.2 バッチ処理ユースケースの場合

3.2.1 ユースケース機能記述(バッチ機能概要 - 処理フロー)

「ユースケース機能記述(バッチ機能概要 - 処理フロー)」の書式を使用して
ユースケース単位に、以下の定義を行う。

- ・バッチ機能概要
- ・処理フロー

3.2.1.1 ユースケース機能記述(バッチ機能概要記述)

(1) ユースケースID、ユースケース名(必須)

「UI01 ユースケース一覧」の該当ユースケースのユースケースID、
ユースケース名を記述する。

(2) 機能概要(必須)

「UI01 ユースケース一覧」の該当ユースケースの機能概要を転記する。

(3) 部門名(必須)

「UI01 ユースケース一覧」の該当ユースケースの部門名を転記する。

(4) イベント(必須)

当ユースケースの処理トリガーを記述する。他部門、他システム、
他サブシステムとの関連があれば、その関連も記述する。

(5) 主要な入力データ名(必須)

当ユースケースの主要な入力データ名(伝票名、入力データ項目名 等)を記述する。

(6) 主要な出力データ名(必須)

当ユースケースの主要な出力データ名(帳票名、出力データ項目名 等)を記述する。

3.2.1.2 ユースケース機能記述(処理フロー)

- ・バッチ処理仕様の概要を入力情報、処理ロジック、参照情報、出力情報の
観点で、処理フロー形式で記述する。
- ・入力情報、処理ロジック、参照情報、出力情報の組が複数組存在する時は、
それぞれの組を「処理ステップ」と定義する。

・処理フロ - は、以下の様に記述する

1) 画面 / 帳票

画面名

帳票名

2) 処理

処理概要 / 処理名

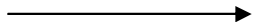
UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3) テーブル/ファイル



4) 情報線

情報概要 / 情報名



5) アクセス種別

No.	表記名	意味
1	C	創成
2	U	更新
3	R	参照
4	D	削除

3.2.2 ユースケース機能記述(バッチ総括記述)

「ユースケース機能記述(バッチ総括記述)」の書式を使用して
ユースケース単位に、バッチ処をの総括記述する。

3.2.3 ユースケース機能記述(帳票レイアウト定義)[注13]

「ユースケース機能記述(帳票レイアウト定義)」の書式を使用して
ユースケース内の帳票単位に、帳票レイアウトの定義を行う。
作成する帳票レイアウトについては、原則として帳票設計規約に準拠すること。

[注13]: 帳票出力を伴わないバッチ処理では、この定義は不要。

(1) 帳票ID、帳票名(必須)

命名規約に従い、帳票ID、帳票名を記述する。

(2) ユースケースID、ユースケース名(必須)

帳票に対応するユースケース名、ユースケース ID を記述する。

(3) 帳票出力条件(必須)

作成する帳票の出力条件(出力順序、改ページ条件、見出し出力条件、
ページ付与条件)を明確にする。

(4) 補足事項(任意)

補足事項(フォント名、フォントスタイル、フォントサイズ、フォント色の指定等)、
帳票規約の例外事項等があれば、右の枠内へ説明を記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3.2.4 ユースケース機能記述(帳票項目定義) [注14]

「ユースケース機能記述(帳票項目定義)」の書式を使用して
ユースケース内の帳票単位に、帳票項目の定義を行う。

[注14]: 帳票出力を伴わないバッチ処理では、この定義は不要。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) 帳票ID、帳票名

命名規約に従い、帳票ID、帳票名を記述する。

2) ユースケースID、ユースケース名

帳票に対応するユースケース名、ユースケース ID を記述する。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)、項目名(英字)

1) No(必須)

帳票項目に対する連番を記述する。

注釈行を入れるときは No に * を入れる。

2) 階層レベル(任意)

単純な繰り返し項目や明細の様な一纏まりの項目を繰返す場合、
纏まりを表すためにレベル番号を記述する。

3) 項目名(日本語)(必須)

帳票項目の日本語の項目名を記述する。

4) 項目名(英字)(必須)

日本語の項目名に対応した英字の項目名(実装上の命名)を記述する。
(当作業は、SS工程で実施する。)

(3) データタイプ名(任意)

帳票項目のデータタイプ名を記述する。

([注15]: データタイプ名定義を実施するシステムは必須)

(4) 型(必須)

・入力項目の型を、以下の様に記述する。 [注16]

No	型	備考
1	数値	半角 + - , . 0 ~ 9
2	英数字	半角英数字、記号
3	半角	半角混在(英数字、カナ、記号)
4	全角	全角混在(英数字、カナ、記号)
5	混在	半角、全角混在

[注16]: システム特性に合わせて必要な“型”の追加も可。

(5) 桁数(整数部、小数部)(必須) [注17]

・型が数値の場合、整数部桁数および小数部桁数を記述する。

但し、小数部がない場合は、小数部桁数を省略可。

・型が英数字、半角、全角の場合、整数部桁数欄に文字数を記述する。

・型が混在の場合、整数部桁数欄に半角換算文字数を記述する。

[注17]: データ項目が、データタイプに属する場合は省略可。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(6) 符号(必須)

符号付き数字の場合" S "を記述する。

(7) ポイント(任意)

文字の大きさを記述する。(S S 工程での記述は必須)

(8) 配置(任意)

該当する配置にチェックする。

- 左:左詰め
- 中:中央揃え
- 右:右詰め

3.2.5 ユースケース機能記述(出力データ処理定義) [注18]

バッチユースケースの処理ステップ単位に

テーブル更新、ファイル更新および帳票編集・出力に伴う業務ロジックを

「ユースケース機能記述(出力データ処理定義)」の書式で定義する。

[注18]:出力データ処理定義の書式は、出力処理が主となるテーブル、ファイルの場合に用いる。部分的な入力処理がある場合に用いても良い。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケース ID、ユースケース名、遷移元画面 ID、遷移元画面名

出力処理を行うユースケース ID、ユースケース名を記述する。

遷移元画面 ID、遷移元画面名は記述不要。

2) アクション / 処理ステップ

テーブルまたはファイル更新を行う処理ステップ名を記述する。

3) アクション、アクション指示項目名

記述不要。

4) 出力テーブル / ファイルID、出力テーブル / ファイル名

出力処理対象の出力テーブル / ファイルID、出力テーブル / ファイル名を記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

5) アクセス種別[注19]

テーブルまたはファイルへのアクセス種別を記載する。

No.	表記名	意味
1	C	創成
2	U	更新
3	R	参照
4	D	削除

[注19]:アクセス種別は、複数種類の記述可。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)(必須)

該当の「テーブル/ファイル定義」を引き継ぐ。

(3) 出力データ処理仕様(必須)

- ・バッチで更新するテーブルまたはファイル項目の業務ロジック
および出力内容を記述する。
(業務ロジックを伴わない場合は、出力内容のみを記述する。)
- ・画面項目から入力、選択された値を出力する場合、『画面名.項目名(日本語)』を記述する。
- ・テーブル項目から入力、選択された値を出力する場合、『テーブル名.項目名(日本語)』を記述する。
- ・ファイル項目から入力、選択された値を出力する場合、『ファイル名.項目名(日本語)』を記述する。
- ・固定値、定数を出力する場合には『”』で文字列を括って記述する。
 - ・0が入る場合・・・”0”
 - ・空白文字が入る場合(Not NULL 項目など)・・・” ”
- ・定数のうち、2 つ以上の値から条件によりどちらかを出力する場合は『or』を使用する。
”受付完了” or “登録完了”

UI02	ユースケース機能記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

3.2.6 ユースケース機能記述(入データ処理定義) [注20]

バッチユースケースの処理ステップ単位に

テーブル入力、ファイル入力に伴う業務ロジック(入力データチェック、データ判定、演算処理等)を「ユースケース機能記述(入データ処理定義)」の書式で定義する。

[注20]:入データ処理定義の書式は、入力処理が主となるテーブル、ファイルの場合に用いる。部分的な出力処理がある場合に用いても良い。

(1) ヘッダー項目(必須)

1) ユースケース ID、ユースケース名、遷移元画面 ID、遷移元画面名

入力処理を行うユースケース ID、ユースケース名を記述する。

遷移元画面 ID、遷移元画面名は記述不要。

2) アクション / 処理ステップ

テーブルまたはファイル入力を行う処理ステップ名を記述する。

3) アクション、アクション指示項目名

記述不要。

4) 入力テーブル / ファイルID、入力テーブル / ファイル名

入力処理対象の出力テーブル / ファイルID、入力テーブル / ファイル名を記述する。

5) アクセス種別[注21]

テーブルまたはファイルへのアクセス種別を記載する。

No.	表記名	意味
1	C	創成
2	U	更新
3	R	参照
4	D	削除

[注21]:アクセス種別は、複数種類の記述可。

(2) No、階層レベル、項目名(日本語)(必須)

該当の「テーブル / ファイル定義」を引き継ぐ。

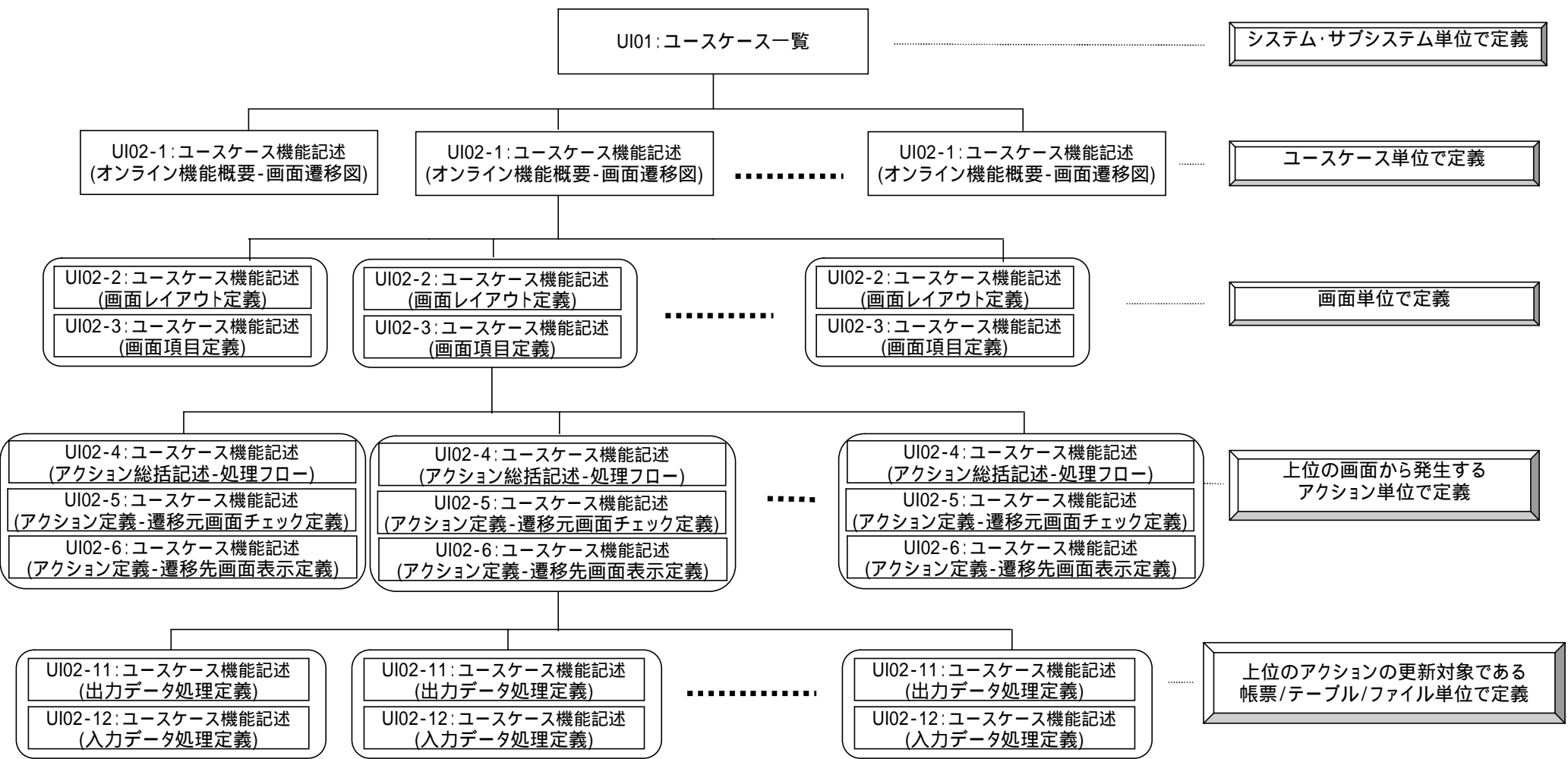
(3) 入データ処理仕様(必須)

・処理ステップで入力するテーブルまたはファイル項目の業務ロジックを記述する。

UI02	ユースケース機能記述 記述要領 別 紙	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/04/20	
				第 版		

1. オンラインユースケース機能記述概念図

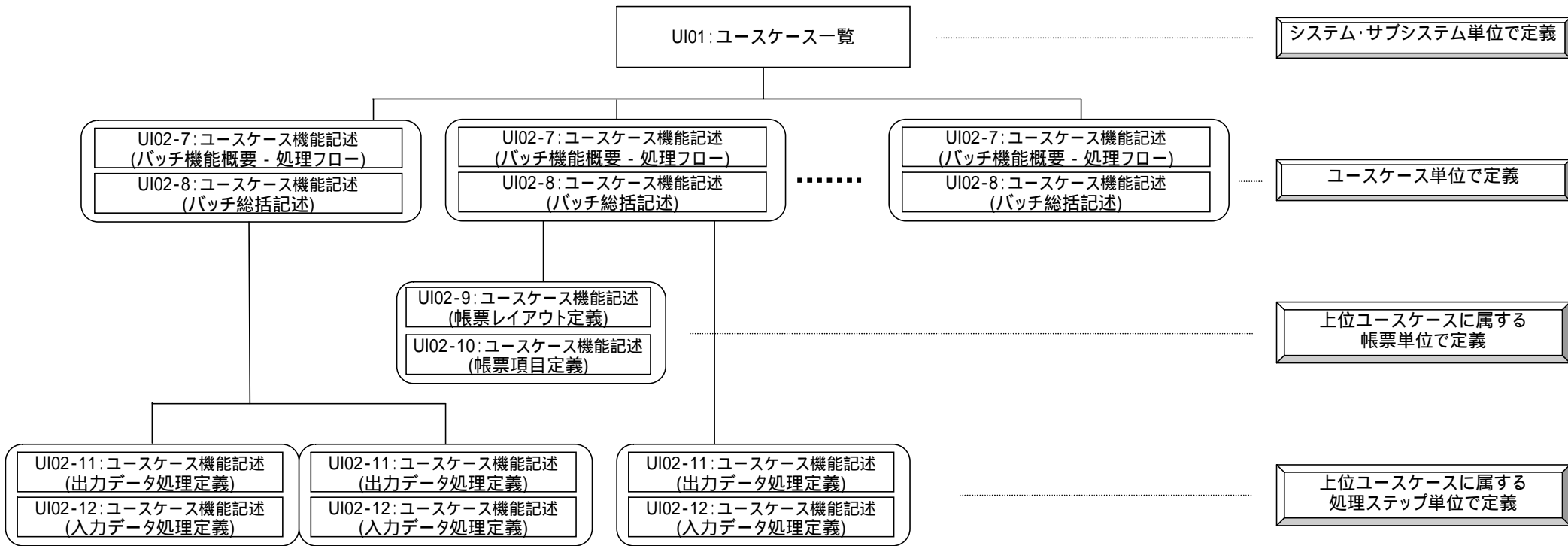
1.1. ユースケース機能記述のブレイクダウン構造



UI02	ユースケース機能記述 記述要領 別 紙	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/04/20	
				第 版		

2 . バッチユースケース機能記述概念図

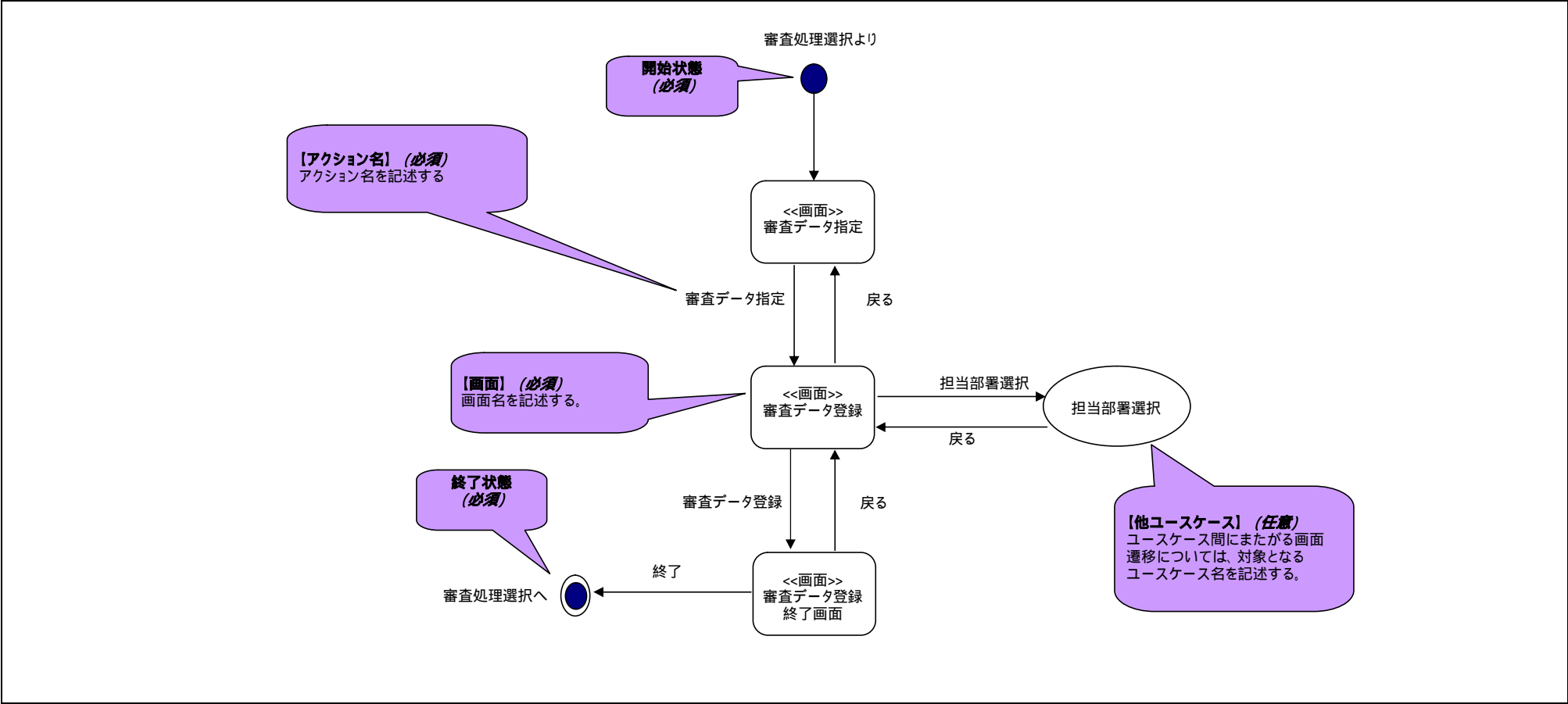
2 . 1 . ユースケース機能記述のブレイクダウン構造



UI02-1	ユースケース機能記述 (オンライン機能概要-画面遷移図)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

ユースケースID	DSO0020
ユースケース名	審査データ登録
機能概要	審査結果の入力を行う。
部門名	審査部
イベント	審査完了伝票受領時
主要な入力データ名	審査完了伝票
主要な出力データ名	審査日付、時刻、担当部署

登録済みの申請データに、
審査データを追加入力し、「審査結果
入力ボタン」の押下で、入力データ
の一括チェックを行う事例です。



画面ID	UKE00050	ユースケースID	DSO0020
画面名	審査データ登録画面	ユースケース名	審査データ登録

補足事項

68

UI02-3	ユースケース機能記述 (画面項目定義)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/4/22	
					第 版		

画面 I D				UKE00050	ユースケース I D	DS00020										
画面名				審査データ登録画面	ユースケース名	審査データ登録										
No				項目名 (日本語)	項目名 (英字)	データタイプ名	型	桁数		値の範囲	入出力 種別	タブ順	表示形式	入力形式	その他表示仕様	項目説明
階層レベル								整数部	小数部							
1	1			手続識別子			英数字	4			O		text(9999)			
2	2			手続名		名称 (漢字)					O		text(xxxx)			
3	3			到達番号			英数字	4			O		text(9999)			
4	4			問合せ番号			英数字	4		1-9998	O		text(9999)			
5	5			取扱状況			全角	30			O		text(xxxx)			
6	6			到達日付		年月日					O		text(YYYY年MM月DD日)			
7	7			到達時刻		時刻					O		text(hh時mm分ss秒)			
8	8			受付日付		年月日					O		text(YYYY年MM月DD日)			
9	9			受付時刻		時刻					O		text(hh時mm分ss秒)			
10	10			審査日付		年月日					I		text(YYYY年MM月DD日)			
11	11			審査時刻		時刻					I		text(hh時mm分ss秒)			
12	12			取下げ要求日付		年月日					I		text(YYYY年MM月DD日)			
13	13			取下げ要求時刻		時刻					I		text(hh時mm分ss秒)			
14	14			取下げ完了日付		年月日					I		text(YYYY年MM月DD日)			
15	15			取下げ完了時刻		時刻					I		text(hh時mm分ss秒)			
16	16			申請者		名称 (漢字)					O		text(xxxx)			
17	17			作成者		名称 (漢字)					O		text(xxxx)			
18	18			受付部署			全角	40			O		text(xxxx)			
19	19			審査部署			全角	40			O		text(xxxx)			
20	20			所管部署			全角	40			O		text(xxxx)			
21	21			申請書類種別							O		combo			
*				繰返しMAX= 5												
22	22	1		申請書類ファイル名			英数字	40			O		text(英数字)			
23	22	2		申請書類到達日		年月日					O		text(YYYY年MM月DD日)			
24	22	3		申請書類受取日		年月日					O		text(YYYY年MM月DD日)			
25	22	4		申請書類署名付与			全角	1			O		text(x)			署名有り： " 有 " 署名無し： " 無 "
*																
26	23			通知書類種別			数値	1			O		text(9)			業務用語定義参照
27	24			通知書類ファイル名			英数字	40			O		text(英数字)			
28	25			通知書類発行日		年月日					O		text(YYYY年MM月DD日)			
29	26			通知書類署名付与			全角	1			O		text(x)			署名有り： " 有 " 署名無し： " 無 "
30	27			検索ボタン							I		button			
31	28			更新ボタン							I		button			
32	29			担当部署選択ボタン							I		button			
33	30			申請書類名 (リンク)							O		link			
34	31			通知書類名 (リンク)							O		link			
35	32			受付結果入力ボタン							I		button			
36	33			審査結果入力ボタン							I		button			
37	34			添付書類追加要求ボタン							I		button			
38	35			取下げ結果入力ボタン							I		button			
39	36			添付書類追加要求取下げボタン							O		button			
40	37			戻るボタン							I		button(画像)			
41	38			メッセージ			全角	80			O		label(xxxx)			

SS
工程で
記述する

UI02-4	ユースケース機能記述 (アクション総括記述 - 処理フロー)		システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/14	
					第 版		
ユースケースID	DS00020	遷移元画面ID	UKE00050	アクション	審査結果登録		
ユースケース名	審査データ登録	遷移元画面名	審査データ登録画面	アクション指示項目名	審査結果入力ボタン		
【アクション処理の総括記述】							配置
							クライアントサーバ
1. 入力データチェック仕様とエラー処理仕様							
・業務進行状態が「受付終了」である事。 エラーメッセージ：申請データが「受付終了」になっていません。							
・審査日付は、「アクション定義 別紙」の仕様でチェックし、エラー処理する。							
・審査時刻は、時刻範囲チェック エラーメッセージ：審査時刻に誤りがあります。							
2. データ処理仕様							
・審査データ登録画面から入力された審査日付、審査時刻を該当テーブルに記録する。							
・業務遷移状態を「審査終了」に変更する。							
・担当部署選択画面で選択した担当部署コードを該当テーブルに記録する。							
3. 正常終了時の業務メッセージ							
・審査データ登録終了画面のメッセージ欄に「画面審査データの登録が正常終了しました。」を出力する。							
4. 画面遷移仕様							
・審査データの登録が正常終了した場合は、審査データ登録終了画面に遷移する。							
【アクション内の処理フロー】							
<div><div><<画面>> 審査データ登録</div><div>→</div><div>・業務状態遷移 チェック ・画面入力データ チェック</div><div>← R</div><div>申請管理 テーブル</div><div>→</div><div>・申請管理 テーブル更新</div><div>↓ U</div><div>申請管理 テーブル</div><div>→</div><div><<画面>> 審査データ登録 終了画面</div></div>							

UI02-5	ユースケース機能記述 (アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)					システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者	
	記述例							初版	2004/5/14		
								第 版			

ユースケースID		DS00020			遷移元画面ID		UKE00050			アクション		審査結果登録	
ユースケース名		審査データ登録			遷移元画面名		審査データ登録画面			アクション指示項目名		審査結果入力ボタン	

No		項目名（日本語）			入力 必須 項目	チェック仕様およびエラー処理仕様	メッセージ コード	配置	
								クライ アント	サーバ
画面共通欄						・申請管理テーブルの「進行状態」が「受付終了」である事。 ・エラーメッセージ:申請データが「受付終了」になっていま せん。 ・審査データ登録後、申請管理テーブルの「進行状態」を「審査終了」に変更する。	DSE0010		
1	1				手続識別子				
2	2				手続名				
3	3				到達番号				
4	4				問合せ番号				
5	5				取扱状況				
6	6				到達日付				
7	7				到達時刻				
8	8				受付日付				
9	9				受付時刻				
10	10				審査日付		「アクション定義 別紙」参照		
11	11				審査時刻		・時刻範囲チェック ・エラーメッセージ: 審査時刻に誤りがあります。	DSE0020	
12	12				取下げ要求日付				
13	13				取下げ要求時刻				
14	14				取下げ完了日付				
15	15				取下げ完了時刻				
16	16				申請者				
17	17				作成者				
18	18				受付部署				
19	19				審査部署				
20	20				所管部署				
21	21				申請書類種別				
*					繰返しMAX= 5				
22	22	1			申請書類ファイル名				
23	22	2			申請書類到達日				

UI02-5	ユースケース機能記述 (アクション定義 - 遷移元画面チェック定義)	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

ユースケースID	DS00020	遷移元画面ID	UKE00050	アクション	審査結果登録
ユースケース名	審査データ登録	遷移元画面名	審査データ登録画面	アクション指示項目名	審査結果入力ボタン

No					項目名(日本語)	入力 必須 項目	チェック仕様およびエラー処理仕様	メッセージ コード	配置	
									クライ アント	サーバ
24	22	3			申請書類受取日					
25	22	4			申請書類署名付与					
*										
26	23				通知書類種別					
27	24				通知書類ファイル名					
28	25				通知書類発行日					
29	26				通知書類署名付与					
30	27				検索ボタン					
31	28				更新ボタン					
32	29				担当部署選択ボタン					
33	30				申請書類名					
34	31				通知書類名					
35	32				受付結果入力ボタン					
36	33				審査結果入力ボタン		・当ボタン押下時、入力項目の一括チェックを行う。			
38	35				取下げ結果入力ボタン					
39	36				添付書類追加要求取下げボタン					
40	37				戻るボタン					
41	38				メッセージ					

チェックタイミング定義の記述例
です。

UI02-6	ユースケース機能記述 (アクション定義・遷移先画面表示定義)		記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
						初版	2004/4/26	
						第 版		

ユースケースID	DS00020	遷移先画面ID	UKE00051	アクション	審査結果登録
ユースケース名	審査データ登録	遷移先画面名	審査データ登録終了画面	アクション指示項目名	審査結果入力ボタン

No					項目名（日本語）	入力不可	データ表示仕様	表示属性変更仕様
階層レベル								
1	1				手続識別子		審査データ指定画面.手続識別子	
2	2				手続名		手続.手続名	
3	3				到達番号		画面表示型：textをlabelに変更する。	
4	4				問合せ番号		画面表示型：textをlabelに変更する。	
5	5				取扱状況		取扱M.状況名	
6	6				到達日付		申請管理.到達日付	
7	7				到達時刻		申請管理.到達時刻	
8	8				受付日付		申請管理.受付日付	
9	9				受付時刻		申請管理.受付時刻	
10	10				審査日付		審査データ登録画面.審査日付	
11	11				審査時刻		審査データ登録画面.審査時刻	
12	12				取下げ要求日付			
13	13				取下げ要求時刻			
14	14				取下げ完了日付			
15	15				取下げ完了時刻			
16	16				申請者		申請管理.申請者	
17	17				作成者		申請管理.作成者	
18	18				受付部署		申請管理.受付部署	
19	19				審査部署		申請管理.審査部署	
20	20				所管部署		申請管理.所管部署	
21	21				申請書類種別		"前申請":0,"後申請":1,"無申告":2	
*					繰返しMAX= 5			

UI02-6	ユースケース機能記述 (アクション定義・遷移先画面表示定義)		システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/4/26	
					第 版		

ユースケースID	DS00020	遷移先画面ID	UKE00051	アクション	審査結果登録
ユースケース名	審査データ登録	遷移先画面名	審査データ登録終了画面	アクション指示項目名	審査結果入力ボタン

No					項目名（日本語）	入力 不可	データ表示仕様	表示属性変更仕様
		階層レベル						
22	22	1			申請書類ファイル名		申請管理.申請書類ファイル名	
23	22	2			申請書類到達日		申請管理.申請書類到達日	
24	22	3			申請書類受取日		申請管理.申請書類受取日	
25	22	4			申請書類署名付与		申請管理.申請書類署名付与	
*								
26	23				通知書類種別		申請管理.通知書類種別	
27	24				通知書類ファイル名		申請管理.通知書類ファイル名	
28	25				通知書類発行日		申請管理.通知書類発行日	
29	26				通知書類署名付与		申請管理.通知書類署名付与	
30	27				検索ボタン	-		
31	28				更新ボタン	-		
32	29				担当部署選択ボタン	-		
33	30				申請書類名		・ 申請管理. 申請モード = 0 なら 申請管理. 申請書類名 以外 ..	
34	31				通知書類名		・ 申請管理. 申請モード = 0 なら 申請管理. 通知書類名 以外 ..	
35	32				受付結果入力ボタン	-		
36	33				審査結果入力ボタン	-		
38	35				取下げ結果入力ボタン	-		
39	36				添付書類追加要求取下げボタン	-		
40	37				戻るボタン	-		
41	38				メッセージ		DS10060 審査データの登録が正常終了しました。	

UI02	ユースケース機能記述 (アクション定義-別紙)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/4/23	
					第 版		

ユースケースID	DS00020	遷移先画面ID	UKE00050	アクション	審査結果登録
ユースケース名	審査データ登録	遷移先画面名	審査データ登録画面	アクション指示項目名	審査結果入力ボタン

・入力項目とテーブル項目の関連チェック仕様およびエラー処理仕様

	申請管理テーブル	申請管理テーブル
	到達日付+時刻	受付完了日+時刻
審査日付	・到達日付 < = 受付完了日 < = 審査日付 ・エラーメッセージ: 審査日付と到達日付、受付完了日の関連に誤りがあります。	

以下項目のどの仕様の別紙であることを明記する事。

- ・入力項目間の関連チェック仕様およびエラー処理仕様
- ・入力項目とテーブル項目の関連チェック仕様およびエラー処理仕様
- ・アクション固有の単項目チェック仕様(値の範囲の変更など)およびエラー処理仕様

UI02-11	ユースケース機能記述 (出力データ処理定義)	記述例	システム名	出力データ	版数	作成日	作成者
					初版	2004/4/22	
					第 版		

テーブル更新定義の事例です。

ユースケースID	DS00020	遷移元画面ID	UKE00050	アクション/処理ステップ	審査結果登録
ユースケース名	審査データ登録	遷移元画面名	審査データ登録画面	アクション指示項目名	審査結果入力ボタン

出力テーブル/ファイルID	SST00030
出力テーブル/ファイル名	申請管理テーブル
アクセス種別	U

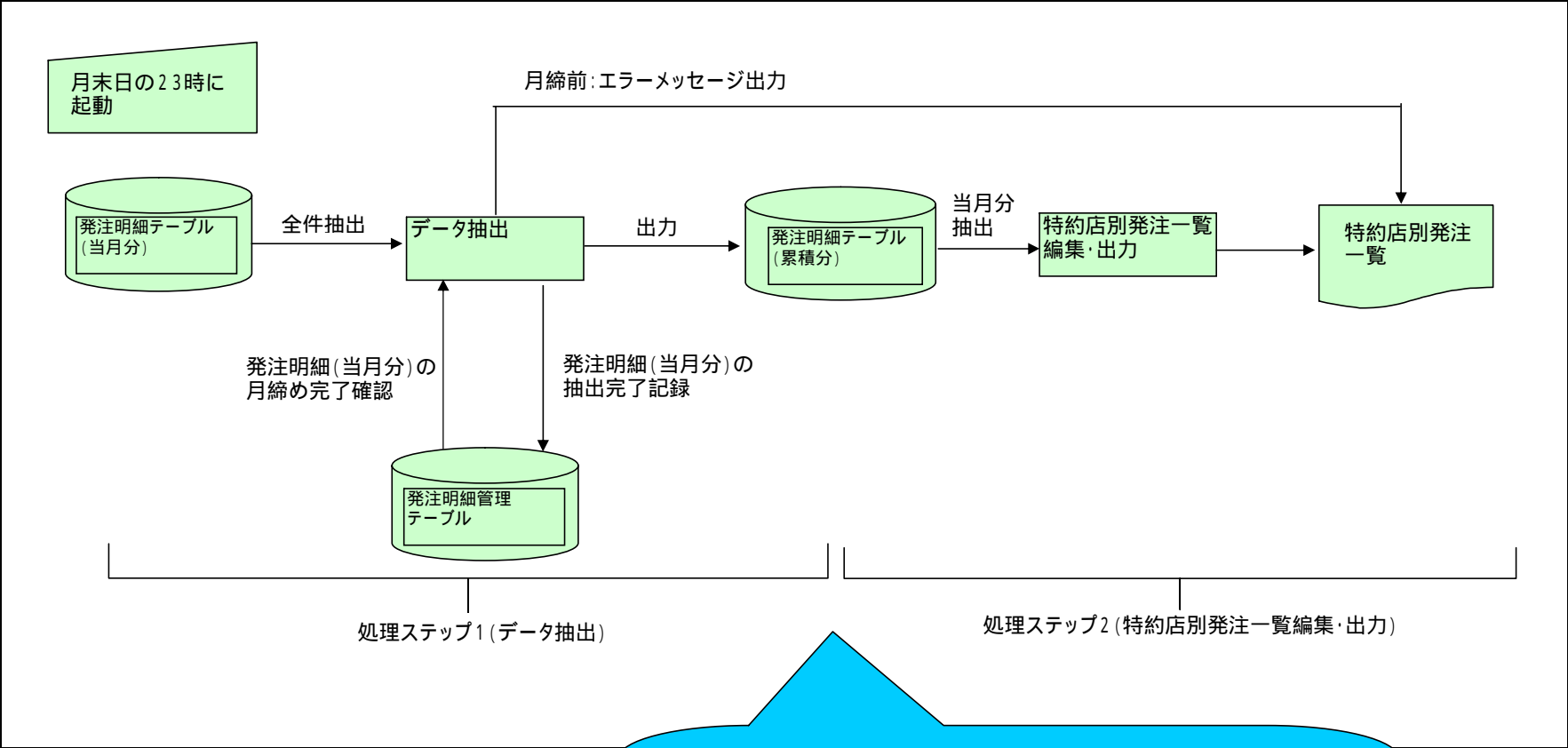
No.	階層レベル	出力側項目名(日本語)	出力データ処理仕様	備考
1		到達番号		
2		削除フラグ		
3		進行状態	・ 2 (審査終了) にする。	
4		取扱状況コード		
5		エラー詳細内容		
6		問い合わせ番号		
7		手続識別子		
8		手続バージョン		
9		受付前処理状況		
10		受付後処理状況		
11		審査後処理状況		
12		受付部署コード		
13		審査部署コード		
14		担当部署コード	・ 担当部署選択画面. 担当部署コード	
15		到達日付 + 時刻		
16		受付完了日 + 時刻		
17		受付職員番号		
18		審査完了日 + 時刻	・ 審査データ登録画面. 審査日付、審査時刻を編集する。	
19		審査職員番号		
20		取下け依頼日付 + 時刻		
21		取下け完了日付 + 時刻		
22		一覧表示用通信欄		
23		申請者名 (法人 + 役職 + 名)		
24		作成者名 (法人 + 役職 + 名)		
25		作成者メールアドレス		
26		ユーザID (申請者)		
27		申請書類名		
28		通知書類名		
29		重複到達番号 × 5		
30		受付可能督促通知済フラグ		
31		審査可能督促通知済フラグ		
32		原本出力済フラグ		
33		公文書取得済みフラグ		
34		保管期間切れフラグ		
35		参照権限種別		

UI02-12	ユースケース機能記述 (入力データ処理定義)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/4/23	

[illegible]

UI02-7	ユースケース機能記述 (バッチ機能概要-処理フロー)	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
		記述例		初版 第 版	2004/5/17	

ユースケースID	ESB0010
ユースケース名	特約店別発注一覧作成
機能概要	発注伝票データの月締め処理を行い、該当月の「特約店別発注一覧」（当月分）を出力する。
担当部署 / 担当者	情報システム部
イベント	月末日の23時起動
主要な入力データ名	発注明細テーブル（当月分）
主要な出力データ名	発注明細テーブル（累積分）、「特約店別発注一覧」（当月分）



[バッチ機能概要 - 処理フロー 記述例]
帳票出力を行う事例です。

[illegible]

UI02-9	ユースケース機能記述 (帳票レイアウト定義)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/14	
					第 版		

帳票 I D	L90002	ユースケース I D	ESB0010
帳票名	特約店別発注一覧	ユースケース名	特約店別発注一覧作成

【帳票出力条件】 (必須)
作成する帳票の出力条件を明確にする。

L90L0002									
特約店別発注一覧 (N N 月度)									
特約店 : XXXXX NNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNNN									
注文主コード	注文主翻訳名	発注番号	銘柄 C D	銘柄番号	荷姿 C D	荷姿番号	荷姿略称	個数	数量 (L)
XXXXX	NNNNNNNNNN	9999999999	XXXXXX	99999	XXXX	99999999	NNNNNNNN	Z, ZZZ, ZZZ, ZZ9	Z, ZZZ, ZZZ, ZZ9
XXXXX	NNNNNNNNNN	9999999999	XXXXXX	99999	XXXX	99999999	NNNNNNNN	Z, ZZZ, ZZZ, ZZ9	Z, ZZZ, ZZZ, ZZ9
XXXXX	NNNNNNNNNN	9999999999	XXXXXX	99999	XXXX	99999999	NNNNNNNN	Z, ZZZ, ZZZ, ZZ9	Z, ZZZ, ZZZ, ZZ9
小計 (注文主)								ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZ9	ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZ9
合計 (特約店)								ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZ9	ZZZ, ZZZ, ZZZ, ZZ9

【帳票レイアウト】 (必須)
作成する帳票レイアウトについては、
帳票設計規約に準拠すること。

【帳票出力条件】

出力順序

処理センターコード
店番号
顧客番号

以上の順で出力する。

改ページ条件

1 ページ 2 5 件出力した場合。
店番号が変わった場合。
顧客番号が変わった場合。

見出し出力条件

改ページした場合。

ページ付与基準

1 から昇順に付与する。

【補足事項】

【補足事項】 (任意)
補足事項 (フォント名、
フォントスタイル、
フォントサイズ、
フォント色の指定等)、
帳票規約の例外事項等が
あれば、右の枠内へ説明を
記述する。

UI02-11	ユースケース機能記述 (出力データ処理定義)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/4/21	

ユースケースID	HSB0040	遷移元画面ID	-	アクション/処理ステップ	特約店別発注一覧編集・出力
ユースケース名	特約店発注一覧作成	遷移元画面名	-	アクション指示項目名	-

出力テーブル/ファイルID	HST00040
出力テーブル/ファイル名	発注明細テーブル
アクセス種別	-

[illegible]

UI02-11	ユースケース機能記述 (出力データ処理定義)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/4/21	

ユースケースID	HSB0040	遷移元画面ID	-	アクション/処理ステップ	データ抽出
ユースケース名	特約店発注一覧作成	遷移元画面名	-	アクション指示項目名	-

出力テーブル/ファイルID	HST00041
出力テーブル/ファイル名	発注明細管理テーブル
アクセス種別	C

[illegible]

UI03	画面一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

システムで使用する画面の種類を整理し、全体量を把握する。また、資産の管理に用いる。

2 記述例補足

(1) 画面ID、画面名(必須)

命名規約に従い画面ID、画面名を記述する。

(2) 概要(必須)

画面の目的や処理の内容を記述する。

(3) 利用ロケーション(任意)

画面を利用する部門、組織、場所を記述する。

UI03	画面一覧		システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/1/13	
					第 版		
No	画面 I D	画面名	概要	利用ロケーション	備考		
1	L57G001	中味品受注入力	中味品の受注データ・出荷予約データの登録画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
2	L57G002	中味品受注変更	中味品の受注データ・出荷予約データの変更画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
3	L57G003	受注抽出条件	受注データ・出荷予約データ・出荷実績データを一覧表示する際の条件指定画面 (中味品・詰品共用)	受注配車センター・支店・本社・基地			
4	L57G004	受注一覧照会	受注データ・出荷予約データ・出荷実績データを一覧表示する画面。 本画面から、変更、一覧印刷、明細照会、変更履歴一覧照会に遷移する。	受注配車センター・支店・本社・基地			
5	L57G005	中味品受注変更履歴一覧	中味品の受注データ・出荷予約データ・出荷実績データの明細照会画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
6	L57G006	中味品受注変更履歴一覧	中味品の受注データ・出荷予約データ・出荷実績データの履歴一覧表示画面。	受注配車センター・支店・本社・基地			
7	L57G007	中味品出荷実績入力	中味品の予約無し出荷実績データの登録、及び詰品の出荷予約データを実績化(出荷実績データ)する画面。	受注配車センター・支店・本社・基地			
8	L57G008	中味品出荷実績変更	中味品の出荷実績データの変更画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
9	L57G009	詰品受注入力	詰品の受注データ・出荷予約データの登録画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
10	L57G010	詰品受注変更	詰品の受注データ・出荷予約データの変更画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
11	L57G011	詰品受注明細照会	詰品の受注データ・出荷予約データ・出荷実績データの明細照会画面 詰品受注変更履歴一覧より遷移する。	受注配車センター・支店・本社・基地			
12	L57G012	詰品受注変更履歴一覧	詰品の受注データ・出荷予約データ・出荷実績データの履歴一覧表示画面。 本画面から、明細照会の画面に遷移可能。	受注配車センター・支店・本社・基地			
13	L57G013	詰品出荷実績入力	詰品の予約無し出荷実績データの登録、及び詰品の出荷予約データを実績化(出荷実績データ)する画面。	受注配車センター・支店・本社・基地			
14	L57G014	詰品出荷実績変更	詰品の出荷実績データの変更画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
15	L57G015	中味品受注照会	中味品の受注データ・出荷予約データ・出荷実績データの明細照会画面 受注抽出条件、受注一覧照会より遷移する。	受注配車センター・支店・本社・基地			
16	L57G016	詰品受注照会	詰品の受注データ・出荷予約データ・出荷実績データの明細照会画面 受注抽出条件、受注一覧照会より遷移する。	受注配車センター・支店・本社・基地			
17	L57G020	検収増減入力	検収用の画面。中味品のみ。				
18	L57G101	中味品転送予約入力	中味品の転送依頼データ・転送予約データの登録画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
19	L57G102	中味品転送予約変更	中味品の転送依頼データ・転送予約データの変更画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
20	L57G103	転送抽出条件	転送依頼・転送予約・転送払出実績・転送受入実績の各データを一覧表示する際の条件指定画面	受注配車センター・支店・本社・基地			
21	L57G104	転送一覧照会	転送依頼・転送予約・転送払出実績・転送受入実績の各データを一覧表示する画面。	受注配車センター・支店・本社・基地			

記述例

【画面名】(必須)
画面上に表示される
タイトル名を日本語で
記述する。

【概要】(必須)
画面の目的や処理
の内容を記述する。

【利用ロケーション】(任意)
画面を利用する部門、組織、場所
を記述する。

【画面ID】(必須)
画面IDを命名規約
に従い記述する。

UI04	帳票一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

システムで使用する帳票の種類を整理し、全体量を把握する。また、資産の管理に用いる。

2 記述例補足

(1) 帳票ID、帳票名(必須)

命名規約に従い帳票ID、帳票名を記述する。

(2) 概要(必須)

帳票の目的や処理の内容を記述する。

(3) 用紙サイズ、出力枚数、部数(必須)

出力時の用紙サイズ(A4、B4、A3、連帳(ストックフォーム)など)、一回の出力で要求される概算の枚数及び部数を記述する。

(4) 作成条件(必須)

帳票が出力されるタイミング(日次、週次、月次、旬次、四半期、半期、年次、随時など)を記述する。

(5) 出力方法(必須)

出力方法(バッチ印刷、オンライン印刷、電子帳票など)を記述する。

(6) 出力場所(任意)

印刷物を出力する部門、組織、場所を記述する。

(7) 保有期間(任意)

電子帳票の保有期間を記述する。

(8) 出力形式(任意)

印刷する用紙の様式(オーバーレイ、複写用紙など)を記述する。

(9) 出力形式ID(任意)

印刷様式として指定されているコード(フォームオーバーレイ、パターン識別コード、帳票ID、アウトプット用紙コードなど)を記述する。

UI04		帳票一覧		記述例		システム名			サブシステム名		版数	作成日	作成者
											初版	2004/4/1	
											第 版		
No.	帳票ID	帳票名	概要	用紙 サイ	出力 枚数	部 数	作成 条件	出力方法	出力場所	保有 期間	出力形式	出力形 式 I D	備考
1	L57118	モニタリスト	中味品出荷実績を照会・変更時の 内容を表した帳表	A4横	10枚	1	随時	オンライン印刷	全社内		複写用紙		
2	L57119	中味品受注エラー リスト	受注ファイル格納時にエラーとな った中味品 の受注データ のリスト	A4横	3枚	1	随時	オンライン印刷 (EXCEL)	受注配車センタ				
				A4横	3枚	1	随時	オンライン印刷 (EXCEL)					
				A4横	3枚	1	随時	オンライン印刷 (PDF)					
5	L57122	中味品購入エラー リスト	購入ファイル格納時にエラーとな った中味品 の購入データのリスト	A4横	3枚	1	随時	オンライン印刷	受注配車センタ				
6	L57123	中味品転送エラー リスト	転送ファイル格納時にエラーとな った中味品 の転送データのリスト	A4横	3枚	1	日次	電子帳票	受注配車センタ	2ヶ月			
7	L57124	中味品購入エラー リスト	購入ファイル格納時にエラーとな った中味品 の購入データのリスト	A4横	3枚	1	日次	電子帳票	受注配車センタ	2ヶ月			
				A4横	3枚	1	日次						
9	L57126	構内エラーリスト	構内ファイル格納時にエラーとな った構内デ ータのリスト	A4横	3枚	1	日次						
10	L57127	中味品受注保留リ スト	保留状態となった中味品の受注デ ータのリスト	A4横	3枚	1	随時	オンライン処理	受注配車センタ				
11	L57128	詰品受注保留リ スト	保留状態となった詰品の受注デ ータのリスト	A4横	5枚	1	随時	オンライン処理	受注配車センタ				
12	L57129	詰品受注保留リ スト	保留状態となった詰品の受注デ ータのリスト	A4横	5枚	1	随時	オンライン処理	受注配車センタ				
13	L57130	中味品受注保留リ スト	保留状態となった中味品の受注デ ータのリスト	A4横	5枚	1	随時	オンライン処理	受注配車センタ				
14	L57132	詰品購入保留リス ト	保留状態となった詰品の購入デ ータのリスト	A4横					受注配車センタ		オーバーレイ	F57001	
15	L57133	構内保留リスト	保留状態となった構内データのリスト	A4横					受注配車センタ		オーバーレイ	F57002	

【帳票名】(必須)
帳票上に表示されるタイトル
名を日本語で記述する。

【用紙サイズ】(必須)
用紙サイズを記述する。
A4, B4, A3, 連帳(ストック
フォーム)など。

【出力方法】(必須)
出力方法を記述する。
バッチ印刷、オンライン印刷、
電子帳票など。

【出力形式】(任意)
印刷する用紙の様式を記述
する。オーバーレイ、複写用
紙など。

【帳票ID】(必須)
帳票IDを命名規約に従い記述する。

【印刷枚数】(必須)
1回の要求で出力される
枚数(概算)を記述する。

【作成条件】(必須)
帳票が出力されるタイミングを記述
する。日次、週次、月次、旬次、四半
期、半期、年次、随時など。

【保有期間】(任意)
電子帳票の保有期間を
記述する。

【概要】(必須)
帳票の目的や処理の内
容を記述する。

【部数】(必須)
1回の要求で出力され
る部数を記述する。

【出力形式ID】(任意)
印刷様式として指定されているコード
を記述する。フォームオーバーレイ、パ
ターン識別コード、帳票ID、アウトプ
ット用紙コードなど。

【出力場所】(任意)
印刷物を出力する部門、組
織、場所を記述する。

UI05	テーブル関連図 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

テーブル間の関連を分析し、データ面から業務の構造を明確にする。

2 記述例補足

(1) テーブル(必須)

テーブル内容を記述する。

上段: 命名規約に従って、テーブル名称を記述する。

中段: 全データ項目を記述する。

下段: 記入不要

識別キーには頭にKを、参照キーには頭にRを付与。[注]

[注] 識別キー、参照キーについては、当 ComponentAA 開発標準「業務分析・設計編」の「データのモデル」を参照の事。

(2) 関連(必須)

関連あるテーブル同士を線で結び、数的な関係を多重度で線の近辺に記述する。

・多重度(数的關係を示す)が

1対1なら、 1 _____ 1

1対多なら、 1 _____ 1 . . *

なお、0以上を表す場合は、

“ * ”

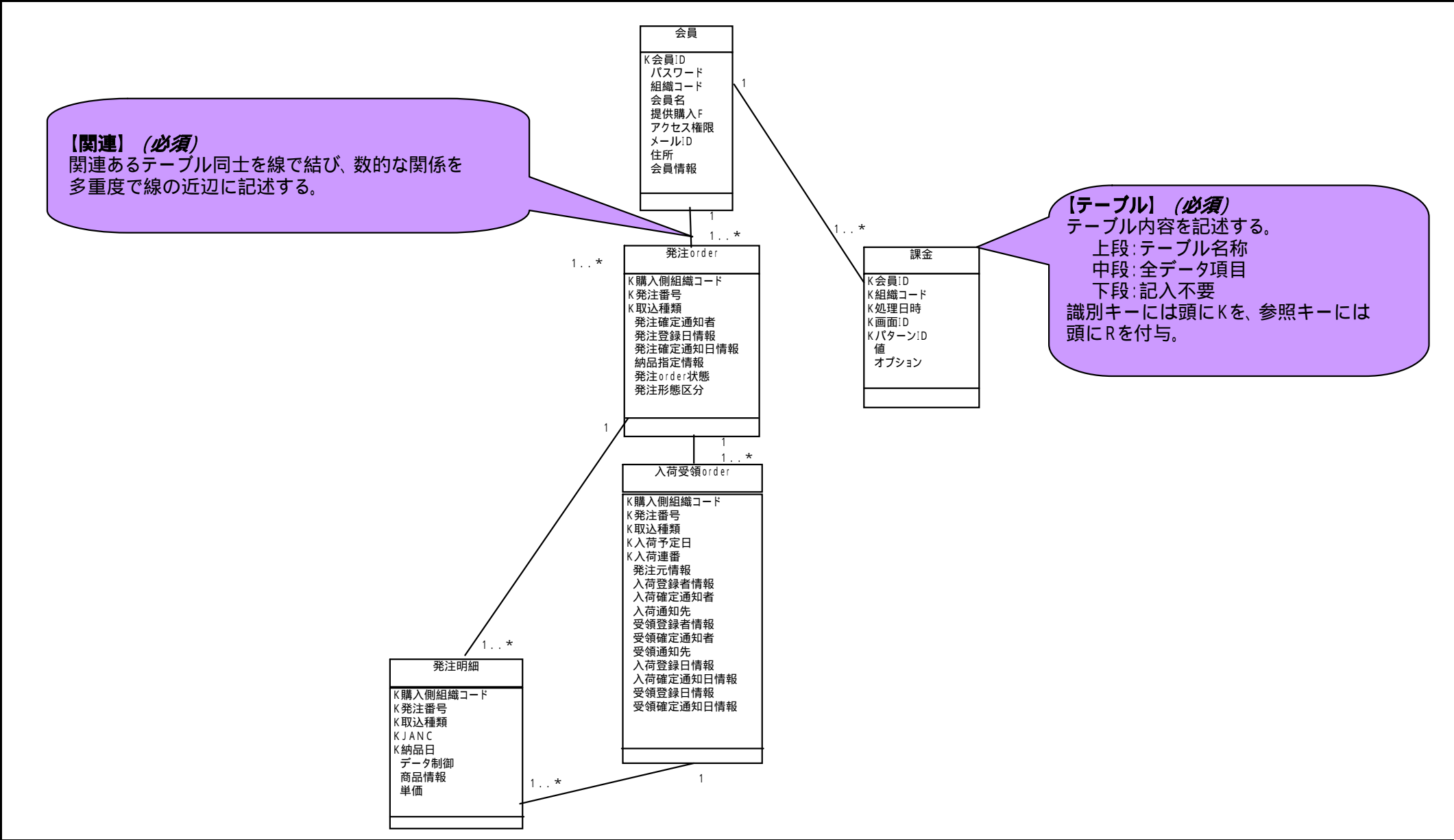
又は

“ 0 . . * ”と記述。

UI05	テーブル関連図	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/14	
					第 版		

【関連】（必須）
 関連あるテーブル同士を線で結び、数的な関係を
 多重度で線の近辺に記述する。

【テーブル】（必須）
 テーブル内容を記述する。
 上段：テーブル名称
 中段：全データ項目
 下段：記入不要
 識別キーには頭にKを、参照キーには
 頭にRを付与。



UI06	テーブル一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

システムで扱うテーブルの種類を一覧として整理し、全体量を把握することを目的とする。

2 記述例補足

(1) テーブル ID、テーブル名(必須)

命名規約に従いテーブル ID、テーブル名を記述する。

(2) 保有期間(任意)

それぞれのテーブルがデータを削除せずに保有する期間を記述する。

(3) 初期件数(必須)

テーブルの 初期設定時の件数を記述する。

(4) 増加件数 / 年(任意)

年当たりの増加件数を記述する。

(5) 説明(必須)

項目説明を記述する。

(6) エンティティ名(必須)

SS 工程において記述する。

UI06	テーブル一覧	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/14	
					第 版		

	テーブルID	テーブル名	保有 期間	初期件数	増加件数 / 年	説明	エンティティ名
1	JST0001	O J S 受付番号管理	4か月			旧 から旧 へのバーター出荷時など、新販物でO J S用のデータを作成する必要がある為、O J Sの新規採番を管理する。	OJSUkeNoSQLEntity
2	JST0002	P O S 商品コード変換	無期限	100		他システムより受信したデータの商品コードを品名コードに変換するためのコード変換テーブル	【エンティティ名】(必須) S S 工程において記述する。
3	JST0003	S S サービス機器					
4	JST0004	S S 営業日	2ヶ月	240000		計画配送 S S の営業予定を管理するテーブル	
5	JST0005	S S 看板		4000	100	S S の看板の情報を管理する。	
6	JST0006	S S 計画日在庫	1 日	4000		計画配送で各 S S の計画日基準の在庫を S S 実在庫と S S 販売想定、受注明細、出荷予定明細、出荷実績明細より計算した在庫情報を管理するテーブル。在庫確認業務において、S S に問い合わせた最新実在庫数量に訂正される場合。	
7	JST0007	S S 計画日受入可能数量	1 日	4000		S S 計画日在庫を基に、S S 販売予測を加味し 1 週間分の受入可能数量を算出し、配送要否を判定するために必要な情報を管理するテーブル。	
8	JST0008	S S 実在庫	1 日	20000		他システムより受信した実在庫データから最新の実在庫データを抽出し届先コードおよび品名を変換したテーブル	
9	JST0009	S S 受信タンク別販売実績	1 日	10000	10000	他システムより受信予定のタンク別販売実績データを管理するテーブル	
10	JST0010	S S 受信実在庫	1 日	20000		他システムより受信した実在庫データを管理するテーブル	
11	JST0011	S S 受信販売実績	30日	15000		他システムより受信する品名別販売実績データを管理するテーブル	
12	JST0012	S S 設備変更履歴	30日	6000		S S の設備変更履歴の情報を管理する。	
13	JST0013	S S 販売実績	1 年	7000000		他システムより受信した販売実績データを論理タンク別に編集し、直近および前年同日実績の参照に使用する。	
14	JST0014	S S 販売予測	1 日	150000		S S 販売実績と計画配送販売調整、S S 営業日の情報を基に 1 週間分の販売予測を管理するテーブル	
15	JST0015	S S 物理タンク	無期限	20000		S S 物理タンクの諸情報を設定するテーブル	
16	JST0016	S S 履歴	1 年	0	34000	S S 販売実績の履歴を管理する	
17	JST0017	トラック		15000	100	トラックの種類を管理する。	
18	JST0018	トラック出荷基地自動指定		50		トラック配送ゾーンに対し、出荷基地・輸送会社・車番（ダミー）を設定する。	
19	JST0019	トラック定期配送日	30日	500		トラック配送ゾーンに対し、年月日毎の定期配送日・非配送日を指定する。	
20	JST0020	トラック届先配送条件	無期限	80		トラック配車時に必要な届先情報を保存	
21	JST0021	トラック輸送単価		120		ポンプトラック、社定配送トラックの運賃計算に必要な、距離別料率テーブルの作成時に使用する。（料率改定時）地区、距離別の輸送単価（詰品・空容器）を管理する。	
22	JST0022	タンク		2000	100	タンクの種類を管理する	
23	JST0023	ローリー運賃車型		150000		タンクの運賃計算時に必要な 4 種類（小型車、単車、トレーラ、特大車）の車型を管理する。	
24	JST0024	ローリー契約種別		50		タンクと契約する形態を管理する	
25	JST0025	ローリー標準輸送単価		50		運賃計算に必要な、距離別料率テーブルの作成時に使用する。（料率改定時）契約種別、白油黒油区分、運賃車型区分別に標準距離単価、標準時間単価を管理する。	
26	JST0026	価格		20000		商品の販売価格を管理する。	
27	JST0027	会社		250	10	会社名称の管理	
28	JST0028	勘定科目		100	100	会計単位の全勘定科目を管理する	
29	JST0029	勘定細目		150	100	会計単位の全勘定科目の全外部勘定細目情報を管理する	
30	JST0030	基地	-	550		出荷する基地に関する基本情報	
31	JST0031	受注	-	5000		受注したデータを管理する	
32	JST0032	税区分		5		税率を管理	
33	JST0033	石油消費税		10		軽油引取税、揮発油税の税率（税額）を管理する。（汎用テーブル候補）	
34	JST0034	石油種類別		100		消防法での第 x 種石油類区分を規定する	

UI07	テーブル/ファイル定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/26	
				第 版		

1 目的

テーブル/ファイルの詳細仕様を記述し、業務設計の入力情報とする。

テーブル/ファイル毎にテーブル仕様/ファイル仕様を作成する。

2 記述例補足

(1) テーブル/ファイルID(必須)

命名規約に基づき、テーブルIDまたはファイルIDを記述する。

(2) テーブル/ファイル名(必須)

命名規約に基づき、テーブル名またはファイル名を記述する。

(3) 項目名(日本語)(必須)

テーブル/ファイル項目の日本語の項目名を記述する。

(3) 項目名(英字)(必須)

日本語の項目名に対応した英字の項目名(実装上の命名)を記述する。

(当作業は、SS工程で実施する。)

(4) 主キー、代替キー、参照キー

主キー、代替キー、参照キーを構成するカラムの欄にチェックを入れる。

(5) notNULL

notNULL属性を指定する個所に を記述する。

(6) データタイプ名(任意)

テーブル/ファイル項目のデータタイプ名を記述する。

([注]:データタイプ名定義を実施するシステムは必須)

(7) 型(必須)

・入力項目の型を、以下の様に記述する。[注1]

No	型	備考
1	数値	半角 + - , . 0~9
2	英数字	半角英数字、記号
3	半角	半角混在(英数字、カナ、記号)
4	全角	全角混在(英数字、カナ、記号)
5	混在	半角、全角混在

[注1]:システム特性に合わせて必要な“型”の追加も可。

(8) 桁数(整数部、小数部)(必須) [注2]

・型が数値の場合、整数部桁数および小数部桁数を記述する。

但し、小数部がない場合は、小数部桁数を省略可。

・型が英数字、半角、全角の場合、整数部桁数欄に文字数を記述する。

・型が混在の場合、整数部桁数欄に半角換算文字数を記述する。

[注2]:データ項目が、データタイプに属する場合は省略可。

UI07	テーブル/ファイル定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/26	
				第 版		

(9) DB 型(必須)

DB の型を記述する。(CHAR、NUMBER、V A R C H A R 2 等)

(10) 説明(任意)

各データ項目に対する説明文を簡単に記述する。

(11) 検索用INDEX定義

索引を作成する場合、何番目の索引がどのデータ項目でどの順番で構成されるかを該当するデータ項目の欄に数字で記述する。

S S 工程で最終的に確定する。

UI07	テーブル/ファイル定義	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/14	
					第 版		

テーブル/ファイルID		JST0031	テーブル/ファイル名				受注テーブル								検索用INDEX定義									
	項目名(日本語)	項目名(英字)	主キー	代替キー	参照キー	not NULL	データタイプ名	型	DB型	桁数		説明												
										整数部	小数部													
1	受付番号発生元区分							英数字	CHAR	1		データの発生元を識別するもの。												
2	受付番号発生元詳細情報							英数字	CHAR	7		発生元を詳細に識別するための情報。発生元区分により異なる。												
3	受付番号連番							英数字	CHAR	5		受付番号を一意にするもの。												
4	受付番号明細連番							英数字	CHAR	2		オーダーの明細単位の連番。												
5	受付番号分割連番							英数字	CHAR	2		オーダーが分割された場合の連番。												
6	履歴番号							数値	NUMBER	3	0	データ発生からの更新履歴番号。												
7	受払区分							英数字	CHAR			受払のそれぞれの内容を識別したコード												
8	受払識別											私のそれぞれの内容を細分化したコード												
9	発注元コード						発注元コード					ダを発注した得意先のコード												
10	発注元略称						名称(漢字)					ダを発注した得意先の略称(相手先略称)												
11	注文主コード						注文主コード					ダを注文した得意先のコード												
12	注文主略称						名称(漢字)					ダを注文した得意先の略称(相手先略称)												
13	輸送方法区分							英数字	CHAR	1		各オーダーの輸送方法を識別するコード												
14	輸送機関区分							英数字	CHAR	2		各オーダーの輸送機関を識別するコード												
15	車番コード						車番コード					車を一意にする番号。												
16	トリップ番号							数値	NUMBER	2	0	同一日に配送を複数回行なう場合、該当配送が何回転目であることを示す番号。												
18	車番船名名称								CHAR			倉取時など船名略称の直接入力時の情報を管理する。												
19	船名名称カナ							全角	VARCHAR2	30		倉取時など船名略称カナの直接入力時の情報を管理する。												
20	配船場所コード								CHAR			配船作業をする場所を表す。												
21	配船確定フラグ							英数字	CHAR	1		転送のリスケジュール可能対象/非対象を明確にする為の管理フラグ												
22	届先コード								CHAR			需要家、SSなどの届先を一意に判別するコード											1	
23	届先枝番								CHAR			同一届先(同一届先コード)内で最終届先を一意に表す番号											2	
24	最終届先略称								CHAR			同一届先(同一届先コード)内での最終届先の略称												
25	出荷年月日						年月日		CHAR			商品が基地から出荷される日付。												
26	納入希望年月日						年月日		CHAR			届先に対し、商品が納入される希望日。												
27	出荷基地コード						出荷基地コード		CHAR			商品が出荷される基地。												
28	出荷基地略称						名称(漢字)		CHAR			商品が出荷される基地の略称。												
29	輸送会社コード						輸送会社コード		CHAR			輸送会社を識別するコード												
30	輸送会社略称						名称(漢字)		CHAR															
31	品名コード						品名コード		CHAR														1	
32	品名略称						名称(漢字)		CHAR	30														
33	数量							数値	NUMBER	11														
34	個数							数値	NUMBER	8														
35	荷姿コード						荷姿コード		CHAR															
36	荷姿略称						名称(漢字)		CHAR															
37	荷姿容器区分							英数字	CHAR	2		荷姿コードに対する容器区分												
38	ドラム要否区分							英数字	CHAR	1		届先・品名毎に基地でドラムから吸い上げるかタンクから吸い上げるか判断する。												
39	実績済数量							数値	NUMBER	11	2	予約から実績化された数量												
40	実績変更回数							数値	NUMBER	3	0	実績化されてから、実績変更された回数。												
41	税区分							英数字	CHAR	2		品名に対する税の区分												
42	希望時間指定区分							英数字	CHAR	2		届先に納品される際の希望時間を識別するコード。												
43	記事							英数字	VARCHAR2	48		オーダーの明細単に付与される記事欄。												
44	注文番号							英数字	CHAR	20		発注元で管理される注文番号。												

UI08	ユースケース・テーブル マトリクス 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/1	
				第 版		

1 目的

ユースケースと概念データモデルで洗い出されたテーブルの関係を整理し、機能とデータの整合性を検証する。

2 記述例補足

- (1) ユースケースID、ユースケース名(必須)
「SA04 ユースケース一覧」で抽出されたのユースケースID、
ユースケース名を記述する。
- (2) テーブル名(必須)
データモデルで洗いだされたテーブルを列挙する。
- (3) ユースケースとテーブルの関係(必須)
ユースケースとテーブルの関係を「C」、「R」、「U」、「D」で記述する。
「C」…創成
「R」…参照
「U」…更新
「D」…削除

UI08	ユースケース・テーブルマトリクス		記述例		システム名		サブシステム名		版数		作成日		作成者																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
									初版		2004/4/1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
									第 版																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
C：創成 R：参照 U：更新 D：削除			テーブル名		配送トリップ	出荷予定	相手先	輸送会社	基地基本	届先基本	届先配送	車	品名	<div>【テーブル名】（必須） データモデルで洗いだされた テーブルを列挙する。</div>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
ユースケースID		ユースケース名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

UI09	テーブル状態遷移 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

1 目的

各テーブルの状態情報を持つデータ項目単位で、状態遷移が複雑な場合等必要に応じて、テーブル状態遷移規則の設計を実施する。

2 記述例補足

2.1 テーブル状態遷移(表形式)

(1) テーブル ID/テーブル名(必須)

状態情報を持つテーブルID/テーブル名を記述する。

(2) ユースケース ID/ユースケース名、遷移元画面 ID/遷移元画面名(必須)

状態情報を変化させるユースケース ID/ユースケース名、
アクションの遷移元画面 ID/遷移元画面名を記述する。

(3) アクション/処理ステップ(必須)

状態情報を変化させるユースケース内のアクション/処理ステップを記述する。

(4) ガード条件(必須)

状態情報を変化させる、アクション/処理ステップ以外の条件がある場合、
その条件を記述する。

(5) No. (必須)

該当テーブルの状態情報を持つデータ項目ごとの連番を記述する。(1 からの追番)

(6) 状態情報名(必須)

状態情報の項目名を記述する。

(7) 状態ID(必須)

各状態情報の項目ごとの状態別IDを記述する。

(8) 状態名(必須)

各状態情報の項目ごとの状態別名称を記述する。

(9) 状態チェックと更新内容(必須)

- ・該当のユースケース別アクション / 処理ステップに対して、許される状態の場合は、
「遷移先状態名」または「遷移先状態ID」を記述する。
- ・該当のユースケース別アクション / 処理ステップに対して、許されない状態の場合は、
「エラー」と記述する。
- ・“ - ”は、状態遷移チェック不要であることを示す。

UI09	テーブル状態遷移 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

2.2 テーブル状態遷移(図形式)

(1) 開始 / 終了

● :開始

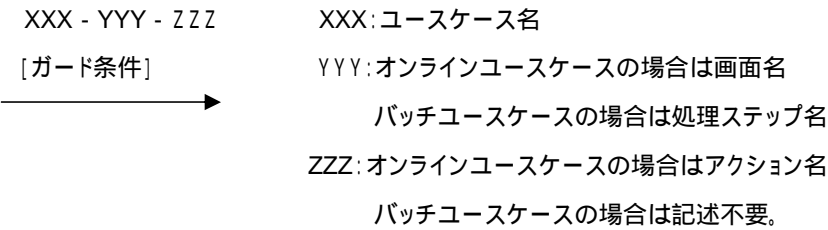
● :終了

(2) 状態



XXX:状態名

(3) 状態遷移



UI09	テーブル状態遷移(表形式)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

[illegible]

UI09	テーブル状態遷移(図形式)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

テーブル名 : 申請管理テーブル
状態情報名 : 進行状態

[凡例]



: 開始

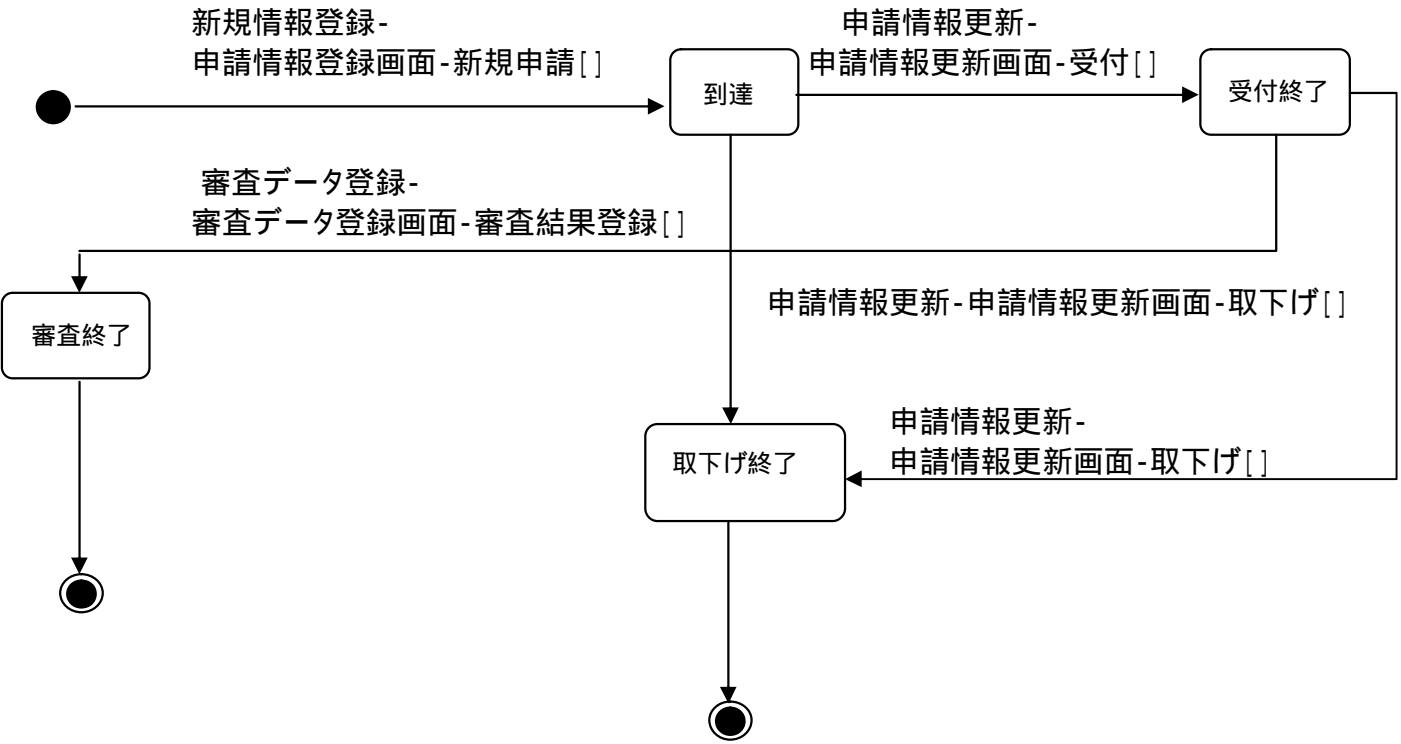


: 終了

到達

: 状態

ユースケース名-画面名-アクション名[ガード条件]
または
ユースケース名-処理ステップ名[ガード条件]



UI10	システム間インタフェース一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

外部システムおよび他サブシステムとのインタフェースとなるファイル、電文の一覧を記述する。

2 記述例補足

(1) ファイルID / 電文ID(必須)

命名規約に従い記述する。

(2) ファイル名 / 電文名(必須)

意味が判断しやすいように命名する。

(3) サブシステムコード、サブシステム名(必須)

命名規約に従い記述する。

(4) 相手先システム名(必須)

相手のシステム名を記述する。

(5) 送信 / 受信(必須)

該当する区分に を記述する。

(6) トリガ(必須)

トリガが自システムか相手システムか該当する区分に を記述する。

(7) タイミング(必須)

送受信するタイミングを記述する。日次、週次、月次、随時等を記述する。

(8) 時間帯(任意)

インタフェースのファイル、電文を受信する時間帯を記述する。

(9) 同期 / 非同期(任意)

該当する区分に を記述する。

(10) インタフェース(必須)

相手システムとのやりとりの手段を記述する。

(11) 概算データ量(任意)

一度の送受信での概算データ量を記述する。

(12) データ変換(任意)

送受信で変換が必要な場合に該当するものに を記述する。

(13) プロトコル(任意)

送受信で使用するプロトコルを記述する。

(14) 回線種別(任意)

送受信で使用する回線を記述する。

UI11	システム間 インタフェース定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/26	
				第 版		

1 目的

外部システムおよび他サブシステムとのインタフェースとなるファイル、電文のデータ項目、属性などを定義する。

2 記述例補足

(1) インタフェース選択(必須)

定義するインタフェースがシステム間かサブシステム間かを選ぶ。

(2) ファイルID / 電文ID(必須)

インタフェースとなるファイル、電文の ID を記述する。

(3) ファイル名 / 電文名(必須)

インタフェースとなるファイル、電文の名称を記述する。

(4) レコード長(必須)

インタフェースとなるファイル、電文のレコード長を記述する。

(5) レベル(必須)

構造を持つインタフェース項目の場合、階層レベルを記述する。

(6) 項目名(日本語)(必須)

インタフェース項目の日本語の項目名を記述する。

(7) 項目名(英字)(任意)

日本語の項目名に対応した英字の項目名(実装上の命名)を記述する。
(当作業は、SS工程で実施する。)

(8) テーブル/ファイル名(必須)

送受信する項目の編集元となるテーブル/ファイル名を記述する。

(9) 繰返数(必須)

繰返し項目の繰返し数を記述する。

(10) データタイプ名(任意)

インタフェース項目のデータタイプ名を記述する。
([注]:データタイプ名定義を実施するシステムは必須)

UI11	システム間 インタフェース定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/26	
				第 版		

(11) 型(必須)[注2]

インタフェース項目の型を、以下の様に記述する。[注1]

No	型	備考
1	数値	半角 + - , . 0 ~ 9
2	英数字	半角英数字、記号
3	半角	半角混在(英数字、カナ、記号)
4	全角	全角混在(英数字、カナ、記号)
5	混在	半角、全角混在

[注1]:システム特性に合わせて必要な“型”の追加も可。

(12) 桁数(整数部桁数、小数部桁数、バイト)(必須)[注2]

・型が数値の場合、整数部桁数および小数部桁数およびバイト数を記述する。

但し、小数部がない場合は、小数部桁数を省略可。

・型が英数字、半角、全角の場合、整数部桁数欄に文字数を、
バイト欄にバイト数を記述する。

・型が混在の場合、整数部桁数欄に半角換算文字数を、
バイト欄にバイト数を記述する。

[注2]:インタフェース項目が、データタイプに属する場合は省略可。

UI12	業務メッセージ定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/1	
				第 版		

1 目的

業務メッセージを定義する。

全システムにおける業務メッセージを一元管理し、同内容の業務メッセージが複数存在しないように管理する。

2 記述例補足

- (1) メッセージコード（必須）
- 命名規約に従い、メッセージコードを記述する。
- (2) メッセージレベル（必須）
- 正常、警告、エラー等のメッセージのレベルを記述する。
- (3) メッセージ内容（必須）
- 上段:メッセージの内容を記述する。
- 下段:メッセージを確認した後、ユーザが対処する内容を記述する。

UI13	データタイプ定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/23	
				第 版		

1 目的

業務で使用するデータ項目の内、型や桁数、値の範囲が同じデータ項目群を洗い出し、システム内で統一する。

[注]: データタイプの抽出観点と設計指針については、「業務分析・設計編 UI編」の「3. データタイプの抽出観点と設計指針」項を参照の事。

2 記述例補足

(1) レベル(必須)

構造を持つデータタイプの場合にレベルを記述する。

(2) 分類(必須)

データタイプの分類を記述する。

(3) データタイプ名(日本語)(必須)

データタイプの日本語の項目名を記述する。

(4) データタイプ名(英字)(任意)

日本語のデータタイプ名に対応した英字のデータタイプ名を記述する。

(データタイプに属するデータ項目の英字名の一部として使用する場合など)

(5) 型(必須)

・データタイプの型を、以下の様に様に記述する。[注1]

No	型	備考
1	数値	半角 + - , . 0~9
2	英数字	半角英数字、記号
3	半角	半角混在(英数字、カナ、記号)
4	全角	全角混在(英数字、カナ、記号)
5	混在	半角、全角混在

[注1]: システム特性に合わせて必要な“型”の追加も可。

(6) 桁数(整数部、小数部)(必須)

・型が数値の場合、整数部桁数および小数部桁数を記述する。

但し、小数部がない場合は、小数部桁数を省略可。

・型が英数字、半角、全角の場合、整数部桁数欄に文字数を記述する。

・型が混在の場合、整数部桁数欄に半角換算文字数を記述する。

UI13	データタイプ定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/4/23	
				第 版		

(7) 値の範囲(必須)

・データタイプの型が数値で、値の範囲を持つ場合に記述する。

・値の書き方

範囲を表す場合は“ - ”で区切る

複数を表す場合は“ , ”で区切る

又以下の関係演算子の使用も可

> より大きい

< より小さい

> = より大きいか等しい

< = より小さいか等しい

! = 等しくない

< 例 >

0 - 300

A,B,C,D

@ > = 1900

(8) 項目説明(任意)

・データタイプについての説明を記述する。

UI14	コード定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

コードについて、目的、構成要素、およびコードの構成要素毎の値と意味等を明確にする。

2 記述例補足

(1) コード名(必須)

データタイプ定義の対応するデータタイプ名を記述する。

(2) 目的 / 概要説明(必須)

コードとして定義することの目的、コード概要を記述する。

(3) コード構成(必須)

コードの構成を記述する。

(4) 主管部署(任意)

コードを定義し管轄する部門(主管部署)を記述する。

(5) 付与基準(任意)

コードを付与するときの基準を記述する。

(6) コード定義(必須)

コードの構成要素毎の値と意味を記述する。

UI14	コード定義	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/14	
					第 版		

<div>コード名</div> <div>社員コード</div>							
<div>目的 / 概要説明</div> <div>・ 正社員の一意的識別</div>	<div>コード定義</div> <div> <div>【通番】</div> <div>0001からの通し番号。</div> <div>【職種】</div> <table border="1"> <tr><td>0 1</td><td>事務職</td></tr> <tr><td>0 2</td><td>技術職</td></tr> <tr><td>0 3</td><td>営業職</td></tr> </table> </div>	0 1	事務職	0 2	技術職	0 3	営業職
0 1		事務職					
0 2		技術職					
0 3		営業職					
<div>コード構成</div> <div> <div> <div>XX</div> <div>XXX</div> <div>XX</div> <div> <div>→ 職種</div> <div>→ 通番</div> <div>→ 採用年。西暦下2桁</div> </div> </div> </div>							
<div>主管部署</div> <div>人事部</div>							
<div>付与基準</div> <div> <div>正社員の採用順に付与する。</div> <div>同日入社の場合は、別途作成する新入社員名簿順とする。</div> <div> <div>【付与基準】（任意）</div> <div>コードを付与するときの基準を記述する。</div> </div> </div>							

UI15	シナリオ記述 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

ユースケースの具体的場面を場合分けして記述し、業務ロジック定義を検証する。
基本系(プライマリーシナリオ)と例外系(セカンダリーシナリオ)を想定して確認する。
例外例をできるだけ記述することにより、ユースケースの業務ロジック定義の検証を
可能にする。

2 記述例補足

(1) ユースケース ID、ユースケース名(必須)

ユースケース ID、ユースケース名を記述する。

(2) シナリオ名(必須)

シナリオ名を記述する。

(3) シナリオ番号(任意)

シナリオ番号を記述する。

UI15	シナリオ記述	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/5/17	

ユースケースID	NKS0010	ユースケース名	納品物件検収処理
シナリオ名	納品物件検収処理（一般会社の例）	シナリオ番号	NKS0010 - 01

代表的なケース

- 1) 契約番号 (物件番号) を入力し、物件を指定する。
物件番号:869970-01
物件番号から会社コード"084400"を判定し、一般会社と認定する。
- 2) 検収担当者IDを入力し、検収処理資格をチェックする。
検収担当者ID:760104
- 3) 問題がなければ以下の処理をする。
データ入力
 - ・納入実績日:2003.10.10
 - ・検査方法:ドキュメントの精査、およびテスト実績データを確認した。
 - ・検査所見:品質、ドキュメントとも問題は発見されなかった。
 - ・検収実績日::2003.10.31
 - 下記を選択
 - ・納入判定 (受領、条件付受領、再納入実績)
 - ・検収判定 (合格、不合格)
- 4) データをチェックしエラーがなければ更新し、次の処理をする。

UI15	シナリオ記述	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/5/17	
ユースケースID	NKS0010		ユースケース名	納品物件検収処理			
シナリオ名	納品物件検収処理（出荷会社の例）		シナリオ番号	NKS0010 - 02			

特殊なケース

- 1) 契約番号 (物件番号) を入力し、物件を指定する
物件番号:000691-00
物件番号から会社コード"017000"を判定し、出荷会社と認定する。
- 2) 検収担当者IDを入力し、検収処理資格をチェックする。
検収担当者ID:810716
- 3) 問題がなければ出荷検査実績日、出荷検査所見を表示する。
出荷検査実績日:2003.10.06
出荷検査所見: 出荷検査として標準への準拠、品質指標等チェックを実施し、問題なし
- 4) 表示を確認し、以下の処理をする。
データ入力
・検査方法: 実テストデータを使用し受け入れ検査を実施した。
・検査所見: 品質、性能とも問題は発見されなかった。
・検収実績日: 200.10.31
下記を選択
・検収判定 (合格、不合格)
- 5) 協力会社評価の下記の処理をする。
・以下の項目の5段階評価
- 製品品質 : 5
- プロセス品質 : 4
- コミュニケーション: 4
- 技術力 : 5
- マネージメント力 : 4
・コメント: Javagの技術にすぐれている。
- 6) データをチェックしエラーがなければ更新し、次の処理をする。

UI16	業務サービス仕様 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

1 目的

UI工程の業務システム仕様をユースケース単位でなく、サブシステム単位、業務プロセス単位等の、まとめた範囲で顧客レビューを実施する為の業務仕様説明補完ドキュメントの作成。

2 記述例補足

以下、業務サービス仕様の説明書の記述内容例を提示します。
実際の説明書は、プロジェクト毎の判断で作成して下さい。

2.1 オンラインユースケースの場合

1. 概要

説明対象のサービス機能の概要を、「SA02 業務機能概要定義」、
「UI01 ユースケース一覧」を基に記述する。

2. 機能概要

ユースケース全体の機能概要を「UI01 ユースケース一覧」、
「UI02 - 4 ユースケース機能記述(アクション総括記述 - 処理フロー)」
を基に記述する。

2.1 ユースケース名

「UI01 ユースケース一覧」に属するユースケース名を記述する。

2.1.1 業務機能とエラー処理

ユースケース内の各アクション機能を、
「UI02 - 4 ユースケース機能記述(アクション総括記述 - 処理フロー)」
を引用する。

2.1.2 画面構成と遷移

「UI02 - 1 ユースケース機能記述(オンライン機能概要 - 画面遷移図)」
を引用する。

2.1.3 データ構成と項目

「UI02 - 2 ユースケース機能記述(画面レイアウト定義)」、
「UI02 - 3 ユースケース機能記述(画面項目定義)」を引用する。
また、必要に応じて、「UI07 テーブル/ファイル定義」、
「UI11 システム間インタフェース定義」等を引用する。

2.2 バッチユースケースの場合

1. 概要

説明対象のサービス機能の概要を、「SA02 業務機能概要定義」、
「UI01 ユースケース一覧」を基に記述する。

2. 機能概要

ユースケース全体の機能概要を「UI01 ユースケース一覧」
を基に記述する

UI16	業務サービス仕様 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/14	
				第 版		

2.1 ユースケース名

「UI01 ユースケース一覧」に属するユースケース名を記述する。

2.1.1 業務機能とエラー処理

「UI02 - 8 ユースケース機能記述(バッチ総括記述)」を引用する。

2.1.2 帳票作成仕様

「UI02 - 9 ユースケース機能記述(帳票レイアウト定義)」、

「UI02 - 10 ユースケース機能記述(帳票項目定義)」

および「UI02 - 11 ユースケース機能記述(出力データ処理定義)」

を引用する。

2.1.3 ファイル出力仕様

「UI02 - 11 ユースケース機能記述(出力データ処理定義)」を

引用する。

また、必要に応じて、「UI07 テーブル/ファイル定義」、

「UI11 システム間インタフェース定義」等を引用する。

2.3 SS工程ドキュメント



SS01	ユースケース機能構成 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/9	
				第 版		

1 目的

ユースケースを開発要素単位に分割して、構成要素として明確にする。

2 記述例補足

記述形式として表形式と図形式を用意されており、表形式にてメソッド単位までを記述する。

図式化が必要あれば図形式も併用する。

表形式では、Web 側の Bean 名・ハンドラ名の記入欄が無いが、必要あればカスタマイズして記入欄を設ける。

(1) ユースケース名 (必須)

ユースケース名またはユースケース ID を記述する。

(2) 画面名 (必須)

画面を記述する。

(3) アクション名 (必須)

イベント発生の契機となるアクション名を記述する。

(4) Bean 名 (図形式の場合) (必須)

画面と Web ハンドラで使用する Bean 名を記述する。

(5) Web ハンドラ名 (図形式の場合) (必須)

サーブレット側の Web ハンドラ名を記述する。

(6) CBSMsg スキーマ名 (必須)

クライアント - サーバ間のインタフェースとなるメッセージ名を記述する。

(7) CBS ハンドラ名 (必須)

EJB 側の CBS ハンドラを記述する。

(8) CBS メソッド名 (必須)

CBS ハンドラ上の呼び出されるメソッド名を記述する。

(9) CBMMsg スキーマ名 (図形式の場合) (任意)

CBS ハンドラと CBM/部品間のインタフェースとなるメッセージ名を記述する。

(10) 部品名 (CBM/SQLFacility/主要部品)、メソッド名 (必須)

CBM 名・共通部品名等、および呼出されるメソッド名を記述する。

(11) 入出力 (必須)

対象部品内で入出力が行われる、種類・I/O 区分、対象の名称 (テーブル名等) を記述する。

(12) IT 結果 (任意)

結合テスト工程での正常系スルーテスト等で使用する。

(13) 連絡先名 (任意)

起動するバッチ処理や非同期連携先を記述する。

(14) テーブル名 (必須)

入出力先となるテーブル名を記述する。

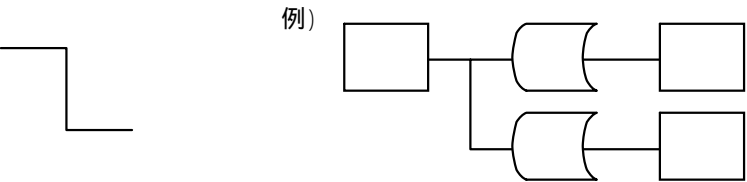
SS01	ユースケース機能構成 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/9	
				第 版		

< 図形式での記述要領 >

● 記号例

画面	DataBean/Msg	ハンドラ	部品/CBM
DB テーブル	一般ファイル	帳票	EXCEL マクロ

● 接続線はカギ線を使用する。



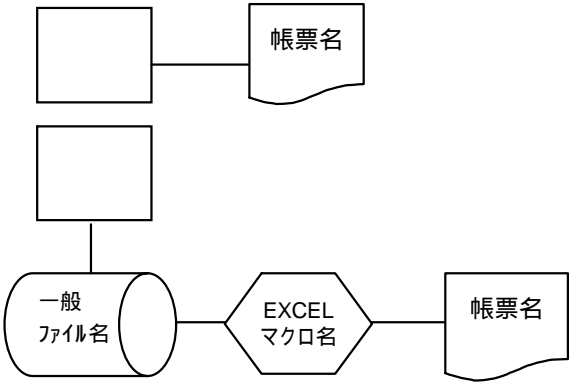
● 結合子

他ページ間で結合する場合	ページ内で結合する場合
 P 2	
A ~ Zを使用する 結合先があるページ数を記述する	数字を使用する

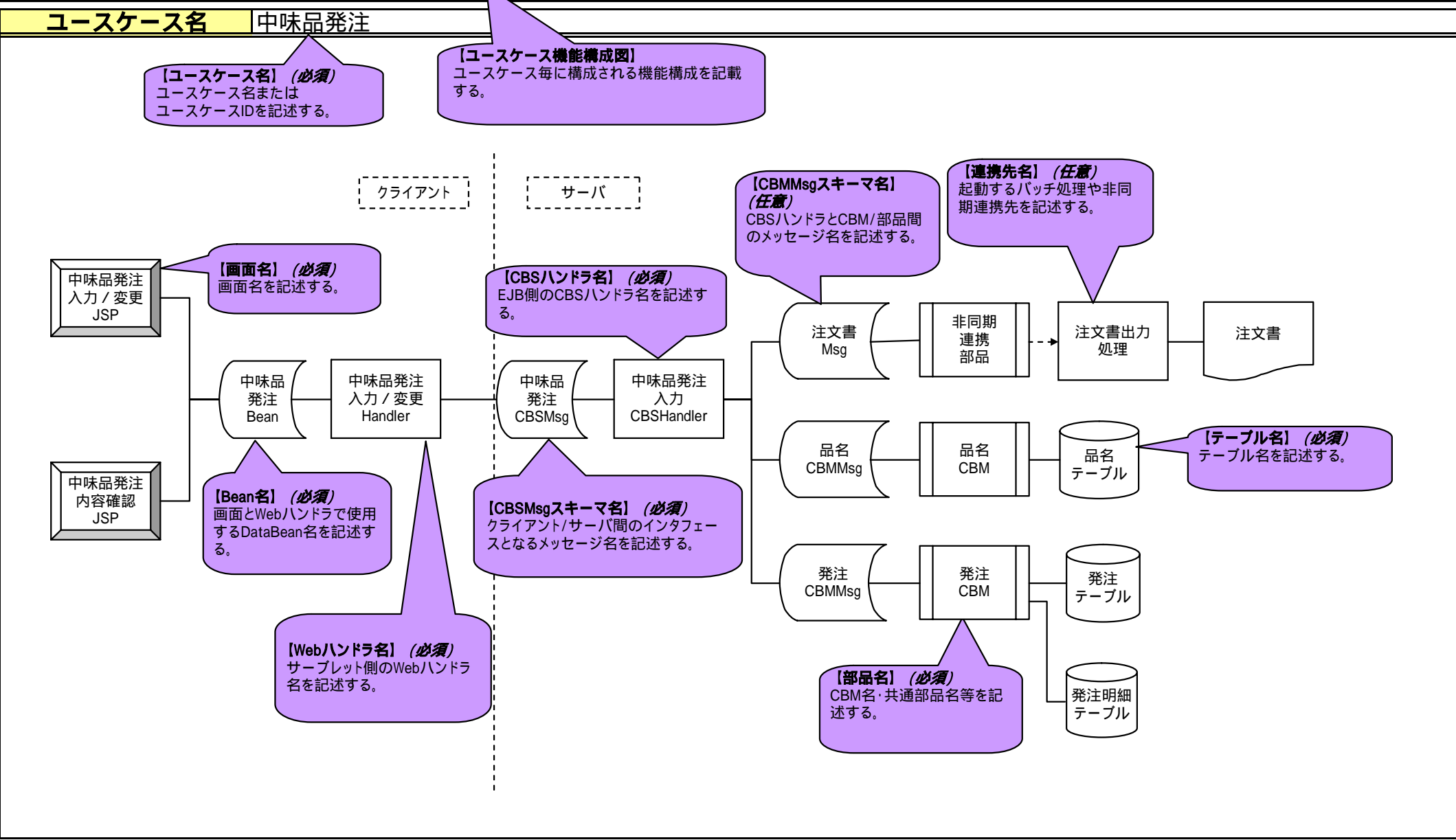
- 部品などを使用して他プログラムと連携する(バッチ起動や非同期通信など)場合は下記のように記述する。



- 帳票や EXCEL 帳票を出力する場合は下記のように記述する。



SS01	ユースケース機能構成	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		



SS02	画面遷移定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

Web ハンドラ単位に、登録・変更・参照・削除などメソッドの洗い出し、また、画面遷移・画面のアクション等を契機にどの Web ハンドラメソッドが呼び出されるか関連を明確にする。

2 記述例補足

関連を明確にできればよいため、遷移定義の記述凡例に固執する必要はない。

(1) ユースケース名(必須)

ユースケース名またはユースケース ID を記述する。


(2) Web ハンドラ名(必須)

「SS03:Web ハンドラー覧」の Web ハンドラ名を記述する。

以下に凡例をあげる。

初期表示処理

アクション・・・Web ハンドラの1メソッドを表す



画面

→

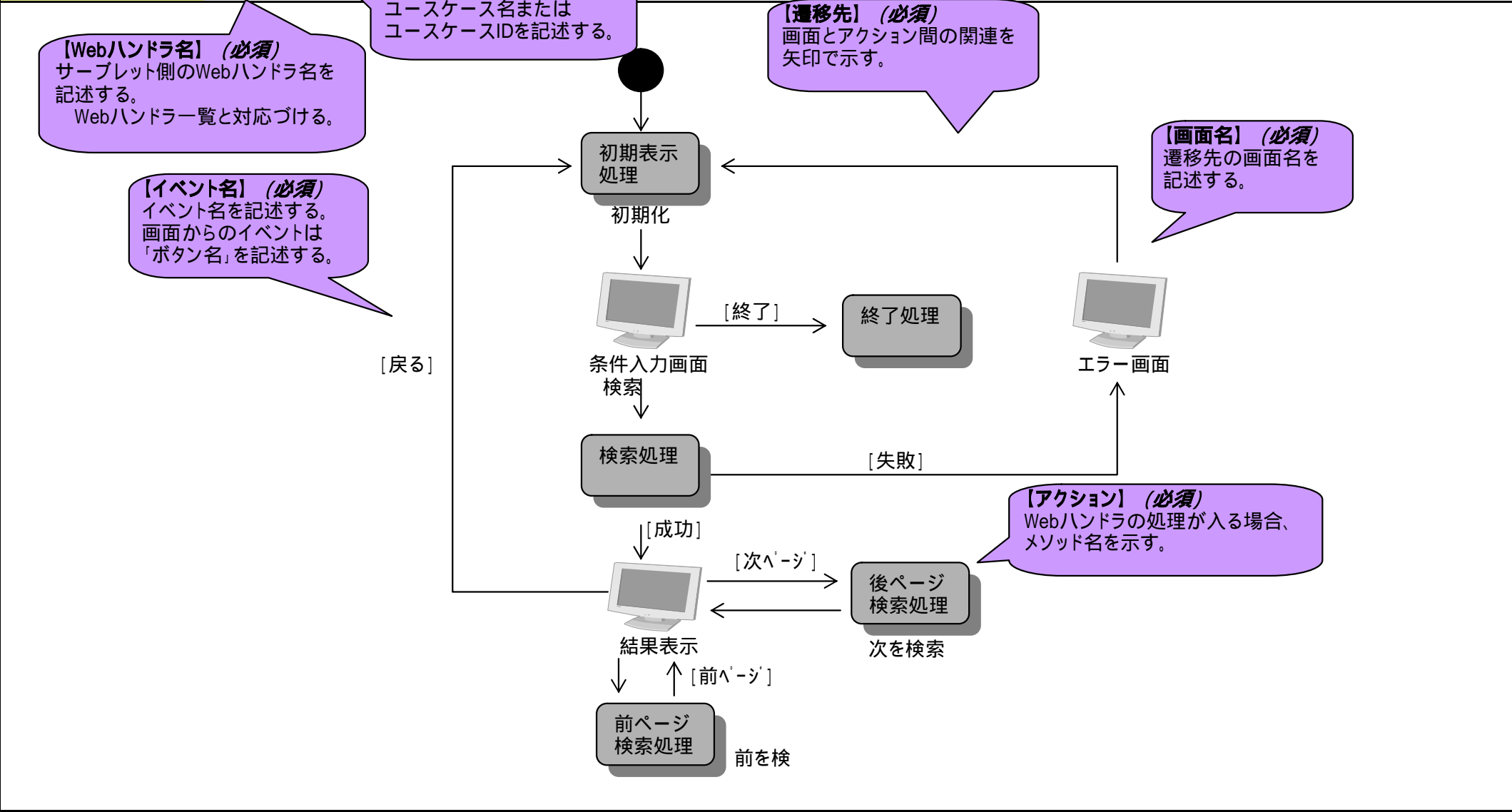
画面遷移・処理の流れ

[イベント名]

イベント・・・画面からのイベントの場合はボタン名を記述する

SS02	画面遷移定義	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版 第 版	2004/1/13	

ユースケース名	発注検索
Webハンドラ名	発注検索



SS03	Web ハンドラ 一覧記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

作成する Web ハンドラを一覧として管理する。

2 記述例補足

(1) ユースケース名(必須)

「UI01:ユースケース一覧」のユースケース名またはユースケース ID を記述する。

(2) Web ハンドラ名(英字)、Web ハンドラ名(日本語)(必須)

Web ハンドラ名(英字)、Web ハンドラ名(日本語)を記述する。

[illegible]

SS04	JSP 一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

画面一覧上の論理的な画面単位を、実装単位としての JSP 一覧としてまとめる。また、各 JSP が使用する DataBean を明確にする。

2 記述例補足

- (1) ユースケース名 (必須)
- ユースケース名またはユースケース ID を記述する。
- (2) 画面 ID、画面名 (必須)
- 「UI03:画面一覧」に記述されている画面 ID、画面名と対応させる。
- (3) JSP 名 (英字) (必須)、JSP 名 (日本語) (任意)
- 画面 ID に対応する JSP 名 (英字)、JSP 名 (日本語)を記述する。
- 1 画面が複数 JSP で構成される場合もある。(画面: JSP = 1: n)
- 複数画面を 1JSP で切り替えて表現する場合もある。(画面: JSP = n: 1)
- (4) DataBean 名 (必須)
- JSP にて使用する DataBean 名を記述する。
- 1 DataBean を複数の JSP で共有する場合もある (JSP: DataBean = n: 1)

SS04	JSP一覧	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版		
					第 版		

[illegible]

SS05	CBS ハンドラー一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

CBS ハンドラを一覧として洗い出し、CBS として束ねる。

2 記述例補足

- (1) CBS 名(必須)
実行プロセスとしての CBS 名を記述する。
- (2) ユースケース名(必須)
対応するユースケース名を記述する。
- (3) CBS ハンドラ名(必須)
CBS の構成要素である CBS ハンドラ名を記述する。
ユースケースとは原則一対一の関係で考える。

[illegible]

SS06	Msg スキーマ一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

作成する Msg スキーマを一覧として管理し、その用途(使用箇所)を明確にする。

なお、CBM と 1:1 で定義される CBMMsg については記載しない。

2 記述例補足

- (1) 分類(任意)
- 当該の Msg スキーマの分類を記述する。CBSMsg の場合は、ユースケース名またはユース
ケース ID を記述する。
- (2) Msg スキーマ名(必須)
- Msg スキーマ名を記述する。
- (3) 用途(必須)
- Msg スキーマの用途(使用箇所)を記述する。

SS06	Msgスキーマ一覧	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/1/13	
					第 版		

[illegible]

SS07	Msg スキーマ定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

各 Msg スキーマが持つ項目を明確にする。

2 記述例補足

(1) 分類(任意)

当該の Msg スキーマの分類を記述する。CBSMsg の場合は、ユースケース名またはユースケース ID を記述する。

(2) Msg スキーマ名(必須)

Msg スキーマ名を日本語名または英字名で記述する。

(3) 項目名(日本語)、項目名(英字)(必須)

Msg スキーマを構成する項目の日本語名称、英字名称を記述する。

(4) 型(必須)

項目の型を Java の型で記述する。

(5) 必須(必須)

項目に値設定が必須かどうかを、上り / 下りで記述する。

...必須

[illegible]

SS08	CBM 一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

作成する CBM を一覧として管理する。また、従属する Entity の関係を明示する。

2 記述例補足

- (1) CBM 名(必須)
CBM を記述する。
- (2) 従属 Entity 名(必須)
CBM に従属する Entity を記述する。
- (3) ETVIEW(必須)
従属 Entity が参照目的の EntityView であるかどうかを記述する。
...EntityView

[illegible]

SS09	CBM 機能定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

CBM が持つ機能を明確にする。

CBM 標準として自動生成されるメソッドや CBMMsg の項目に対し、追加して実装するものを記述する。

2 記述例補足

(1) CBM 名 (必須)

CBMMsg 項目とメソッドの追加対象となる CBM 名を日本語名または英字名で記述する。

(2) 項目名 (必須)

CBM に追加する CBMMsg の項目名を記述する。

(3) 型 (必須)

CBM に追加する CBMMsg 項目の型を Java の型で記述する。

(4) 必須 (必須)

CBM に追加する CBMMsg 項目が必須項目であるかどうかを記述する。

...必須

(5) メソッド名 (必須)

CBM に追加するメソッド名を記述する。メソッド名を日本語名または英語名で記述する。

(6) 受渡情報 (必須)

メソッドを呼び出すときに CBMMsg 上の項目のうち設定すべき対象を記述する。

(7) 復帰情報 (必須)

メソッドから復帰される時に、CBMMsg 上の項目のうち有効となる対象を記述する。

(8) 機能説明 (必須)

メソッドの機能説明を簡潔に記述する。

(9) 関連入出力情報 (任意)

メソッドの機能を実現するために発生する入出力 (DB・ファイル・部品など) を記述する。

注 1 : テーブル関連図に CBM の括りと CBM 名を加筆し CBM とテーブルの対応関係を明確にした後、本ドキュメントを作成する。

注 2 : 名前の日本語表記と英語表記の対応付けが必要ならば、別途、対応表を作成するか、命名規約で対応方法を明記する、JavaDoc としてドキュメント化するなどにより対応付けする。

SS10	SQLFacility 一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/26	
				第 版		

1 目的

作成する SQLFacility を一覧として管理する。

2 記述例補足

- (1) 分類(ユースケース名)(任意)
SQLFacility の分類を記述する。CBS ハンドラに従属する場合は、ユースケース名またはユースケース ID を記述する。
- (2) SQLFacility 名(英字)、SQLFacility 名(日本語)(必須)
SQLFacility 名の英字名称、日本語名称を記述する。
- (3) 用途(必須)
Msg スキーマの用途(仕様箇所)を記述する。

SS11	SQLFacility 定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

SQLFacility が行うテーブル操作の内容 (SQL 文の構成) を明確にする。

2 記述例補足

(1) SQLFacility 名 (必須)

SQLFacility 名を記述する。

(2) CBS ハンドラ名 / CBM 名 (任意)

SQLFacility が CBS ハンドラまたは CBM に従属する場合、その名称を記述する。

(3) メソッド名 (必須)

SQLFacility に実装されるメソッド名を記述する。メソッド名を英語名または日本語名を記述する。

(4) テーブル名 (必須)

メソッドがアクセスするテーブル名を記述する。

(5) SQL 文 (必須)

テーブルアクセス時の SQL 文に関しての、アクセスモード、条件、検索順番、グループ化、対象項目について記述する。

条件によって SQL 文の構成が動的に変わる場合は、備考欄等を使って表現する。

注：名前の日本語表記と英語表記の対応付けが必要ならば、別途、対応表を作成するか、命名規約で対応方法を明記する、JavaDoc としてドキュメント化するなどにより対応付けする。

[illegible]

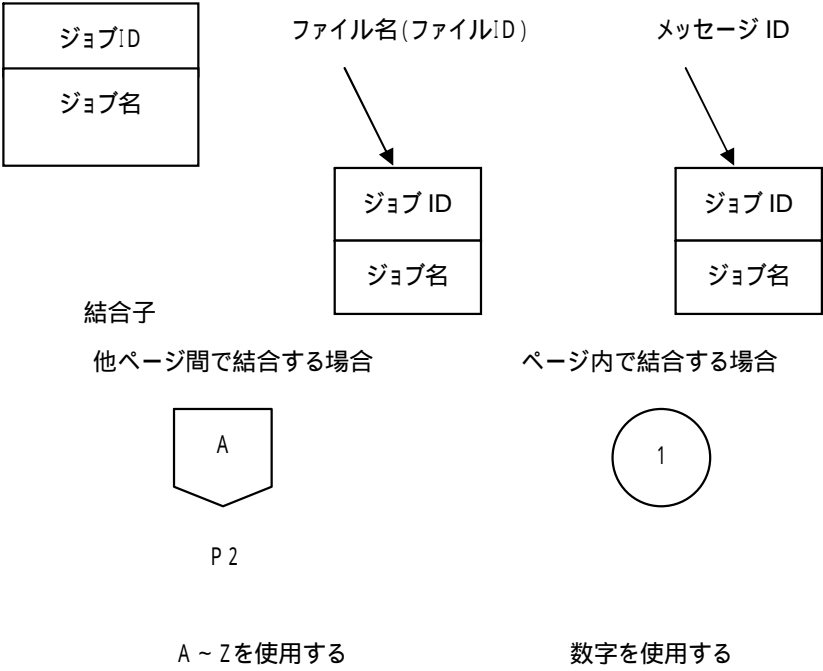
SS12	ジョブネット構成図 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/1	
				第 版		

1 目的

ジョブネットを構成するジョブとジョブの関連を明確にする。なお、作成単位は「ジョブネット」とする。

2 記述例補足

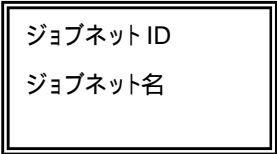
(1) 記号説明



ジョブネットの範囲の記述



先行ジョブネット、後続ジョブネットの記述



SS12	ジョブネット構成図	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				運行管理サブシステム	初版	2004/3/1	
					第 版		
ジョブネットID	L47JN002						
ジョブネット名	月次実績登録						
処理サイクル	月次						
起動条件	毎月 1 日 (休日の場合は翌日 営業日) 21:00 ~						
<div>【ジョブネットID】 (必須) ジョブネットを識別するIDを記述する。</div> <div>【ジョブネット名】 (必須) ジョブネットを識別する名称を記述する。</div> <div>【処理サイクル】 (必須) ジョブの処理サイクルを記述する。 例) 日次、週次、月次等</div> <div>【起動条件】 (必須) どういう条件の時、当ジョブを起動するかを記述する。 日付指定・月末指定・曜日指定・時刻指定・オンラインから依頼・ファイル受信 (作成) 後・イベント (メッセージ事象) の発生・手動などの詳細条件を記述する。</div>							
ジョブネット構成図							
<div>【ジョブネット構成図】 (必須) ジョブとジョブの実行順番を明確にする。ジョブネットの起動条件がファイル作成やメッセージ事象の場合は、ファイル名やメッセージを記述する。</div> <pre>graph LR; L47JN001[L47JN001 日次実績登録] --> MJ001; subgraph Box; MJ001[MJ001 月次稼動実績 データ作成]; MJ002[MJ002 月次経費実績 データ作成]; MJ003[MJ003 月次実績登録]; end; MJ001 --> MJ003; MJ002 --> MJ003; MJ003 --> L47JN003[L47JN003 年次実績登録];</pre>							
備考							
<div>【備考】 (任意) ジョブネットを構成する上で注意事項 や制約がある場合、注意事項や制約 を記述する。</div>							

SS13	ジョブフロー図 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/1	
				第 版		

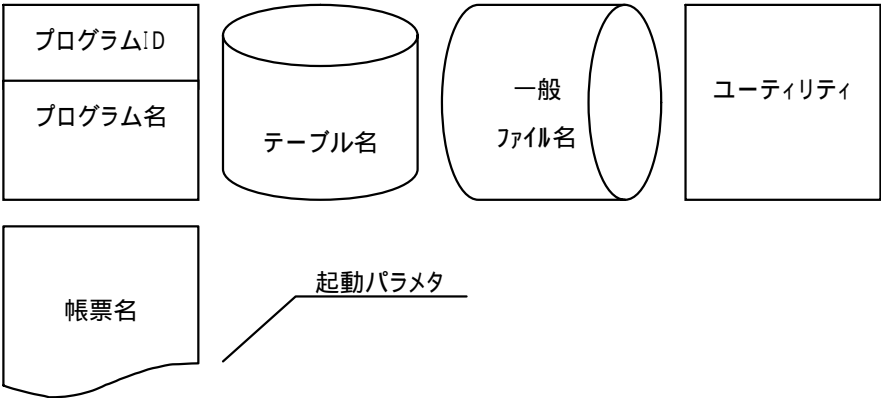
1 目的

運用を考慮したバッチジョブを明確にする。ジョブ内のプログラムの流れ及び処理サイクル、起動条件、機能概要を明確にする。なお、作成単位は「ユースケース」とする。

2 記述例補足

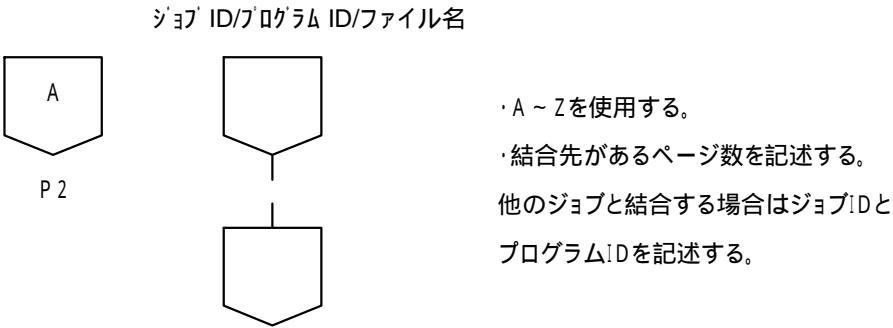
(1) 記号説明

記述内容は「ジョブフロー」の記述例を参照。
以下、補足として記す。



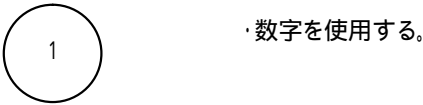
● 結合子

他ページ間で結合する場合



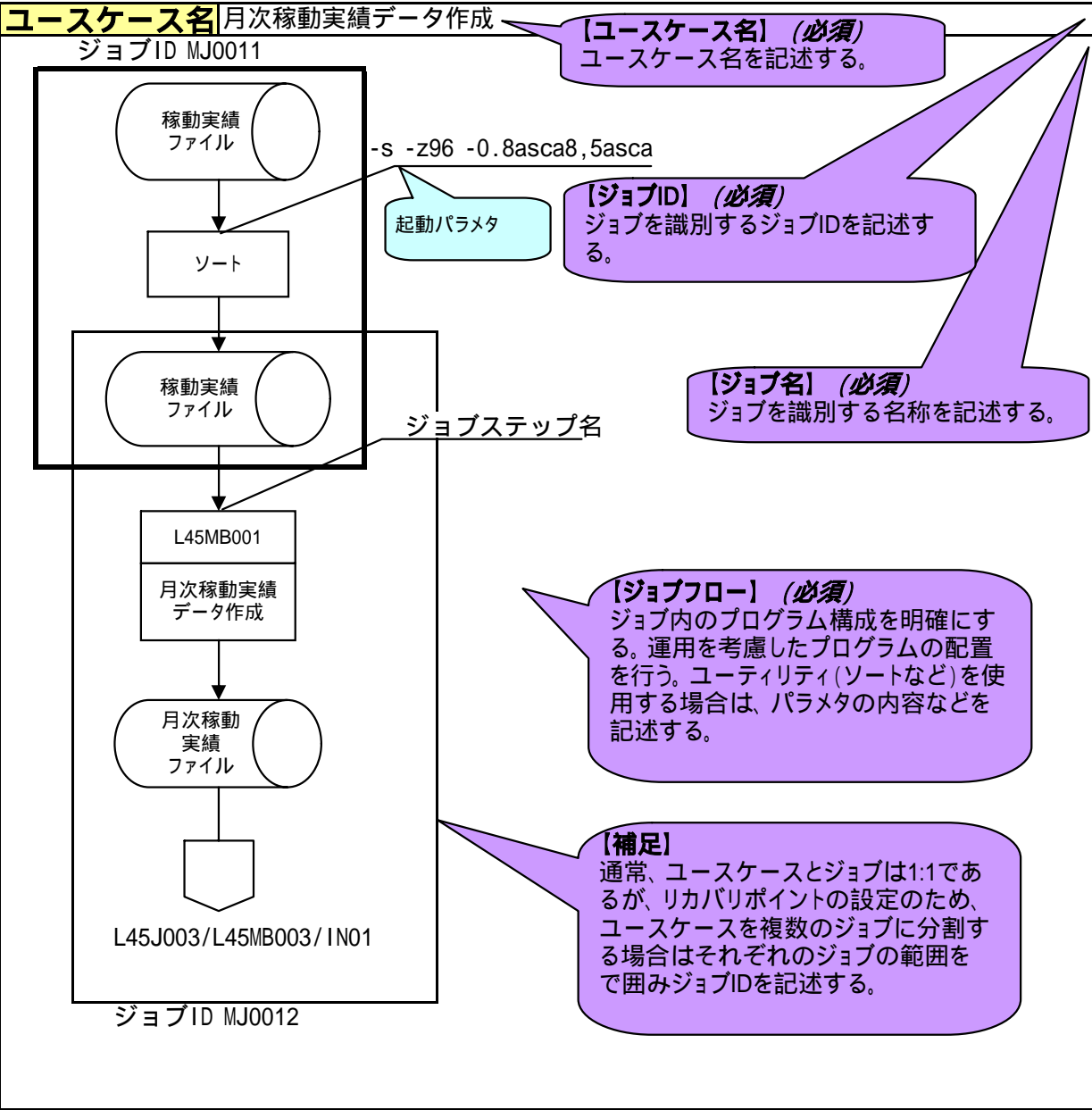
- ・ A ~ Z を使用する。
- ・ 結合先があるページ数を記述する。
- 他のジョブと結合する場合はジョブIDとプログラムIDを記述する。

ページ内で結合する場合



- ・ 数字を使用する。

SS13	ジョブフロー図	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/3/1	
				運行管理サブシステム	第 版		



SS14	ジョブネット一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/1	
				第 版		

1 目的

バッチ処理におけるジョブネットとジョブを一覧として管理し、起動されるバッチプログラムについても明確にする。

2 記述例補足

(1) ジョブネット名（必須）

ジョブネット名を記述する。() 付けて処理サイクルも記述する。

(2) ジョブネットID(必須)

ジョブネットID を記述する。

(3) 対応ユースケース名(必須)

ジョブネットに対応したユースケース名又はユースケースID を記述する。

(4) ジョブ名(必須)

ジョブ名を記述する。

(5) ジョブID(必須)

ジョブIDを記述する。

(6) 処理パターン(必須)

バッチアプリの処理パターンを記述する。

(7) リカバリ形態(必須)

リカバリ形態を記述する。

(8) 処理パターン（必須）

バッチアプリの処理パターンを記述する。

・更新

・抽出

・集計

など

(9) リバカリ形態（必須）

リカバリ形態を記述する。

・リラン

・リスタート

等

[illegible]

SS15	バッチプログラム一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/3/1	
				第 版		

1 目的

サブシステム内で使用するバッチプログラムを一覧で管理する。業務共通部品・システム共通部品・DBアクセス部品は共通部品一覧で管理するため、バッチプログラム一覧へは記述しない。

2 記述例補足

- (1) No. (必須)
連番とする。
- (2) ジョブ ID (必須)
ジョブ ID を記述する。
- (3) プログラム ID (必須)
プログラムを識別する。
プログラム ID を記述する。
- (4) プログラム名 (必須)
プログラム名を記述する。
- (5) 備考 (任意)
注意事項や別ドキュメントへの引継ぎ等、メモとして扱う。

SS15		バッチプログラム一覧		記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
						運行管理サブシステム	初版	2004/3/1	
							第 版		
No.	ジョブID	プログラムID	プログラム名	備考					
1	XXXXXX001	L45MB001	月次稼働実績データ作成						
2		L45MB002	月次経費実績データ作成						
3		L45MB003	月次実績登録						

SS16	システム内メッセージ定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

必要となるシステムメッセージ(業務メッセージ以外)を定義し、メッセージ ID を設定する。また、全システムにおけるメッセージを一元管理し、同内容のメッセージが複数存在しないように管理する。

2 記述例補足

(1) メッセージ ID(必須)

命名規約に沿って、メッセージ ID を記述する。

(2) レベル(必須)

表示するメッセージのレベルを記述する。

	レベル	内容
1	エラー	エラーの場合
2	警告	警告の場合
3	情報	通知の場合
4	確認	確認の場合

(3) メッセージ内容(必須)

メッセージ ID に対応するメッセージ(文言)を記述する。

メッセージ中に可変要素がある場合は、[%x] で記述し、可変であることを示す。

(x は要素番号で1～)

[illegible]

SS17	業務共通機能一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

作成する共通部品を洗い出し一覧にし整理するとともに、業務共通部品・システム共通部品などの切り分けを行う。

2 記述例補足

(1) 分類(必須)

共通部品の分類を記述する。

< 記述例 >

	分類	内容
1	システム共通	システム内共通部品の場合
2	業務共通	業務間共通部品の場合
3	業務固有	業務内共通部品の場合

(2) 共通部品名(英字)、共通部品名(日本語)(必須)

共通部品名(英字)、共通部品名(日本語)を記述する。

(3) 機能概要(必須)

機能の概要を完結に記述する。

(4) 使用個所(必須)

共通部品が使用される個所に を記述する。

使用される個所が複数ある場合、全てに を記述する。

< 記述例 >

	形式	内容
1	SV	サードプレート
2	EJB	EJB
3	バッチ	バッチ

SS18	業務共通機能定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

業務間、サブシステム間で用いる共通部品に必要な操作(メソッド)を明確にし、メソッド毎に必要な引き渡す情報・結果の情報を定義する。

実際の各部品の API は、PS 工程以降に詳細設計され、JavaDoc としてドキュメント化される。

本ドキュメントでは、各部品の機能概要としての位置付け。

2 記述内容補足

(1) 共通部品名(必須)

対象となる共通部品の日本語名称または英字名称を記述する。

(2) メソッド名(日本語)(必須)

共通部品内メソッドの日本語名称を記述する。

(3) 受渡情報(必須)

メソッドへ受渡す情報(引数に相当するもの)を記述する。

配列の場合は[]を付与して表す。

引数が無い場合は『 - (ハイフン)』を記述する。

	ケース	記述例
1	配列の場合	申請権限マスタ Msg[] など
2	値の場合	Str(従業員番号) など
3	引数が無い場合	-

(4) 復帰情報(必須)

メソッドから復帰する情報(戻り値)を記述する。

戻り値が配列の場合は[]を付与して表す。

戻り値が無い場合は『 - (ハイフン)』を記述する。

< 記述例 >

	ケース	記述例
1	配列の場合	申請権限マスタ ETMsg[] など
2	値の場合	Str(XML データ) など
3	戻り値が無い場合	-

(5) 機能概要(必須)

メソッドの機能概要を完結に記述する。

(6) 関連入出力情報(任意)

必要な DB、ファイルのアクセスや、使用する部品名を記述する。

SS19	ファイル一覧 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

システム内で使用する全てのファイル(一時ファイルや外部設定ファイルを含む)を洗い出し、ファイルの情報を一覧にする。

当ドキュメントは、システムによっては存在しない場合もあるため、必要に応じて作成する。

2 記述例補足

(1) 分類(必須)

ファイルの分類を記述する。

< 記述例 >

	分類	内容
1	システム設計	システム設定ファイルの場合
2	ログ	ログ出力ファイルの場合
3	中間ファイル	中間ファイルの場合

(2) ファイル名(英字)、ファイル名(日本語)(必須)

ファイル名(英字)、ファイル名(日本語)を記述する。

ファイル名が可変の場合は、『*(アスタリスク)』などを記述し、可変であることを示す。

(3) I/O(必須)

ファイルの Input・Output 種別を記述する

< 記述例 >

	I/O	内容
1	I	Input 用ファイルの場合
2	O	Output 用ファイルの場合
3	I/O	In/Out 両用のファイルの場合

(4) 形式(必須)

ファイルの形式を記述する。

< 記述例 >

	形式	内容
1	TXT	TEXT ファイル
2	CSV	CSV ファイル
3	BIN	バイナリファイルの場合
4	SF	COBOL 順ファイル
5	PROP	JAVA の Properties ファイル

(5) 配置ディレクトリ(任意)

対象ファイルの配置先ディレクトリ名を絶対パス指定で記述する。

配置先が可変の場合は、『*(アスタリスク)』などを記述し、可変であることを示す。

SS19	ファイル一覧	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

No.	分類	ファイル名(英字)	ファイル名(日本語)	I/O	形式	配置ディレクトリ	備考
1	システム設定	SysEnv.properties	動作環境設定	I	PROP	D:¥Web¥properties	
2	ログ	XXOperationLog.log	異常ログ	O	TXT	D:¥Web¥webapps¥log	
3		XXPerformanceLog.log	性能測定ログ	O	TXT	D:¥Web¥webapps¥log	
4		XXDebugLog.log	デバックログ	O	TXT	D:¥Web¥webapps¥log	
5	中間ファイル	KadoJisseki.csv	稼働実績ファイル	I/O	CSV		
6		KeihiJisseki.csv	経費実績ファイル	I/O	CSV		
7		GetujiKadoJisseki.bin	月次稼働実績ファイル	I/O	BIN		
8		GetujiKeihiJisseki.bin	月次経費実績ファイル	I/O	BIN		
9	ダウンロード	*	部署別経費集計ファイル	O	TXT	*	

【分類】(必須)
システム分類を記述します。
以下のようなもので分類する。

- システム設定
- ログ
- 中間ファイル

など

【ファイル名(英字)] (必須)
命名規約に従い、ファイル名を英字で記述する。
可変の場合は『*(アスタリスク)』などで記述すること。

【ファイル名(日本語)] (必須)
ファイル名を日本語で記述する。

【I/O] (必須)
ファイルのInput、Output種別を記述する。

- I ... Input用ファイル
- O ... Output用ファイル
- I/O ... In/Out両用

【形式】(必須)
ファイルの形式を記述する。

- TXT ... テキストファイル
- CSV ... CSVファイル
- SF ... COBOL順ファイル
- PROP ... JavaのPropertiesファイル

など

【配置ディレクトリ】(任意)
ファイルの配置先ディレクトリを絶対パス指定で記述する。
可変の場合は『*(アスタリスク)』などで記述すること。

SS20	ファイル項目定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

対象ファイル(プログラム間で使用する一時ファイルなど)の項目属性・桁数などを明確にする。
当ドキュメントは、システムによっては存在しない場合もあるため、必要に応じて作成する

2 記述例補足

(1) ファイル名(必須)

対象となるファイルの日本語名称または英字名称を記述する。

(2) 形式(必須)

ファイルの形式を記述する。

<記述例>

	形式	内容
1	TXT	TEXT ファイル
2	CSV	CSV ファイル
3	BIN	バイナリファイルの場合
4	SF	COBOL 順ファイル
5	PROP	JAVA の Properties ファイル

(3) レベル(任意)

単純な繰り返し項目や明細の様な一纏まりの項目を繰返す場合、纏まりを表現するためにレベル番号を記述する。

番号は奇数で記述する。

(4) 項目名(日本語)(必須)、項目名(英字)(任意)

ファイルの項目名を表す日本語名称、英字名称を記述する。

(5) 配列(必須)

対象の項目が、配列形式で値を保持する場合に、配列数を記述する。

配列数が可変の場合は、nなどを記述し、可変であることを示す。

SS20	ファイル項目定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

(6) 型 (必須)

データ項目の型を、以下の様に記述する。[注1]

<記述例>

No	型	備考
1	数値	半角 + - , . 0~9
2	英数字	半角英数字、記号[注2]
3	半角	半角混在(英数字、カナ、記号)[注2]
4	全角	全角混在(英数字、カナ、記号)[注2]
5	混在	半角、全角混在[注2]

[注1]:システム特性に合わせて必要な“型”の追加も可。

[注2]:詳細チェック仕様は、採用する共通部品仕様で確認し、
確定する事。

(7) データタイプ名(任意)

インタフェース項目のデータタイプ名を記述する。

(8) 桁数(整数部桁数、小数部桁数)(任意)

桁数制約、固定桁があるファイル形式の場合、データ桁数を記述する。

数値型で小数部がある場合は、整数部桁数 . 小数部桁数とする

文字数でカウントする(**全角も1文字**)

3 桁カンマ区切り、符号なども文字数としてカウントする。

SS20	ファイル項目定義	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/1/13	
					第 版		

ファイル名		稼働実績ファイル	形式	CSV		桁数		備考(値制約、項目説明)
No.	レベル	項目名(日本語)	項目名(英字)	データタイプ名	型	整数部桁数	小数部桁数	
1	01	出荷日	shuk					
2	03	車番	kur		数値			
3	03	支店コード	siten	支店コード				
4	03	常駐基地コード	jotyukichiCd	常駐基地コード				
5	03	取引先コード	torihikisakiCd	取引先コード				
6	03	取引先名	torihikisakiNm		全角	30		
7	03	発注担当者コード	hattyutantosyaCd	発注担当者コード				
8	03	発注担当者名	hattyutantosyaNm		全角	30		
9	03	発注担当者電話番号	hattyutantosyaTel	電話番号				
10	03	納品場所コード	nohinbasyoCd	納品場所コード				
11	03	納品指定日	nohinshiteibi	日付				
12	03	便区分	binkubun	便区分				
13	03	指定商品数	shiteishohinsu		数値	3		
14	03	指定商品一覧	shiteishohinichiran					
15	05	JANコード	janCd	JANコード				
16	05	商品名	shohinNm		全角	50		
17	05	取引先商品コード	torihikis	取引先商品コード				
18	05	発注数	hattyusu		数値	3		
19	05	原単価	gentanka		数値	8		
20	05	特化区分	tokkaKbn	特化区分				
21	05	納品予定日	nohinyote	日付				
22	03	発注金額	hattyuKin		数値	8		
23	03	発注合計金額	hattyugoukeiKin		数値	10		
24	03	発注番号	hattyuNo		数値	8		

【ファイル名】(必須)
ファイル名を記述する。

【形式】(必須)
ファイルの形式を記述する。
TXT ... テキストファイル
CSV ... CSVファイル
SF ... COBOL順ファイル
PROP ... JavaのPropertiesファイル
など

【配列】(必須)
当該項目項目が配列
形式で値を保持する場
合に配列数を記述す
る。
n ... 可変値

【レベル】(任意)
項目の階層レベルを
記述する。
01,03,05,...奇数で採
番する。

【項目名(日本語)】
(必須)
データの項目名を
日本語で記述する。

【項目名(英字)】(任意)
命名規約に従い、項目名を
英字で記述する。

【データタイプ名】
(任意)
インタフェース項目のデータタイプ
名を記述する。

【型】(必須)
型を記述する。

【桁数】(任意)
・桁数制約、固定桁があるファイル形式の場
合、データの桁数を記述する。
・数値型で少数部がある場合は整数部桁数、
小数部桁数とする。
例) 999.99 ... 整数部3桁小数部2桁

2.4 PS工程ドキュメント



PS01	Web ハンドラロジック定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

Web ハンドラ単位にアクション毎の業務ロジックを定義し、呼び出す CBS ハンドラ、メソッドを明確にする。

2 記述例補足

(1) Web ハンドラ名 (必須)

本ドキュメントを作成する単位となる。

Web ハンドラ名を日本語名または英字名で記述する。

(2) 画面名 (必須)

アクションが発生する画面名を、日本語名または画面 ID で記述する。

(3) アクション (必須)

アクション名を記述する。

「SS02:画面遷移定義」に記述されているイベント単位で記述する。

(4) 処理内容 (必須)

Web 層で実装される処理のみの記述にとどめる。「UI02-3:画面項目定義」に記載されている入力チェック処理等は冗長になるため記述しない。

・順処理や条件分岐など処理の流れについて上から順に記述する。

・画面遷移やメッセージ表示などユーザインタフェースについて記述する。

・メッセージを記述する場合はメッセージ ID も併記すること。

・入力エラー画面遷移やエラー判定処理も記述する。

・システム異常等の定型的な処理は記述しない。

・コーディングレベルで検討するような、内部的なフラグ制御までは記述しない。

処理フロー内の条件には以下を記述する。

< 記述例 >

	ケース	処理内容
1	条件分岐の場合	IF、ELSE、ELSE-IF、END-IF など
2	繰り返しの場合	LOOP、END-LOOP など

(5) CBS ハンドラ名、CBS メソッド名 (必須)

Web ハンドラより呼び出す CBS ハンドラ名、CBS メソッド名を、日本語名または英字名で記述する。

「SS01:ユースケース機能構成」に記述されている CBS ハンドラ名、CBS メソッド名と対応させる。

(6) メッセージ ID (必須)

「UI12:業務メッセージ定義」、および「SS16:システム内メッセージ定義」に記述されているメッセージ ID と対応させる。

PS02	CBS ハンドラロジック定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

CBS ハンドラに実装するメソッドと処理内容、また処理による入出力を明確にする。

2 記述例補足

(1) CBS ハンドラ名 (必須)

CBS ハンドラ名を日本語名または英字名で記述する。

(2) メソッド名 (必須)

CBS ハンドラに実装するメソッド名を記述する。

(3) CBSMsg スキーマ名 (必須)

メソッドの使用される、引数および復帰値の CBSMsg スキーマ名を、日本語名または英字名で記述する。

(4) 処理内容 (必須)

実装する処理ロジック内容を記述する。

・処理順に従って上から記述する。

・「繰返し」や「分岐」といった条件も記述する。

・標準の方式として決まっている定型処理は記述しなくてよい。(例: ログ出力、システム異常)

・共通処理など他のドキュメントを参照する場合は対応する [] で記述する。

(5) 入出力 (必須)

入出力を行うテーブルやファイルとアクセスパターンを記述する。

C...CREATE

R...READ

U...UPDATE

D...DELETE

(6) 呼出す CBM/SQLF 名 (任意)

呼出すメソッドの呼出し元を記述する。

(7) メッセージ ID (必須)

メソッドが通知するメッセージの ID を記述する。

PS03	バッチロジック定義 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/1/13	
				第 版		

1 目的

バッチアプリで実装する処理ロジックを定義する。

併せて入出力先テーブルとテーブルアクセスに使用する共通部品の関係性を明確にする。

2 記述例補足

(1) バッチプログラム名 (必須)

バッチプログラム名を記述する。

(2) パターン分類 (必須)

バッチプログラムのパターン分類を記述する。

(例: 集計、抽出、更新)

(3) リカバリ形態 (必須)

バッチプログラムのリカバリ形態を記述する。

(4) 実装箇所 (必須)

バッチアプリのフレームワークに従い、実装する部品のメソッド名等を記述する。

(5) 処理内容 (必須)

メソッドの具体的な処理内容を記述する。

処理順に従って上から記述する。

「繰返し」や「分岐」といった条件も記述する。

標準の方式として決まっている定型処理は記述しなくてよい。(例: ログ出力、システム異常)

共通処理など他のドキュメントを参照する場合は対応するメソッドを [] で記述する。

(6) 入出力 (必須)

入出力を行うテーブルやファイルとアクセスパターンを記述する。

C...CREATE

R...READ

U...UPDATE

D...DELETE

(7) 呼出す CBM/SQLF (任意)

共通部品として使用する CBM や SQLFacility 名とメソッドを記述する。

(8) メッセージ ID (任意)

メソッドが通知するメッセージの ID を記述する。

PS03		システム名		サブシステム名		パターン分類		リカバリ形態		単純リラン		PT結果		備考	
バッチロジック定義		記述例		バッチプログラム名		発注確定		パターン分類集計		リカバリ形態		単純リラン		PT結果	
No.	実装箇所	処理内容		入出力		呼出すCBM/SQLF		メソッド名		メッセージ		実施日		結果	
				テーブル	CRUD	CBM/SQLF名									
1	前処理	起動パラメタの処理年月を元に、該当する発注データを検索対象とする。 検索条件： 発注データ・発注日の年月 = 処理年月 and 発注データ・状態 not= 取消 and 発注データ・発注元コード = 取引先マスタ・発注元コード		発注テーブル 取引先マスタ	R R	発注集計SF		selectTougetsu							
2		発注集計中間ファイルをオープン。													
3	ループ制御判定	検索対象とした発注データの処理が完了するまでループ。													
4	ループ処理	発注データにひもづく発注明細データn件を読み込み。 検索条件：発注データ・発注番号 = 発注明細・発注番号 読込んだ発注明細データを【明細集計ロジック】に従い集計。 集計データを発注集計中間ファイルに書き出し。		発注明細テーブル	R	発注CBM		発注番号指定明細読込							
7		集計結果としてメッセージログにトランザクション		発注集計中間ファイル	C	CSV出力部品									
8	後処理	発注集計中間ファイルへの書き出しがゼロ件だった場合は、処理対象なしのメッセージをバッチメッセージログに書き出し。		バッチメッセージログ	C	バッチメッセージログ		printMessage							
10					C	バッチメッセージログ		printMessage		COM00030					

【パターン分類】(必須)
バッチプログラムのパターン分類を記述する。

【バッチプログラム名】(必須)
バッチプログラム名を記述する。

【テーブル名等】
入出力の名称を記述。
例) テーブル名、ファイル名、帳票名、外部システムI/F名

【リカバリ形態】(必須)
バッチプログラムのリカバリ形態を記述する。

【条件】(必須)
処理内容の「繰返し」や「分岐」といった条件を記述する。
入れ子になる場合はインデントを下げる。

【テーブル】(必須)
入出力を行うテーブルやファイルを記述する。

【メッセージID】(任意)
通知するメッセージIDを記述する。

【実装箇所】(必須)
バッチアプリのフレームワークに従い、実装する部品のメソッド名等を記述する。

【処理内容】(必須)
処理内容を記述する。
・処理順に従って上から記述する。
・標準の方式として決まっている定型処理は記述しなくてよい。
(例： ログ出力、システム異常)
・共通処理など他のドキュメントを参照する場合は対応するメソッドを[]で記述する。

【CRUD】(必須)
テーブルアクセスの種別を記述する。
C...CREATE
R...READ
U...UPDATE
D...DELETE

【呼出すCBM/SQLF名】(任意)
共通部品として使用するCBMやSQLFacility名を記述する。

2.5 PG/PT工程ドキュメント



PT01	プログラムテスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

1 目的

テスト項目もれを事前に防止し、品質の向上を図る。

2 記述例補足

〔プログラムテスト仕様書兼成績書の表紙〕

(1) サブシステム ID、サブシステム名(必須)

サブシステム ID、サブシステム名称を記述する。

(2) 区分(必須)

プログラム単位でテストを行う場合

- ・オンライン(クライアント) ... クライアントで動作するプログラム
- ・オンライン(サーバ) ... サーバで動作するプログラム
- ・オンライン(クライアント/サーバ) ... クライアントとサーバ両方で動作する
プログラム
- ・バッチ ... バッチで動作するプログラム

クライアントとサーバを接続してテストをする場合

- ・オンライン(クライアント - サーバ) ... クライアントとサーバを連携してテストする。

(3) プログラム名(必須)

テストを行う Web ハンドラー・C B S ハンドラー・C B M・共通部品・バッチプログラム等の
日本語名称を記述する。また、名称の後にカッコして英字名を記述する。

(4) 開発規模(必須)

テスト対象プログラムの概略規模(Ks)を記述する。

(5) テスト項目数(必須)

- ・テスト項目設定数
プログラムテスト仕様書兼成績書のテスト項目数を記述する。
- ・テスト項目設定率
ステップ数1Ksあたりのテスト項目設定数を記述する。
 $\text{テスト項目設定率} = \text{テスト項目設定数(項目)} / \text{開発規模(Ks)}$

(6) エラー件数(必須)

- ・エラー検出件数
テストを実施した結果、エラーが発生した件数を記述する。
エラー検出件数はプログラムテスト仕様書兼成績書のテスト結果欄の“×”の数を
記述する。
- ・エラー検出率
ステップ数1Ksあたりのエラー検出件数を記述する。
 $\text{エラー検出率} = \text{エラー検出件数(件)} / \text{開発規模(Ks)}$

(7) 原因分類 (必須)

プログラムテスト仕様書兼成績書のテスト結果欄より原因分類ごとの件数を記述する。

PT01	プログラムテスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(8) 性能(任意)

性能評価を記述する。(プロジェクトで記述の要否を定める。)

正常系でできる限り処理ルートを網羅するテストパターンについて

目安として

- ・オンライン:入力画面をほぼ全て入力後、登録する処理および検索処理
- ・バッチ:更新処理および参照処理

データ件数、処理時間(レスポンス)、SQL発行回数・評価を記述する

- ・処理時間:システム共通部品の開始・終了時間より取得する。
- ・SQL発行回数:SQLトレースより情報を取得する。
- ・評価:設計時作成レビューシート(SQL発行回数/性能目標値)とテスト結果を比較して考察を記述する。
(SQLトレース情報とSQLコーディング規約の禁止事項をもとに検証を行う)

(9) 添付資料(任意)

プログラムテスト仕様書兼成績書に添付する資料の名称を記述する。

(10) 備考(任意)

(11) 担当者/検証者(必須)

担当者 検証者の順で日付と名前を記述する。

(プログラムテスト仕様書兼成績書の本体)

(1) プログラム名(必須)

テストを行う Web ハンドラー・C B S ハンドラー・C B M・共通部品・バッチプログラム等の日本語名称を記述する。また、名称の後にカッコして英字名を記述する。

(2) テスト分類(任意)

テスト項目を分類ごとに切り分けを行う。

分類例	説明
初期表示	初期表示の状態
画面編集	入力編集、表示内容の変更など
画面制御	画面遷移、ボタン使用可/不可、色など
電文編集	電文(メッセージキャリア)への編集など
電文制御	電文のチェック、送受信処理など
ファイル編集	ファイルの編集
ファイル操作	ファイルのオープン、クローズ、ファイルチェックなど
D B 編集	データベースの編集
D B 操作	データベースの追加・更新・削除・参照、データベースチェックなど
外部連携	他プログラムやシステムとの連携など
プログラム制御	自プログラムの開始・終了、メッセージ出力など

(3) 正常/異常(必須)

テスト項目が正常系テストか異常系テストか記述する。

- ・正常 ... 正常系テスト
- ・警告 ... 警告系テスト
- ・エラー ... エラー系テスト
- ・異常 ... 異常系テスト

PT01	プログラムテスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(4) テスト項目(必須)

テストを行う内容を詳細に記述する。

(5) テスト条件(必須)

テスト項目のテストを行う時に成り立っている条件がある場合に条件を記述する。

(6) 予想結果(任意)

テストで予想される結果を記述する。

(7) 確認方法(必須)

テスト結果を確認する方法(チェック対象・チェック手段など)を記述する。

(8) 検証物件(任意)

テスト実施時に記述する。

テスト結果を検証するための物件(資料)がある場合、物件名(文書コード)を記述する。

例)画面ハードコピー(XXXXX - XXX)

実行結果リスト (XXXXX - XXX) など

(9) 担当者(必須)

テストを実施した担当者名を記述する。

(10) 回(必須)

テスト項目内で1から連番とする。テストを実施した回数を表す。(当ドキュメント作成時は5回まで記述し、テスト回数が5回を超えた場合に回数を追加する。)

(11) 実施日(必須)

テストを実施した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD (年:4桁,月:2桁,日:2桁)で記述する。

1回目の欄から実施日を記述し、エラー発生 修正を行った後、再度テストを実施した場合は2回目の欄、3回目...と順次実施日を記述する。

(12) エラー原因(必須)

テストを実施した結果、エラーが発生した場合は左欄に“×”を記述し右欄に原因分類を記述する。

その他の場合は()に原因を記述する。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1:プログラム間インターフェース | 6:環境ミス |
| 2:ファイル間インターフェース | 7:オペレーションミス |
| 3:処理ロジック | 8:データミス |
| 4:データ領域定義ミス | 9:仕様どおり |
| 5:連携制御ミス | 10:その他() |

正常にテストが完了した場合は必ず左欄に“ ”を記述する。

(13) 完了日(必須)

テストが完了した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD (年:4桁,月:2桁,日:2桁)で記述する。

PT01	プログラムテスト仕様書兼成績書(表紙)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

サブシステムID	L57
サブシステム名	受注サブシステム
区分	オンライン(サーバ)
プログラム名	受注データ取得(JutyuDataSyutokuHandler)

開発規模 _____ 1 KS

テスト項目数

 テスト項目設定数 _____ 65 項目

 テスト項目設定率 _____ 65 項目 / Ks

エラー件数

 エラー検出件数 _____ 8 件

 エラー検出率 _____ 8 件 / Ks

原因分類

1:クラス間インタフェース _____ 0 件

2:ファイル間インタフェース _____ 0 件

3:処理ロジック _____ 6 件

4:データ領域定義ミス _____ 1 件

5:連携制御ミス _____ 0 件

6:環境ミス _____ 0 件

7:オペレーションミス _____ 0 件

8:データミス _____ 1 件

9:仕様どおり _____ 0 件

10:その他 _____ 0 件

性能

登録処理				
データ件数	件			
処理時間	m	s	ms	
SQL発行	回			
評価				

添付資料

(資料名: データ検証時の実行ログ)

(資料名: 画面ハードコピー)

(資料名: テーブルのダンプリスト)

(資料名:)

(資料名:)

(資料名:)

(資料名:)

(資料名:)

備考

検証者	担当者

PT01			プログラムテスト仕様書兼成績書 (本体)				システム名		サブシステム名				版数		作成日		作成者	
													初版		2004/5/17			
													第 版					
プログラム名			受注データ取得(JutyuDataSyutokuHandler)															
No.	テスト分類	正常 異常	テスト項目	テスト条件	予想結果	確認方法	検証物件	担当者	回	実施日	テスト 結果	エラー原因	完了日	備考				
1	初期表示	正常	・タイトルバーの確認 タイトルバーに画面名が表示されるか。	画面を表示する。		画面レイアウト定義にてチェック	L57R004-K001	山本	1	2003/10/12			2003/10/12					
									2									
									3									
									4									
									5									
3	初期表示	正常	・ボタンバーの確認 ボタンバーに全てのボタンが表示されるか。	画面を表示する。		画面レイアウト定義にてチェック	L57R004-K001	山本	1	2003/10/12			2003/10/12					
									2									
									3									
									4									
									5									
4	初期表示	正常	・パネルの確認 パネルに配置した画面項目部品が全て表示されるか	画面を表示する。		画面レイアウト定義にてチェック	L57R004-K001	山本	1	2003/10/11			2003/10/11					
									2									
									3									
									4									
									5									
5	初期表示	正常	・各画面の初期表示確認	画面を表示する。		画面項目定義にてチェック	L57R004-K002 L57R004-K003 L57R004-K004	山本	1	2003/10/11			2003/10/11					
									2									
									3									
									4									
									5									
6	画面制御	正常	・タブキーの確認 項目から次の移動可能な項目へ移動するか。	画面パネルを表示し、フォーカス位置を確認し、タブキーを押す。		画面設計規約にてチェック	L57R004-K005	山本	1	2003/10/12			2003/10/12					
									2									
									3									
									4									
									5									
7	画面制御	正常	・タブキーの確認 画面上最後の項目の次への遷移先は、画面左上へ移動するか。	画面パネルを表示し、フォーカス位置を画面上最後の項目へ移動し、タブキーを押す。		画面設計規約にてチェック	L57R004-K006	山本	1	2003/10/12			2003/10/12					
									2									
									3									
									4									
									5									
8	画面編集	正常	画面項目定義書の型、桁数、値の範囲に沿った文字の入力	フィールドに文字入力を行う。		画面項目定義にてチェック	L57R004-K007	山本	1	2003/10/11	×	3:処理エラー	2003/10/13					
									2	2003/10/12	×	3:処理エラー						
									3	2003/10/13								
									4									
									5									
9	画面編集	正常	遷移先画面表示定義に従った表示の確認 項目に値が設定されていることを確認	定義書と実際の画面内容と比較する。		遷移先画面表示定義にてチェック	L57R004-K011	山本	1	2003/10/13			2003/10/13					
									2									
									3									
									4									
									5									

2.6 IT工程ドキュメント



IT01	結合テスト成績書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

1 目的

結合テスト項目を明確にする。テスト項目もれを事前に防止し、品質の向上を図る。

2 記述例補足

〔結合テスト仕様書兼成績書の表紙〕

(1) サブシステム ID、サブシステム名(必須)

サブシステム ID、サブシステム名称を記述する。

(2) 区分(必須)

IT1,IT2,IT3 等プロジェクトで定めた結合テスト区分を記述する

(テスト区分の事例は、当 ComponentAA 開発標準 テスト技術編を参照。)

(3) 開発規模(必須)

テスト範囲の概略規模 (Ks) を記述する。

(4) テスト項目数(必須)

・テスト項目設定数

テスト仕様書兼成績書のテスト項目数を記述する。

・テスト項目設定率

ステップ数 1Ks あたりのテスト項目設定数を記述する。

テスト項目設定率 = テスト項目設定数 (項目) / 開発規模 (Ks)

(5) エラー件数(必須)

・エラー検出件数

テストを実施した結果、エラーが発生した件数を記述する。

エラー検出件数はテスト仕様書兼成績書のテスト結果欄の“×”の数を記述する。

・エラー検出率

ステップ数 1Ks あたりのエラー検出件数を記述する。

エラー検出率 = エラー検出件数 (件) / 開発規模 (Ks)

(6) 性能(任意)

性能評価を記述する。(プロジェクトで記述の可否を定める。)

正常系でできる限り処理ルートを網羅するテストパターンについて

目安として

・オンライン: 入力画面をほぼ全て入力後、登録する処理および検索処理

・バッチ: 更新処理および参照処理

データ件数、処理時間 (レスポンス)、SQL 発行回数・評価を記述する

・処理時間: システム共通部品の開始・終了時間より取得する。

・SQL 発行回数: SQL トレースより情報を取得する。

・評価: 設計時作成レビューシート (SQL 発行回数 / 性能目標値) とテスト結果を比較して考察を記述する。

(SQL トレース情報と SQL コーディング規約の禁止事項をもとに検証を行う)

(7) 添付資料(任意)

テスト仕様書兼成績書に添付する資料の名称を記述する。

IT01	結合テスト成績書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(8) 備考(任意)

(9) テスト責任者 / 検証者 / 審査・承認(必須)

担当者 検証者の順で日付と名前を記述する。

審査・承認には、審査・承認者が合格・不合格および日付と名前を記述する。

〔結合テスト仕様書兼成績書(テストケース一覧)〕

(1) サブシステム ID(必須)

サブシステム ID を記述する。

(2) 区分(必須)

IT1、IT2、IT3 等プロジェクトで定めた結合テスト区分を記述する。

(3) テストケース ID(必須)

テストケースに付与した ID

なおテストケースとはプロジェクトで定めたテスト区分に従って、結合テスト範囲を括った単位をいう。

(4) テーブル名、ファイル名(必須)

テストケースで入出力対象となるテーブル名、ファイル名を記述する。

(5) テスト概要(必須)

テストケースのテスト概要を記述する。

(6) テストデータ (任意)

テストケースで使用するテストデータの管理 を記述する。

(7) テスト環境(必須)

テストケースで使用するテスト環境を記述する。

〔結合テスト仕様書兼成績書の本体〕

(1) テストケース ID(必須)

テストケース ID を記述する。

(2) テスト項目 ID(必須)

テストケース ID に対応した詳細テスト項目のIDを記述する。

(3) 正常 / 異常(必須)

テスト項目が正常系テストか異常系テストか記述する。

・正常 ... 正常系テスト

・警告 ... 警告系テスト

・エラー ... エラー系テスト

・異常 ... 異常系テスト

(4) テスト項目(必須)

テスト項目の内容を記述する。

(5) テスト条件(必須)

テスト項目のテストを行う時に成り立っている条件がある場合に条件を記述する。

IT01	結合テスト成績書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(6) 予想結果(必須)

テストで予想される結果を記述する。

(7) 確認方法(必須)

テスト結果を確認する方法(チェック対象・チェック手段など)を記述する。

(8) 検証物件(任意)

テスト実施時に記述する。

テスト結果を検証するための物件(資料)がある場合、物件名(物件コード)を記述する。

例)画面ハードコピー(XXX - XXXX - XXX)

実行結果リスト(XXX - XXXX - XXX) など

(9) 回(必須)

テスト項目内で1から連番とする。テストを実施した回数を表す。

(10) 実施日(必須)

テストを実施した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD(年:4桁,月:2桁,日:2桁)で記述する。

1回目の欄から実施日を記述し、エラー発生 修正を行った後、再度テストを実施した場合は2回目の欄、3回目...と順次実施日を記述する。

(11) テスト結果(必須)

テストを実施した結果、エラーが発生した場合は左欄に“×”を記述し右欄に障害票の障害票Noを記述する。

正常にテストが完了した場合は左欄に“ ”を記述する。

(12) エラー原因(必須)

テストを実施した結果、エラーが発生した場合は左欄に“×”を記述し右欄に原因分類を記述する。

その他の場合は()に原因を記述する。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1:プログラム間インタフェース | 6:環境ミス |
| 2:ファイル間インタフェース | 7:オペレーションミス |
| 3:処理ロジック | 8:データミス |
| 4:データ領域定義ミス | 9:仕様どおり |
| 5:連携制御ミス | 10:その他() |

正常にテストが完了した場合は必ず左欄に“ ”を記述する。

(13) 完了日(必須)

テストが完了した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD(年:4桁,月:2桁,日:2桁)で記述する。

IT01	結合テスト仕様書兼成績書(表紙)	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
		記述例		初版 第 版	2004/5/17	

サブシステムID	L57
サブシステム名	受注サブシステム
区分	IT1

添付資料

(資料名: 検証時の画面ハードコピー)
(資料名: 検証時のデータ)
(資料名: 障害票 (障害発生時に添付))
(資料名:)
(資料名:)
(資料名:)

開発規模 1.2 KS
テスト項目数
テスト項目設定数 12 項目
テスト項目設定率 10 項目 / Ks
エラー件数
エラー検出件数 2 件
エラー検出率 1.7 件 / Ks

備考

性能

審査・承認	検証者	テスト責任者

IT01	結合テスト仕様書兼成績書 (テストケース一覧)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

サブシステムID	区分
L57	IT1

[illegible]

IT01	結合テスト仕様書兼成績書(本体)	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

テストケースID	L 57-039
----------	----------

[illegible]

2.7 ST工程ドキュメント



ST01	システムテスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

1 目的

システムの機能、性能、信頼性、運用性、セキュリティ等を検証するため、必要なテストケースを設定し、「システムテスト実行計画書」に対応したシステムテスト仕様書兼成績書を作成する。

2 記述例補足

〔システムテスト仕様書兼成績書の表紙〕

システムテスト仕様書兼成績書はシステム機能テストでは、サブシステム単位等で作成する。但し、システムの規模等により、作成単位を見直しする。

(1) サブシステム ID、サブシステム名(必須)

サブシステム ID、サブシステム名称を記述する。

(2) 区分(必須)

ST1、ST2 等プロジェクトで定めたシステムテスト区分を記述する

(3) 開発規模(必須)

テスト範囲の概略規模(Ks)を記述する。

(4) テスト項目数(必須)

・テスト項目設定数

テスト仕様書兼成績書のテスト項目数を記述する。

・テスト項目設定率

ステップ数1Ksあたりのテスト項目設定数を記述する。

テスト項目設定率 = テスト項目設定数(項目) / 開発規模(Ks)

(5) エラー件数(必須)

・エラー検出件数

テストを実施した結果、エラーが発生した件数を記述する。

エラー検出件数はテスト仕様書兼成績書のテスト結果欄の“×”の数を記述する。

・エラー検出率

ステップ数1Ksあたりのエラー検出件数を記述する。

エラー検出率 = エラー検出件数(件) / 開発規模(Ks)

(6) 添付資料(任意)

テスト仕様書兼成績書に添付する資料の名称を記述する。

(7) 備考(任意)

(8) 作成者 / 承認者(必須)

日付と名前を記述する。

ST01	システムテスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

〔システムテスト仕様書兼成績書(テストケース一覧)〕

(1) サブシステム ID(必須)

サブシステム ID を記述する。

(2) 区分(必須)

ST1、ST2 等プロジェクトで定めたシステムテスト区分を記述する。

(3) テストケース ID(必須)

テストケースに付与した ID。

なおテストケースとはプロジェクトで定めたテスト区分に従って、テスト範囲を括った単位をいう。

例えば、業務処理機能のテストケースでは、以下のテストケース抽出の観点がある。

- ・「SA02 業務機能概要概要」で洗い出された「業務プロセス」
- ・他システムインタフェース、サブシステムインタフェース
- ・日次処理、月次処理、年次処理
- ・「UI15 シナリオ記述」で洗い出された業務バリエーション
- ・例外処理
- ・限界値テスト
- ・エラー処理 等

(4) テストケース名(必須)

テストケース名を記述する。

(5) テストケース概要(必須)

テストケースで行うテスト概要を記述する。

(6) 実行組織(任意)

テスト実行組織名を記述する。

(7) テストデータ名(必須)

テストケースで使用するテストデータの管理 を記述する。

(8) テスト環境(必須)

テストケースで使用するテスト環境を記述する。

〔システムテスト仕様書兼成績書の本体〕

(1) テストケース ID(必須)

テストケース ID を記述する。

(2) テスト項目 ID(必須)

テストケース ID に対応した詳細テスト項目のIDを記述する。

ST01	システムテスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(3) 正常 / 異常 (必須)

テスト項目が正常系テストか異常系テストか記述する。

- ・正常 ... 正常系テスト
- ・警告 ... 警告系テスト
- ・エラー ... エラー系テスト
- ・異常 ... 異常系テスト

(4) テスト項目 (必須)

テストを行う内容を詳細に記述する。

(5) 確認方法 (必須)

テスト結果を確認する方法 (チェック対象・チェック手段など) を記述する。

(6) 検証物件 (必須)

テスト実施時に記述する。

テスト結果を検証するための物件 (資料) がある場合、物件名 (物件コード) を記述する。

< 例 >

画面ハードコピー (XXX - XXXX - XXX)

実行結果リスト (XXX - XXXX - XXX) など

(7) 回 (必須)

テスト実施時に記述する。

テスト項目内で1から連番とする。テストを実施した回数を表す。

(8) テスト実施日 (必須)

テストを実施した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD (年: 4桁, 月: 2桁, 日: 2桁) で記述する。

1回目の欄から実施日を記述し、エラー発生 修正を行った後、再度テストを実施した場合は2回目の欄、3回目...と順次実施日を記述する。

(9) テスト結果 (必須)

テストを実施した結果、エラーが発生した場合は左欄に“×”を記述し右欄に障害票の障害票Noを記述する。

正常にテストが完了した場合は左欄に“ ”を記述する。

(10) 障害 No (必須) (必須)

障害票を発行した場合、その管理 No を記入する。

(11) テスト完了日 (必須)

テストを完了した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD (年: 4桁, 月: 2桁, 日: 2桁) で記述する。

ST01	システムテスト仕様書兼成績書(表紙)	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

記述例

サブシステムID	L50
サブシステム名	契約サブシステム
区分	ST1

開発規模 120 KS
テスト項目数
テスト項目設定数 600 項目
テスト項目設定率 5 項目 / Ks
エラー件数
エラー検出件数 60 件
エラー検出率 0.5 件 / Ks

添付資料

(資料名: 検証時の画面ハードコピー)
(資料名: 実行結果リスト)
(資料名: 性能測定データ)
(資料名: 検証時のデータ)
(資料名: 障害票(障害発生時に添付))
(資料名:)

備考

承認者	作成者

ST01	システムテスト仕様書兼成績書 (テストケース一覧)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

サブシステムID	区分
L50	ST1

[illegible]

ST01	システムテスト仕様書兼成績書(本体)	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
		記述例		初版	2004/5/17	
				第 版		

テストケースID	L50-ST1-0030
----------	--------------

[illegible]

2.8 OT工程ドキュメント



OT01	運用テスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

1 目的

利用者による人間系を含めた新業務システムの仮運用によるシステム機能、性能、信頼性、運用性、セキュリティ等の妥当性確認（システム化要件、業務運用要件との整合性確認）および利用者、運用担当者の習熟、業務マニュアル、運用マニュアルの確認等の為、必要なテストケースを設定し「運用テスト実行計画書」に対応した運用テスト仕様書兼成績書を作成する。

2 記述例補足

〔運用テスト仕様書兼成績書の表紙〕

運用テスト仕様書兼成績書はシステム機能テストでは、サブシステム単位等で作成する。
但し、システムの規模等により、作成単位を見直しする。

(1) サブシステム ID、サブシステム名(必須)

サブシステム ID、サブシステム名称を記述する。

(2) テスト区分(必須)

OT1、OT2 等プロジェクトで定めたシステムテスト区分を記述する。

(3) 開発規模(必須)

テスト範囲の概略規模(Ks)を記述する。

(4) テスト項目数(必須)

・テスト項目設定数

テスト仕様書兼成績書のテスト項目数を記述する。

・テスト項目設定率

ステップ数1Ksあたりのテスト項目設定数を記述する。

テスト項目設定率 = テスト項目設定数(項目) / 開発規模(Ks)

(5) エラー件数(必須)

・エラー検出件数

テストを実施した結果、エラーが発生した件数を記述する。

エラー検出件数はテスト仕様書兼成績書のテスト結果欄の“×”の数を記述する。

・エラー検出率

ステップ数1Ksあたりのエラー検出件数を記述する。

エラー検出率 = エラー検出件数(件) / 開発規模(Ks)

(6) 添付資料(任意)

テスト仕様書兼成績書に添付する資料の名称を記述する。

(7) 備考(任意)

(8) 作成者 / 承認者(必須)

日付と名前を記述する。

OT01	運用テスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

〔運用テスト仕様書兼成績書(テストケース一覧)〕

(1) サブシステム ID(必須)

サブシステム ID を記述する。

(2) 区分(必須)

OT1、OT2 等プロジェクトで定めたシステムテスト区分を記述する。

(3) テストケース ID(必須)

テストケースに付与した ID。テストケースの洗い出しの観点としては、システムテストのテストケースの洗い出し観点に加え、以下の観点がある。

- ・利用頻度の高い業務
- ・部門間連携業務
- ・難易度の高い業務 等

(4) テストケース名(必須)

テスト業務名を記述する。

(5) テストケース概要(必須)

テスト業務概要を記述する。

(6) 実行組織(任意)

テスト実行組織名を記述する。

(7) テストデータ名(必須)

テスト業務で使用するテストデータの管理 を記述する。

(8) テスト環境(必須)

使用するテスト環境を記述する。

〔運用テスト仕様書兼成績書の本体〕

(1) テストケース ID(必須)

テストケース ID を記述する。

(2) テスト項目 ID(必須)

テスト業務 ID に対応した詳細テスト項目のIDを記述する。

(3) 正常 / 異常(必須)

テスト項目が正常系テストか異常系テストか記述する。

- ・正常 ... 正常系テスト
- ・警告 ... 警告系テスト
- ・エラー ... エラー系テスト
- ・異常 ... 異常系テスト

(4) テスト項目(必須)

テストを行う内容を詳細に記述する。

OT01	運用テスト仕様書 兼成績書 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/5/17	
				第 版		

(5) 確認方法(必須)

テスト結果を確認する方法(チェック対象・チェック手段など)を記述する。

(6) 検証物件(必須)

テスト実施時に記述する。

テスト結果を検証するための物件(資料)がある場合、物件名(物件コード)を記述する。

<例>

画面ハードコピー(XXX - XXXX - XXX)

実行結果リスト(XXX - XXXX - XXX) など

(7) 回(必須)

テスト実施時に記述する。

テスト項目内で1から連番とする。テストを実施した回数を表す。

(8) テスト実施日(必須)

テストを実施した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD(年:4桁,月:2桁,日:2桁)で記述する。

1回目の欄から実施日を記述し、エラー発生 修正を行った後、再度テストを実施した場合は2回目の欄、3回目...と順次実施日を記述する。

(9) テスト結果(必須)

テストを実施した結果、エラーが発生した場合は左欄に“×”を記述し右欄に障害票の障害票Noを記述する。

正常にテストが完了した場合は左欄に“ ”を記述する。

(10) 障害 No(必須)(必須)

障害票を発行した場合、その管理 No を記入する。

(11) テスト完了日(必須)

テストを完了した日付を記述する。形式は YYYY.MM.DD(年:4桁,月:2桁,日:2桁)で記述する。

OT01	運用テスト仕様書兼成績書(表紙)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

サブシステムID	L50
サブシステム名	契約サブシステム
区分	OT1

開発規模 120 KS
テスト項目数
テスト項目設定数 600 項目
テスト項目設定率 5 項目 / Ks
エラー件数
エラー検出件数 12 件
エラー検出率 0.1 件 / Ks

添付資料

(資料名: 検証時の画面ハードコピー)
(資料名: 実行結果リスト)
(資料名: 性能測定データ)
(資料名: 検証時のデータ)
(資料名: 障害票(障害発生時に添付))
(資料名:)

備考

承認者	作成者

OT01	運用テスト仕様書兼成績書 (テストケース一覧)	記述例	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
					初版	2004/5/17	
					第 版		

サブシステムID	区分
L50	OT1

[illegible]

2.9 付録



付録-1	変更履歴 記述要領	システム名	サブシステム名	版数	作成日	作成者
				初版	2004/2/20	
				第 版		

1 目的

各ドキュメントの変更履歴の一般書式を提供する。

2 記述要領

この変更履歴の使用方法については各プロジェクトで定める、「文書管理要領」等に従って下さい。

この変更履歴は、一般書式なので各ドキュメントの変更履歴として使用する場合はコピー及びカスタマイズして使用して下さい。

